

豊田厚生病院年報

令和4年度

Toyotakosei Hospital Annual Report 2022

豊田厚生病院理念

私たちはたえず
新しい医療のあり方を追求し
優しさと温かさを大切にして
地域の人たちと共に歩みます



基本方針

私たちは、次の基本方針に基づいて患者に適切な医療・保健・福祉サービスを提供します。

1. 公的病院として、地域住民の健康増進・病気の治療と予防に努めます。
2. 患者の権利に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉サービスの提供を行います。
3. 常に医学の進歩に目を向け、人的・設備的な質向上に努めます。
4. 地域の医療機関との緊密な連携を図り、患者中心の地域医療体系の構築に努めます。

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳
人格が尊重され人間としての尊厳を守られる権利があります。
2. 平等な医療を受ける権利
良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
3. 知る権利
病状・検査・治療について十分な説明を受ける権利があります。
4. 自己決定の権利
納得できるまで説明を受けた上で、自ら治療方法を選択する権利があります。また、セカンド・オピニオンを求めることができます。
5. プライバシーが守られる権利
ご自分の情報を承諾なしに第三者に提示されない権利があります。
6. 参加と協同の責任
患者は、これらの権利を守るため、医療従事者との信頼関係の構築に努め、医療に参加、協力する責任があります。

発刊にあたり

豊田厚生病院 病院長 服部直樹



新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や世界的な物価高騰への対応等様々な課題に直面する中、急激な少子高齢化に伴い逼迫した国の財政はさらに厳しくなり、経済再建は一層厳しい状況になっています。

わが国では国民の自主的な感染予防行動と全国規模のワクチン接種が一定の効果を示しましたが、度重なる新型コロナウイルス感染症の流行が断続的に襲い掛かり、当院においても職員の感染による人手不足の中、病院一丸となって懸命に対応いたしました。

令和5年5月8日の5類感染症への移行を機に各医療機関もwithコロナへと大きく舵を切りましたが、幸い第8波以降に大きな感染の流行は発生していません。引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を確実に実施しながら、コロナ禍前の通常の医療体制に戻す取り組みを進めていかなければなりません。

こうした中、当院は西三河北部医療圏の中核病院として地域における役割を果たすとともに、地域住民に安全で安心な医療を提供するため、以下の取り組みを行いました。

- ① 感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症患者の治療を行いました。一般患者と陽性・発熱者の動線を分ける等で感染拡大防止対策を行い、一般の患者が安心して受診できる環境整備に努めました。また、愛知県の要請に応え、新型コロナウイルス感染患者用の病床をフェーズに合わせて確保し対応しています。
- ② 救急医療体制の強化・充実を図るため救命救急センターの医師の増員を行い、救急車受け入れ件数およびドクターカー出動件数が増加しました。
- ③ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、より身体的な負担の少ない低侵襲手術が可能となりました。
- ④ 「大動脈弁狭窄症」の治療にカテーテルで人工弁を留置する「TAVI（タビ）」を西三河北部医療圏で初めて開始しました。これにより、年齢や基礎疾患などを理由に大動脈弁狭窄症の手術が受けられなかった患者の治療が可能になりました。
- ⑤ 当院のプレゼンス、ブランディング、パフォーマンスを一層充実・発展させ地域からの信頼獲得と採用活動を優位に進めるためにホームページへの動画掲載、ラジオCM、Instagramを開始し広報活動の充実に取り組みました。

運営面では、外来は1日当りの患者数1,354人（予算1,357人、前年度1,352人）1人当りの診療単価27,706円（予算27,970円、前年度27,523円）となりました。入院は、1日当りの患者数546人（予算526人、前年度516人）1人当りの診療単価83,772円（予算82,919円、前年度81,760円）となりました。新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、前年度を上回る結果となりました。

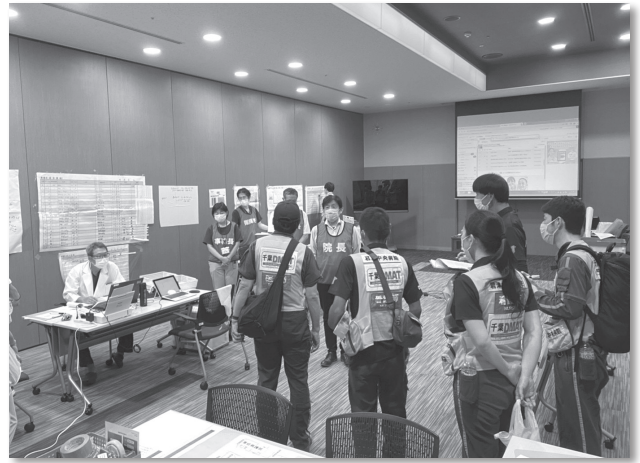
今後も診療機能の向上はもちろんのこと、業務改善やタスクシフティング等による働き方改革への対応を続けていきます。また、引き続き新型コロナウイルス感染症患者の治療と感染拡大防止に取り組み、ポストコロナを見据えた病院経営の更なる健全化を行います。地域医療の中核を担う基幹病院として、地域住民に安全で安心できる医療・保健・福祉サービスを提供して参ります。

令和5年10月1日

病院長 服部 直樹



4月 新人研修



10月 内閣府大規模地震時訓練実施



6月 病院敷地内にてヤギが除草開始
ヤギのレンタルサービスを利用してエコ除草



10月 東海ラジオ CM放送開始



7月 集中治療センター、ペインクリニック外科開設



10月～ 中学生職場体験
看護師・薬剤師・理学療法士・放射線技師の体験



11月 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設に認定



3月 新型コロナワクチン接種受け入れ終了



11月 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入



3月 臨床研修了式



12月 ボランティア功労者として表彰
当院でのボランティア活動の功績が厚生労働大臣賞を受賞



3月 定年退職者送る会

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
 私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、優しさと温かさを大切にして、地域のみなさんと共に歩みます

カモメイト

Vol.95
 夏 休 日
 ご自由にお持ちください



特集 | コロナ禍がもたらしたがん治療への影響

INDEX

P2 新病院長のご挨拶

P4 特集
 コロナ禍がもたらしたがん治療への影響

P6 連携医紹介


- かまたクリニック
- おおしま小児科アレルギー科
- 日高内科
- 保志急クリニック
- 福島内科クリニック
- いせやま内科クリニック

P8 news

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
 私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、優しさと温かさを大切にして、地域のみなさんと共に歩みます

カモメイト

Vol.96
 夏 休 日
 ご自由にお持ちください



特集 | ハイブリッド手術室

INDEX

P2 特集 ハイブリッド手術室
 ～大動脈弁狭窄症の低侵襲治療「TAVI(タビ)」～

P4 より安全な輸血、自己血輸血って？

P5 「がん地域連携バス実施件数」が愛知県内において2年連続1位になりました

P6 連携医紹介

- 花園内科
- 山口胃腸科外科クリニック
- うめだクリニック
- ちかだクリニック
- 愛知とうぶクリニック
- 鈴木内科クリニック

P8 選定療養費について
 インスタグラムははじめました

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
 私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、優しさと温かさを大切にして、地域のみなさんと共に歩みます

カモメイト

Vol.97
 秋 休 日
 ご自由にお持ちください



特集 | 救命救急センター

INDEX

P2 救命救急センター

P4 誤嚥性肺炎のお話

P5 患者満足度アンケート調査結果

P6 連携医紹介

- 杉浦内科クリニック
- たいや内科クリニック
- 小早川整形外科・内科
- あおくほ内科クリニック
- 京野クリニック
- いせき内科クリニック

P8 news

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院
 私たちはたえず、新しい医療のあり方を追求し、優しさと温かさを大切にして、地域のみなさんと共に歩みます

カモメイト

Vol.98
 冬 休 日
 ご自由にお持ちください



特集 | 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

INDEX

P2 病院長年頭のごあいさつ

P3 新ユニフォームをご紹介します

P4 手術支援ロボット「ダヴィンチ」

P6 連携医紹介

- あおやまクリニック
- 三好ヶ丘メディカルクリニック
- ほしの内科クリニック
- 加藤医院
- せき内科
- たかもと内科クリニック

P8 news

目次

豊田厚生病院理念	1
基本方針、患者の権利と責任	2
発刊にあたり	3
主な出来事	4
カモメイト院外版	6
豊田厚生病院概要	9
豊田厚生病院組織図	11
豊田厚生病院会議・委員会組織図	12
医師名簿	13
役付職員名簿	15
職員数	16
令和4年度事業計画	17

I. 医療実績

1. 診療科別延患者数 及び診療収入

1) 科別延患者数	21
2) 科別診療収入	22

2. 市町村別利用状況

1) 市町村別外来利用状況	23
2) 市町村別入院利用状況	24

3. 年齢別利用状況

1) 年齢別外来利用状況	25
2) 年齢別入院利用状況	25

4. 救命救急センター外来利用状況

1) 診療科別患者数	26
2) 月別患者数	27
3) 救急車受入状況	27

5. 手術件数

30

6. 分娩数・死亡数・剖検数

31

7. 退院患者統計

1) 診療科別・月別退院患者数	32
2) 診療科別・死亡退院患者数	32
3) 地域別・年齢階層別退院患者数	33
4) 疾病別・診療科別退院患者数	35
5) 診療科別・在院期間別退院患者数	36

6) 疾病別・在院期間別退院患者数	37
7) 疾病別・年齢階層別退院患者数	38
8) 診療科別疾患順位	40
8. 剖検数	44
9. 臨床研究	45
II. 部署別業務実績	
1. 診療放射線室	51
2. 臨床検査室	54
3. リハビリテーション室	58
4. 臨床工学室	60
5. 栄養管理室	63
6. 薬剤部	65
7. 看護部	70
8. 医療安全管理部	74
9. 感染制御部	78
10. 地域医療連携課（地域医療連携係）	82
11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）	86
12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）	89
13. 豊田厚生訪問看護ステーション	92
14. 居宅介護支援事業所（豊田厚生介護保険センター）	94
15. 豊田厚生地域包括支援センター	96
16. 健康管理室	99
III. 職員活動	
1. 研究業績	103
2. 院内研修活動	
1) 全体講演会・全体発表会	127
2) 研修会・勉強会	128
IV. 委員会活動	
1. 委員会一覧	133



豊田厚生病院概要

令和5年3月1日現在

■ 名称

愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院

■ 所在地

〒470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL(0565)43-5000 FAX(0565)43-5100

■ 設立年月日

昭和22年5月1日（豊田厚生病院開院 平成20年1月1日）

■ 病床数

606床（一般600床・感染症6床）

■ 標榜科目 40科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、血液内科、アレルギー科、緩和ケア内科、感染症内科、精神科、小児科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、臨床検査科、病理診断科、外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、小児外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、救急科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、ペインクリニック外科、歯科口腔外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、産婦人科、リハビリテーション科、化学療法内科

■ 専門外来 37科

血液内科、腎臓外来、糖尿病外来、脳神経内科、小児循環器科、小児神経科、小児血液科、小児アレルギー科、小児外科、ストーマ外来、内分泌外来、肝臓外来、ペースメーカークリニック、血管外科、膠原病外来、インプラント外来、助産師外来、乳腺外来、婦人科腫瘍外来、糖尿病フットケア外来、女性専門外来、小児腎臓外来、ボトックス外来、緩和ケア外来、肥満外来、セカンドオピニオン外来、ペインクリニック、胃瘻交換外来、母乳外来、耳鼻いんこう科腫瘍外来、糖尿病療養指導士外来、リウマチ外来、不整脈外来、骨粗鬆症外来、心不全外来、側彎症外来、無痛分娩外来

■ 関連施設

豊田厚生訪問看護ステーション、豊田厚生地域包括支援センター、豊田厚生居宅介護支援事業所、加茂看護専門学校

■ 施設認定

救急告示病院、病院群輪番制病院（二次）、臨床研修病院（医科）、臨床研修施設（歯科）、エイズ治療協力病院、難病医療協力病院、地域がん診療連携拠点病院、地域中核災害拠点病院、肝疾患専門医療機関、救命救急センター、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関、脳死下臓器提供施設、DMAT指定医療機関、地域医療支援病院、DPC特定病院群（旧：DPCⅡ群病院）、がんゲノム医療連携病院、第二種感染症指定医療機関、保険医療機関、労災保険指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核医療機関、更生・育成医療指定、養育医療指定、原爆医療指定（一般・認定疾病）、二次健康診断指定医療機関、病院機能評価認定病院、全国循環器撮影研究会認定被ばく線量低減推進施設、日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設、マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設、卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院、人間ドック健診施設機能評価認定病院、医療被ばく低減施設、母体保護法指定医療機関（医師研修機関）、出生前検査認証制度等運営委員会認定NIPTを実施する医療機関（連携施設）、日本高気圧環境・潜水医学会認定施設、日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設、日本適合性認定協会ISO15189認定施設、日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A制度）認定施設、日本脳卒中学会一次脳

卒中センター、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設、関連10学会構成胸部ステントグラフト実施施設、関連10学会構成腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設、日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設、腹腔鏡下肝切除術日本消化器外科学会連携施設、IMPELLA補助循環器用ポンプカテーテル実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経皮のカテーテル心筋冷凍焼灼術クライオバルーン施設基準認定施設

■ 管 理 者

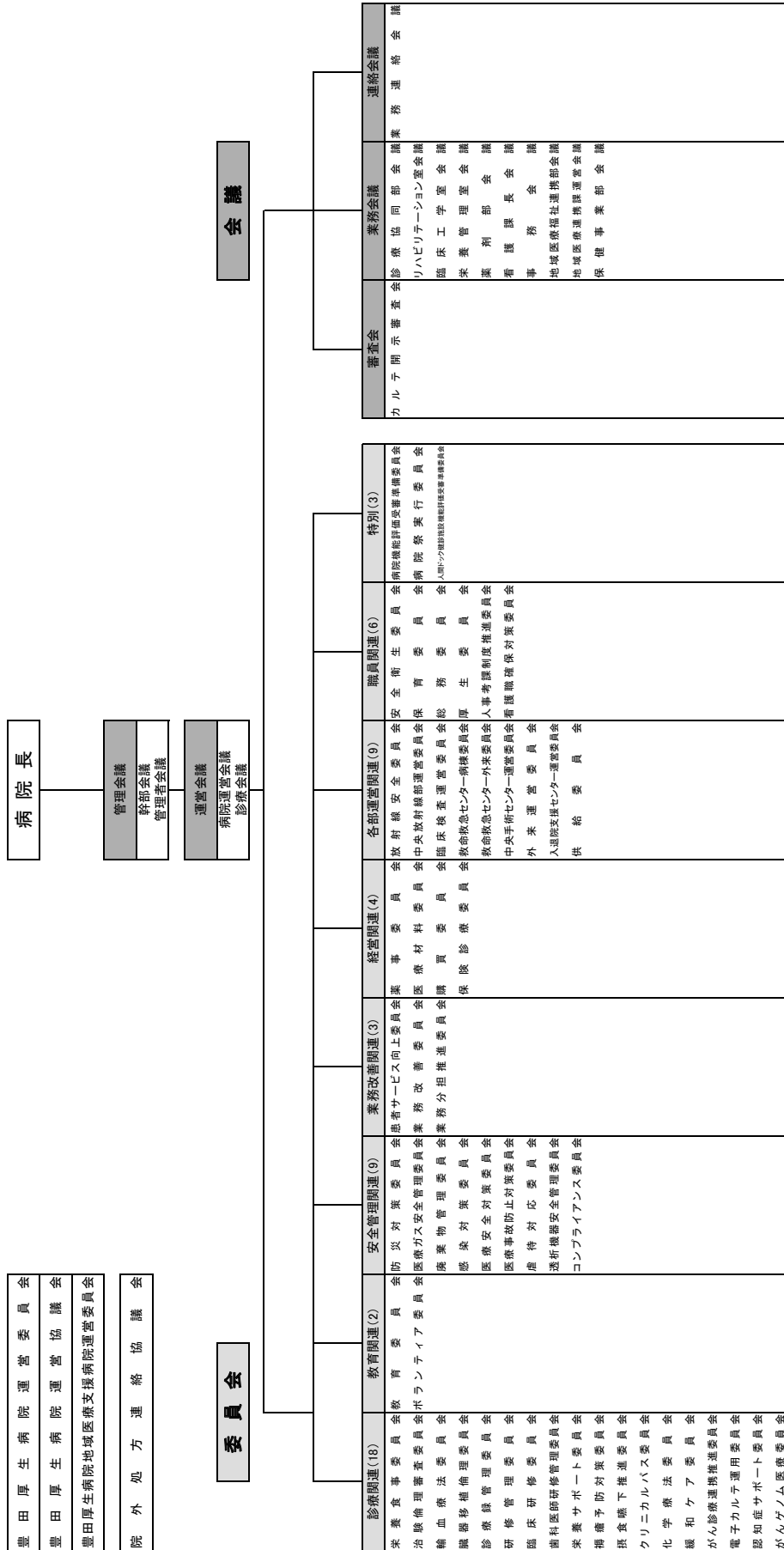
病院長	服部 直樹	薬剤部長	三宅 芳男
副院長	岩瀬 豊	看護部長	阪口 浩美
副院長	梶田 光春	事務部長	池田 真紀
副院長	篠田 政典		
副院長	久留宮康浩		
副院長	水野 敬輔		

■ 学会認定

日本神経学会専門医制度教育施設、日本認知症学会専門医制度教育施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本血液学会認定専門研修、日本緩和医療学会認定研修施設、日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設、日本精神科学会専門医制度研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B、日本食道外科専門医準認定施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本乳癌学会専門医制度認定施設、日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携）、日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本リウマチ学会教育施設、呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、日本女性医学会専門医制度認定研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本核医学会専門医教育病院、日本麻酔科学会麻酔科標榜のための研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本感染症学会研修施設、日本口腔科学会認定医制度研修施設、日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設、日本病理学会研修認定施設B、日本臨床細胞学会教育研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本病院会病院総合医育成プログラム認定施設

豊田厚生病院 会議・委員会 組織図

令和5年3月1日現在



医師名簿

令和5年3月1日現在

職名	氏名	診療科
病院長	服部 直樹	脳神経内科
副院長兼診療共同部長兼感染制御部長	岩瀬 豊	泌尿器科
加茂看護専門学校校長兼豊田厚生病院副院長兼第2診療部長兼小児科代表部長	梶田 光春	小児科
副院長兼第1診療部長兼保健事業部長兼内科代表部長兼循環器内科代表部長	篠田 政典	循環器内科
副院長兼第3診療部長兼通院治療センター長兼外科代表部長兼乳腺外科部長	久留宮 康浩	外科
副院長兼臨床研修部長兼地域医療福祉連携部長兼救命救急センター長兼入院支援センター長兼血管外科部長	水野 敬輔	外科
呼吸器内科代表部長兼アレルギー科部長	谷川 吉政	呼吸器内科
呼吸器内視鏡部長	指尾 豊和	呼吸器内科
呼吸器内科医	中原 義夫	呼吸器内科
医員	林 かずみ	呼吸器内科
医員	佐藤 智則	呼吸器内科
医員	岩本 和馬	呼吸器内科
医員	金子 鎮二	循環器内科
循環器センター長	窪田 龍二	循環器内科
医師臨床研修科代表部長兼循環器内科外来部長	大橋 大器	循環器内科
医療安全管理部医療安全管理室長兼循環器内科CCU部長	藤田 雅也	循環器内科
循環器内科病棟部長	豊 陽祐	循環器内科
循環器内科病棟医	羽賀 智明	循環器内科
循環器内科外来医	中込 敏文	循環器内科
医員	近藤 喜代太	循環器内科
医員	堀 仁美	循環器内科
医員	長井 伸	循環器内科
医員	櫻井 礼子	循環器内科
医員	井関 彰太	循環器内科
医員	岩田 恵輔	循環器内科
内視鏡センター長兼消化器内科代表部長	都築 智之	消化器内科
保健事業部健康管理室長兼消化器内科病棟部長兼化学療法内科部長	森田 清	消化器内科
消化器内視鏡部長	竹内 淳史	消化器内科
消化器内科医	高士 ひとみ	消化器内科
医員	内田 元太	消化器内科
医員	豊島 創	消化器内科
医員	稲掛 優介	消化器内科
医員	近藤 大也	消化器内科
医員	玉腰 丈博	消化器内科
医員	石川 大貴	消化器内科
医員	木村 侑樹	消化器内科
脳神経内科代表部長	富田 稔	脳神経内科
脳神経内科病棟医	池田 昇平	脳神経内科
医員	佐藤 萌美	脳神経内科
医員	武重 万里子	脳神経内科
医員	糸見 百合子	脳神経内科
内分泌・代謝内科代表部長	澤井 喜邦	内分泌・代謝内科
内分泌・代謝内科医	増田 富	内分泌・代謝内科
医員	戸松 瑛介	内分泌・代謝内科
医員	竹中 徳子	内分泌・代謝内科
医員	関本 ちひろ	内分泌・代謝内科
血液浄化センター長兼腎臓内科代表部長	倉田 久嗣	腎臓内科
腎臓内科外来部長	伊藤 岳司	腎臓内科
腎臓内科病棟医	吉岡 知輝	腎臓内科
医員	神田 亜希子	腎臓内科
医員	堀 貴洋	腎臓内科
医員	斉藤 絢恵	腎臓内科
血液内科代表部長兼化学療法内科代表部長	平賀 潤二	血液内科
血液内科病棟医	原田 靖彦	血液内科
医員	寺島 浩史	血液内科
総合内科代表部長	西本 泰浩	総合内科
総合内科医	渡口 賢隆	総合内科
総合内科病棟医	加藤 誓子	総合内科
医員	伊藤 怜花	総合内科

職名	氏名	診療科
感染症内科代表部長兼感染制御室長	川端 厚	感染症内科
緩和ケア内科代表部長	村松 雅人	緩和ケア内科
医員	市川 慶	内 科
医員	桐谷 元樹	内 科
医員	山田 崇義	内 科
医員	大垣内 琢也	内 科
精神科代表部長	前川 和範	精神科
医員	渡邊 周一	精神科
小児科病棟部長	生駒 雅信	小児科
小児科外来部長	武田 将典	小児科
医員	大森 茉令	小児科
医員	竹下 祥敬	放射線科
放射線診断科代表部長	松田 譲	放射線診断科
放射線診断科医	櫻井 悠介	放射線診断科
放射線診断科核医学診断医	古橋 尚博	放射線診断科
病理診断科代表部長	成田 道彦	病理診断科
病組織管理部長	山下 依子	病理診断科
患者相談部長兼呼吸器センター長	平松 義規	呼吸器外科
呼吸器外科代表部長	岡阪 敏樹	呼吸器外科
医員	伊藤 俊成	呼吸器外科
医員	石谷 紗希	呼吸器外科
患者相談部患者相談室長兼外科外来部長	世古口 英	外科
中央手術センター長兼集中治療センター長兼消化器外科部長	菅原 元	外科
上部消化器外科部長	井上 昌也	外科
下部消化管外科部長	加藤 健宏	外科
血管外科医	秋田 直宏	外科
消化器外科医	南 貴之	外科
医員	権田 紘丈	外科
医員	山口 真和	外科
医員	等々力 広菜	外科
医員	大澤 拓哉	外科
医員	浜辺 健太	外科
医員	秋葉 嘉将	外科
医員	加藤 真由子	外科
脳神経外科代表部長	立花 栄二	脳神経外科
脳神経外科病棟部長	住友 正樹	脳神経外科
脳神経外科病棟医	河村 彰乃	脳神経外科
医員	野平 翔太	脳神経外科
医員	緋 雄太	脳神経外科
医員	後藤 智哉	脳神経外科
心臓外科代表部長	荒木 善盛	心臓外科
心臓外科医	寺田 貴史	心臓外科
医員	小林 明裕	心臓外科
医員	佐久本 一樹	心臓外科
医員	川口 鎮	心臓外科
救急科代表部長	中島 成隆	救急科
医員	竹村 元太	救急科
医員	吉田 健一郎	救急科
第4診療部長兼泌尿器科代表部長	橋本 良博	泌尿器科
泌尿器科内視鏡部長	宇佐美 雅之	泌尿器科
泌尿器科腫瘍部長	小林 大地	泌尿器科
医員	東 凌平	泌尿器科
医員	名里 瑛美	泌尿器科
眼科代表部長	山田 麻里	眼科
医員	加藤 房枝	眼科
医員	湯口 貴彬	眼科
医員	高野 千夏	眼科
医員	杉山 寛明	眼科
耳鼻咽喉科代表部長	欄 真一郎	耳鼻咽喉科
医員	丹羽 正樹	耳鼻咽喉科
医員	鈴木 克代	耳鼻咽喉科
医員	川口 杏子	耳鼻咽喉科
医員	森 浩紀	耳鼻咽喉科
麻酔科代表部長	上原 博和	麻酔科
ペインクリニック外来部長	小島 康裕	麻酔科

職 名	氏 名	診療科
医 員	岩 侑	麻 酔 科
医 員	上 甲 利 南	麻 酔 科
医 員	川 口 里 奈	麻 酔 科
医 員	川 口 大 地	麻 酔 科
医 員	水 野 佑 哉	麻 酔 科
医 員	佐 々 木 和 磨	麻 酔 科
歯 科 口 腔 外 科 代 表 部 長 兼 歯 科 医 師 臨 床 研 修 科 代 表 部 長	兼 子 隆 次	歯 科 口 腔 外 科
医 員	河 合 孝 真	歯 科 口 腔 外 科
医 員	澤 木 廉	歯 科 口 腔 外 科
医 員	伊 藤 大 泰	歯 科 口 腔 外 科
医 療 安 全 管 理 部 長 兼 整 形 外 科 代 表 部 長 兼 リ ハ ビ リ テーション 代 表 部 長 兼 リ ウ マ ナ 部 長	金 山 康 秀	整 形 外 科
脊 椎 脊 髓 セ ン ター 長	辻 太 一	整 形 外 科
整 形 外 科 外 来 部 長	二 村 尚 久	整 形 外 科
整 形 外 科 病 棟 部 長	大 田 恭 太 郎	整 形 外 科
医 員	服 部 恭 典	整 形 外 科
医 員	足 立 維	整 形 外 科
医 員	館 寛 人	整 形 外 科
医 員	渡 部 拓	整 形 外 科
医 員	前 田 健 登	整 形 外 科
形 成 外 科 代 表 部 長	川 端 明 子	形 成 外 科
医 員	茂 木 公 佑	形 成 外 科
医 員	曾 我 宣 弘	形 成 外 科
皮 膚 科 代 表 部 長	鈴 木 伸 吾	皮 膚 科
医 員	榑 原 あ ゆ み	皮 膚 科
医 員	竹 中 花 予	皮 膚 科
医 員	近 藤 綾 子	皮 膚 科
産 婦 人 科 代 表 部 長	針 山 由 美	産 婦 人 科
産 婦 人 科 病 棟 部 長	新 城 加 奈 子	産 婦 人 科
産 婦 人 科 医 長	新 保 暁 子	産 婦 人 科
医 員	神 谷 知 都 世	産 婦 人 科
医 員	告 野 絵 里	産 婦 人 科
医 員	古 井 達 人	産 婦 人 科
医 員	大 澤 奈 央	産 婦 人 科
集 中 治 療 副 セ ン ター 長	小 林 修 一	集 中 治 療 セ ン ター
研 修 医 2 年 次	安 藤 祐 人	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	石 田 航 大	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	岩 田 侑 也	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	小 林 優 大	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	三 田 直 弥	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	常 裕 輔	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	鈴 木 日 向	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	高 山 真 央	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	潤 野 孝 明	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	山 田 有 美	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	溝 口 瑛 心	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	森 重 智	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 2 年 次	大 和 義 崇	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	足 立 涼 輔	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	市 野 貴 大	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	稲 垣 智 也	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	笠 原 史 帆	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	鈴 木 杏 奈	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	高 木 宏 輔	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	田 島 美 咲	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	野 本 大 二 郎	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	藤 澤 建 太	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	牧 野 良 祐	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	松 山 怜 奈	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	山 岸 昂 太 郎	医 師 臨 床 研 修 科
研 修 医 1 年 次	吉 川 尚 吾	医 師 臨 床 研 修 科
歯 科 研 修 医	石 原 拓 朗	歯 科 医 師 臨 床 研 修 科

役付職員名簿

令和4年3月1日現在

◆診療放射線室

室長	小澤 功
課長	深田 真司
課長	村山 和宏
係長	伊藤 友彰
係長	遠矢祐希子
係長	近藤 千晃
係長	原田 和幸
係長	阪口 明
係長	柴田 英輝
係長	小林 晋也
係長	松下 喜敬

◆臨床検査室

室長	田中 浩一
課長	木村 有里
課長	永田 篤志
課長	下竹美由紀
係長	永田 悠起
係長	蒲澤 康晃
係長	宮地 文子
係長	高橋 礼子
係長	黒木 雅子
係長	藤田 啓介
係長	熊谷 美希

◆リハビリテーション室

室長	平尾 重樹
課長	仲川 賢
課長	舟橋 宏樹
係長	畑 康夫
係長	鬼頭 有子
係長	吹留 理香
係長	岩附 史明

◆臨床工学室

室長	兵藤 好行
課長	沖島 正幸
係長	酒出 篤弥
係長	小川 正博
係長	辻川 圭亮

◆栄養管理室

室長	鈴木 祥子
課長	森 茂雄
係長	脇阪 涼子
係長	江口真奈美
係長	岩本 拓郎

◆薬剤部

部長	三宅 芳男
室長	間瀬 悟
室長	久保田敏行
室長	祐宜田和正
課長	西澤 圭祐
課長	前田 健晴
課長	中尾 圭介
係長	横山 尚美
係長	各務さとみ
係長	近藤 有
係長	戸田 州俊

係長	榊原 崇芳
係長	酒井 幹康
係長	中村 和行

◆看護部

看護部長	阪口 浩美
看護部副看護部長	富川由佳里
看護部副看護部長	安藤 愛子
看護部副看護部長	西森 陽子
看護部副看護部長	林 真千子
課長 ABCDブロック	山越 美穂
課長 ICU・HCU	三田 洋希
課長 2A病棟	牧 知香子
課長 3A病棟	吉野佐知子
課長 3B病棟	櫛田 千景
課長 3C病棟	鈴村 美佐
課長 4A病棟	的場 洋子
課長 4B病棟	塚本 浩子
課長 4C病棟	関 幸子
課長 4D病棟	伊藤美由起
課長 5A病棟	古橋美直子
課長 5B病棟	蕨野久美子
課長 5C病棟	下野 京子
課長 5D病棟	伊藤 美幸
課長 放射線看護課	上杉留里子
課長 中央手術センター	三宅 敦子
課長 救命救急センター	福田 郁栄
課長 内視鏡センター	上杉留里子
課長 入退院支援センター	加藤 昭子
課長 通院治療センター	中王子美保
課長 血液浄化センター	伊藤 知晴
課長 看護管理課	杉山 和美
係長 Aブロック	浅井 陽子
係長 Bブロック	鈴木 幸子
係長 Cブロック	岩永 香
係長 Dブロック	佐藤 修秀
係長 ICU	吉田 栄里
係長 ICU	山本かおり
係長 HCU	戸田 礼美
係長 HCU	村田 瞳
係長 HCU	山崎 聖絵
係長 2A病棟	伊藤真由美
係長 2A病棟	築瀬 佑佳
係長 2A病棟	上野 満智
係長 3A病棟	鈴木 尚子
係長 3A病棟	森下美紗子
係長 3B病棟	森 めぐみ
係長 3B病棟	大牟田智佳子
係長 3C病棟	地引 雅子
係長 3C病棟	鬼頭 奈央
係長 4A病棟	加藤 敏子
係長 4A病棟	富岡 祐依
係長 4A病棟	武田 由佳
係長 4B病棟	小澤 秀子
係長 4B病棟	伊藤亜利沙
係長 4C病棟	川合 舞
係長 4C病棟	豊田 恵
係長 4D病棟	稲熊 幸子
係長 4D病棟	武山 忍
係長 5A病棟	村井奈津子
係長 5A病棟	鈴木 香澄
係長 5A病棟	渡部 志保

係長	5B病棟	渡邊かおる
係長	5B病棟	山内 悦子
係長	5C病棟	藤原民智代
係長	5C病棟	安藤真理子
係長	5D病棟	小野田結花
係長	中央手術センター	岩村さより
係長	中央手術センター	柴田 詠次
係長	放射線看護課	河村 恵子
係長	救命救急センター	岩下 香代
係長	内視鏡センター	杉浦 公重
係長	血液浄化センター	岩屋奈央子
係長	入退院支援センター	米澤 康子
係長	看護管理課	石川 雅恵
係長	看護管理課	武藤 聡恵

◆事務部

部長	池田 真紀
事務管理室長	杉江 淳
企画室長	服部 学
企画課長	長谷川雅敏
医事課長	山田 浩昭
総務課長	森下 博文
施設課長	大藪 宏樹
診療情報係長	岡田 高明
医事第1係長	金田 麻美
医事第2係長	柴田 雅弘
医事第3係長	酒井 良英
教育研修係長	深田 翼
医療情報係長	桑原 涼介
診療支援係長	福和 篤
庶務係長	野々山章斗
経理係長	内川 雄太
エネルギーセンター係長	近藤 隼
保育主任	飯田 香澄

◆地域医療福祉連携部

地域医療連携課長	勝野 知子
医療福祉相談課長	杉村 龍也
地域医療連携係長	白川 尚毅
がん相談支援係長	片寄智香子
訪問看護ステーション長	齋藤 靖子
居宅介護支援係長	清水 浩子
地域包括支援センター係長	小林 宏美
在宅支援コーディネーター係長	古賀 智美

◆医療安全管理部

課長	中野 智子
係長	加納千津子

◆感染制御部

課長	伊藤 知晴
係長	駒井 博子

◆患者相談部

課長	館向 幸子
----	-------

◆保健事業部

課長	深田 英樹
係長	浦野美和子
係長	原 明子

職員数

令和5年3月1日現在

職種		年度	令和5年	令和4年	備 考	
常勤職員	医師		198	188	研修医29名含む	
	医療技術職	薬剤師	54	50		
		診療放射線技師・医学物理士	36	37		
		臨床検査技師	60	59		
		理学療法士	26	25		
		作業療法士	8	8		
		言語聴覚士	5	5		
		管理栄養士	12	13	栄養士	
		臨床工学技士	21	20		
		ソーシャルワーカー	14	14		
		歯科衛生士	4	4		
		その他	6	6	臨床心理士・視能訓練士	
	小 計		246	241		
	看護部門	保健師		6	6	
		助産師		17	18	
		看護師		656	662	
		准看護師		5	5	
		看護助手		53	51	
		小 計		737	742	
	その他	事務員		127	130	
協助部門補助		6	6	検査科・放射線科補助等		
管理技術者		33	35	ボイラ技士、保育士、調理師等		
管理補助者		10	10	調理員等		
小 計		176	181			
合 計		1,357	1,352			
非常勤職員	医師		69	81		
	看護部門		48	50	看護助手含む	
	その他		44	39		
	合 計		161	170		
総 合 計		1,518	1,522			



令和4年度 豊田厚生病院事業計画

1. 環境認識

西三河北部医療圏では2025年までは人口は増加するが、65歳以上の増加率が高く高齢化が急速に進む医療圏と認識されている。この地域では医療需要の高い年齢層が増加していくことで医療・介護の需要はさらなる増加が見込まれている。

当院は救急救命センターを有し、国指定の地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける「地域の中核病院」として、高度急性期・急性期医療を担い、豊田市の市民病院的な役割を果たすとともに、地域医療支援病院として回復期・慢性期を担う医療機関や診療所等との連携を進めることが求められている。

また、当該医療圏は広大なへき地対象地域を抱えているため、医療従事者の確保や適切な救急搬送計画の推進が求められる。

2. 基本方針（病院運営の基本姿勢及び目標）

西三河北部医療圏の基幹病院として、救命救急センター機能、がん診療機能を軸に高度医療機能を有する「高機能病院」としての役割を果たし、圏域内完結の高度急性期・急性期医療を提供していく。地域医療支援病院として紹介・逆紹介率の保持・推進を通じて地域の医療機関・診療所との連携を強化する中で、重症患者・救急患者を積極的に受け入れ、地域包括ケアシステムにおける急性期病院としての機能を果たしていく。

また、公的医療機関として地域住民に信頼される病院を目指し、豊田市の市民病院的な役割を果たすとともに、地域医療の中核となる病院を目指す。

3. 重点事項と実施目標

（1）医療事業

救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受ける病院として、地域住民のニーズに応えることができるよう医療提供体制を充実させる。

- ① 救急医療・集中治療体制の充実
- ② がん医療の充実
- ③ 看護体制の充実

（2）医療の質、安全強化

医療技術の飛躍的な進歩に伴い、医療の質と安全に関する要望も高いものとなっていることから、安全で安心な医療を提供できる体制を構築する。

- ① 資格取得の推進
- ② 医療の質の向上
- ③ 医療安全の充実

（3）地域との連携強化

地域医療支援病院の指定を受ける病院として、医師会や近隣の医療機関だけではなく、地域の住民や団体、JAなどとの連携を強化する。

- ① 地域医療連携の強化
- ② 地域団体・住民との連携強化

(4) 福祉・介護事業

在宅医療・介護、福祉などについて、地域の保健・医療・福祉サービスとの連携を図り、総合的なサービスや情報を提供する。

- ① 在宅医療・介護の推進
- ② 地域包括ケアシステム運用への協働

(5) 保健事業

生活習慣病の予防と早期発見を目指し、高度な医療機器を用いた専門ドックをはじめとする各種の健診コースを設定して幅広いニーズに対応する。

- ① 保健事業の充実

(6) 経営管理

医療圏の基幹病院として地域医療を守り、地域住民から信頼される病院となるため、良質な人材を確保しながら安定した病院経営を継続させる。

- ① 経営の安定
- ② 適正な要員管理
- ③ 新たな施設基準の検討

(7) その他

- ① 新専門医制度への対応
- ② 広報活動の充実
- ④ 働き方改革への対応
- ⑤ タスクシフト・ワークシェアの推進
- ⑥ 障がい者雇用の推進

I 医療実績

1. 診療科別延患者数及び診療収入

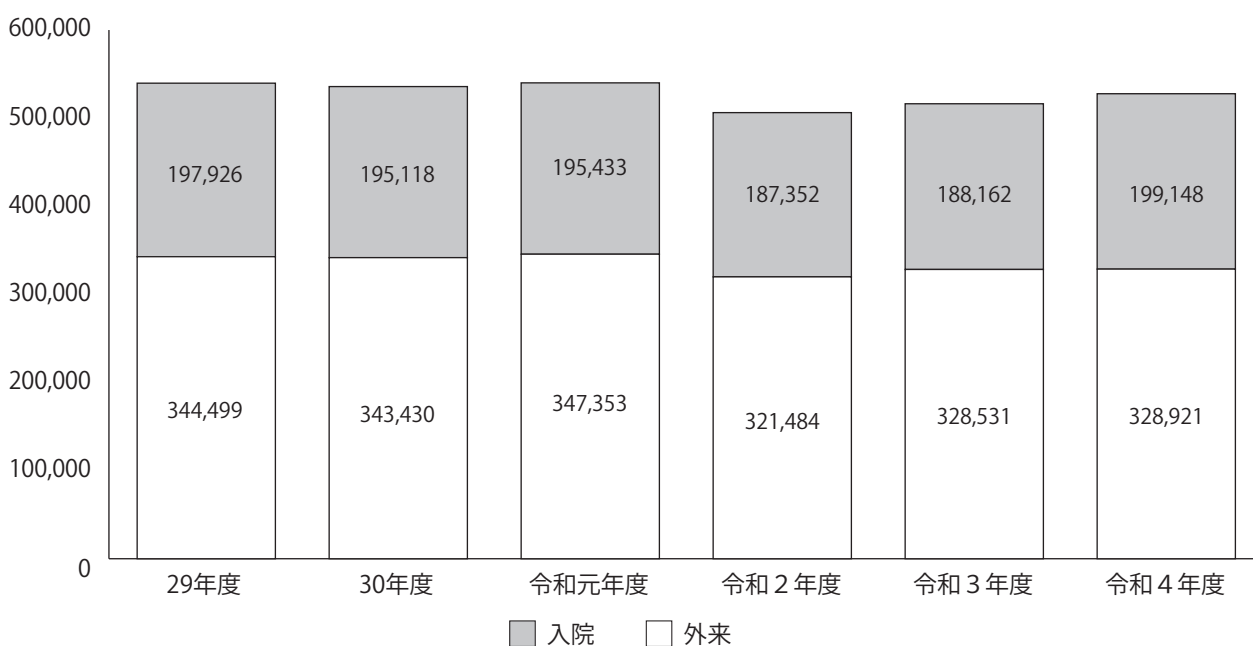
診療日数 外来：243日 入院：365日

1. 科別延患者数

(単位：人)

	外 来			入 院		
	令和4年度	令和3年度	前年対比	令和4年度	令和3年度	前年対比
内 科	131,247	131,139	100.1%	110,032	101,275	108.6%
精 神 科	7,835	8,302	94.4%	-	-	-
小 児 科	10,228	9,921	103.1%	2,569	3,187	80.6%
外 科	23,151	21,768	106.4%	26,352	24,156	109.1%
整 形 外 科	32,517	32,026	101.5%	18,839	16,780	112.3%
形 成 外 科	8,695	9,209	94.4%	1,997	1,641	121.7%
脳 神 経 外 科	8,204	8,134	100.9%	9,662	9,138	105.7%
呼 吸 器 外 科	2,214	2,175	101.8%	2,169	2,518	86.1%
心 臓 外 科	2,657	2,659	99.9%	2,677	2,861	93.6%
皮 膚 科	17,343	18,820	92.2%	1,439	1,956	73.6%
泌 尿 器 科	19,774	19,008	104.0%	8,304	8,470	98.0%
産 婦 人 科	14,320	15,497	92.4%	6,192	6,889	89.9%
眼 科	13,136	13,342	98.5%	2,617	2,614	100.1%
耳 鼻 咽 喉 科	15,468	16,504	93.7%	3,482	3,766	92.5%
放 射 線 科	4,988	4,039	123.5%	-	-	-
麻 酔 科	3,909	3,382	115.6%	56	76	73.7%
歯科口腔外科	13,235	12,606	105.0%	2,761	2,835	97.4%
合 計	328,921	328,531	100.1%	199,148	188,162	105.8%
一 日 平 均	1,354	1,352	100.1%	546	516	105.8%

年度別延患者数 (人)



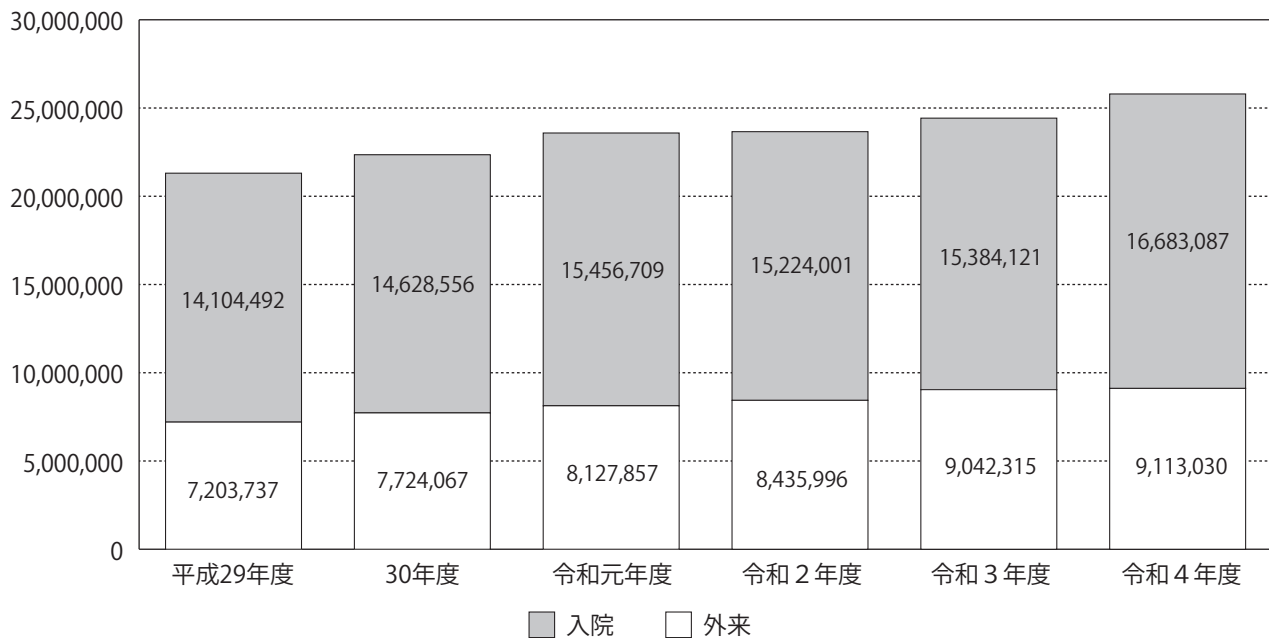
診療日数 外来：243日 入院：365日

2. 科別診療収入

(単位：千円)

	外 来			入 院		
	令和4年度	令和3年度	前年対比	令和4年度	令和3年度	前年対比
内 科	4,927,514	4,942,773	99.7%	8,272,419	7,329,824	112.9%
精 神 科	71,891	77,560	92.7%	—	—	—
小 児 科	166,343	221,843	75.0%	157,159	198,055	79.4%
外 科	1,015,083	893,231	113.6%	2,425,385	2,183,855	111.1%
整 形 外 科	667,181	664,981	100.3%	2,118,352	1,872,914	113.1%
形 成 外 科	79,545	80,650	98.6%	140,358	123,049	114.1%
脳 神 経 外 科	125,235	130,449	96.0%	778,138	746,600	104.2%
呼 吸 器 外 科	104,577	167,436	62.5%	305,638	319,423	95.7%
心 臓 外 科	33,354	32,283	103.3%	517,701	627,466	82.5%
皮 膚 科	215,238	210,354	102.3%	78,341	94,455	82.9%
泌 尿 器 科	785,068	718,857	109.2%	586,995	540,703	108.6%
産 婦 人 科	251,682	208,953	120.4%	600,651	630,146	95.3%
眼 科	207,061	206,679	100.2%	238,847	249,602	95.7%
耳 鼻 咽 喉 科	182,112	233,386	78.0%	268,706	268,045	100.2%
放 射 線 科	103,684	84,509	122.7%	—	—	—
麻 酔 科	47,371	39,609	119.6%	15,785	25,560	61.8%
歯科口腔外科	130,090	128,762	101.0%	178,613	174,423	102.4%
合 計	9,113,030	9,042,315	100.8%	16,683,087	15,384,121	108.4%

年度別診療収入（人）



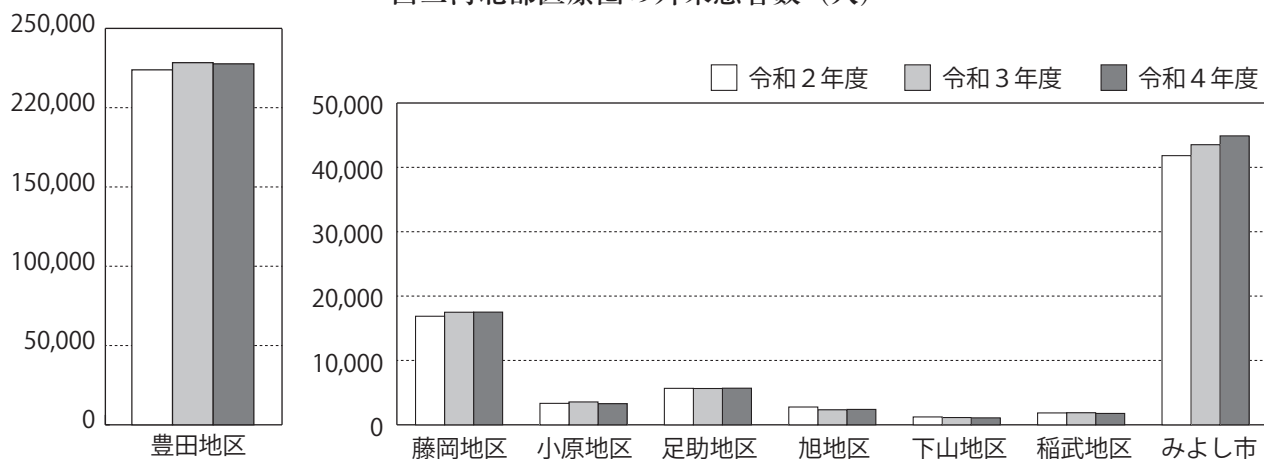
2. 市町村別利用状況

1. 市町村別外来利用状況（延患者数）

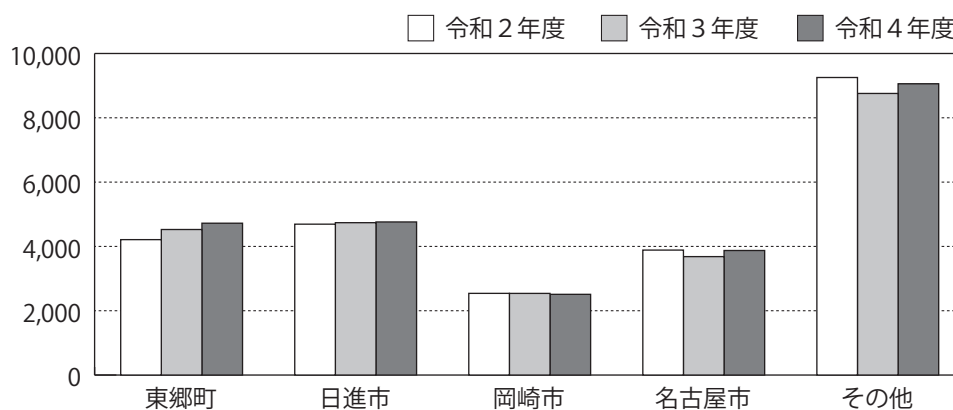
（単位：人）

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	259,168	78.8%	260,769	79.4%	255,364	79.4%
* 豊田地区	227,440	69.1%	228,744	69.6%	223,662	69.6%
* 藤岡地区	17,511	5.3%	17,492	5.3%	16,868	5.2%
* 小原地区	3,280	1.0%	3,554	1.1%	3,333	1.0%
* 足助地区	5,691	1.7%	5,642	1.7%	5,665	1.8%
* 旭地区	2,394	0.7%	2,333	0.7%	2,766	0.9%
* 下山地区	1,083	0.3%	1,130	0.3%	1,224	0.4%
* 稲武地区	1,769	0.5%	1,874	0.6%	1,846	0.6%
みよし市	44,893	13.6%	43,519	13.2%	41,820	13.0%
小計	304,061	92.4%	304,288	92.6%	297,184	92.4%
東郷町	4,722	1.4%	4,526	1.4%	4,211	1.3%
日進市	4,761	1.4%	4,738	1.4%	4,692	1.5%
岡崎市	2,510	0.8%	2,539	0.8%	2,540	0.8%
名古屋市	3,873	1.2%	3,683	1.1%	3,886	1.2%
その他	9,057	2.8%	8,757	2.7%	8,971	2.8%
小計	24,923	7.6%	24,243	7.4%	24,300	7.6%
合計	328,984	100.0%	328,531	100.0%	321,484	100.0%

西三河北部医療圏の外来患者数（人）



西三河北部医療圏以外の外来患者数（人）

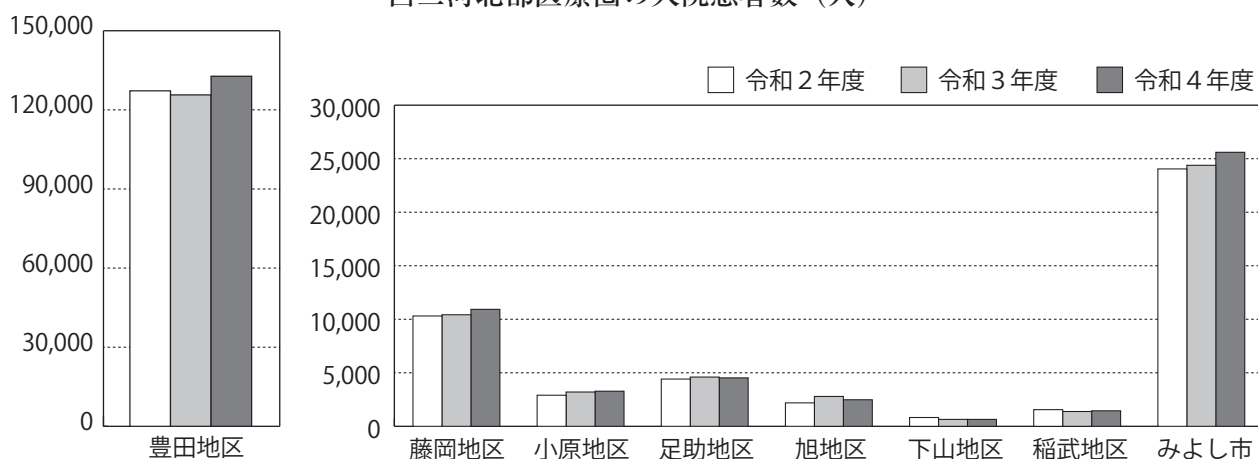


2. 市町村別入院利用状況 (延患者数)

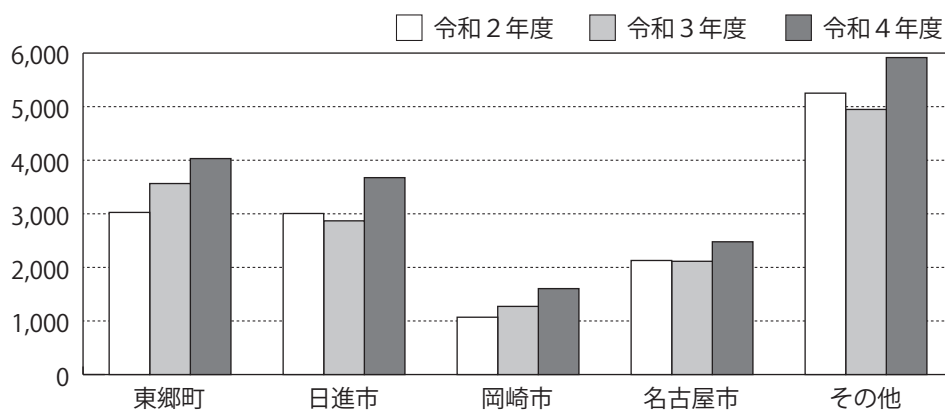
(単位：人)

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
豊田市全域	155,875	78.3%	149,009	79.2%	149,463	79.8%
* 豊田地区	132,555	66.6%	125,956	66.9%	127,265	67.9%
* 藤岡地区	10,928	5.5%	10,423	5.5%	10,308	5.5%
* 小原地区	3,282	1.6%	3,205	1.7%	2,906	1.6%
* 足助地区	4,528	2.3%	4,602	2.4%	4,414	2.4%
* 旭地区	2,483	1.2%	2,790	1.5%	2,189	1.2%
* 下山地区	648	0.3%	648	0.3%	824	0.4%
* 稲武地区	1,451	0.7%	1,385	0.7%	1,557	0.8%
みよし市	25,600	12.9%	24,385	13.0%	24,046	12.8%
小計	181,475	91.1%	173,394	92.2%	173,509	92.6%
東郷町	4,031	2.0%	3,565	1.9%	3,026	1.6%
日進市	3,675	1.8%	2,869	1.5%	3,006	1.6%
岡崎市	1,604	0.8%	1,272	0.7%	1,070	0.6%
名古屋市	2,478	1.2%	2,114	1.1%	2,129	1.1%
その他	5,916	3.0%	4,948	2.6%	4,612	2.5%
小計	17,704	8.9%	14,768	7.8%	13,843	7.4%
合計	199,179	100.0%	188,162	100.0%	187,352	100.0%

西三河北部医療圏の入院患者数 (人)



西三河北部医療圏以外の入院患者数 (人)

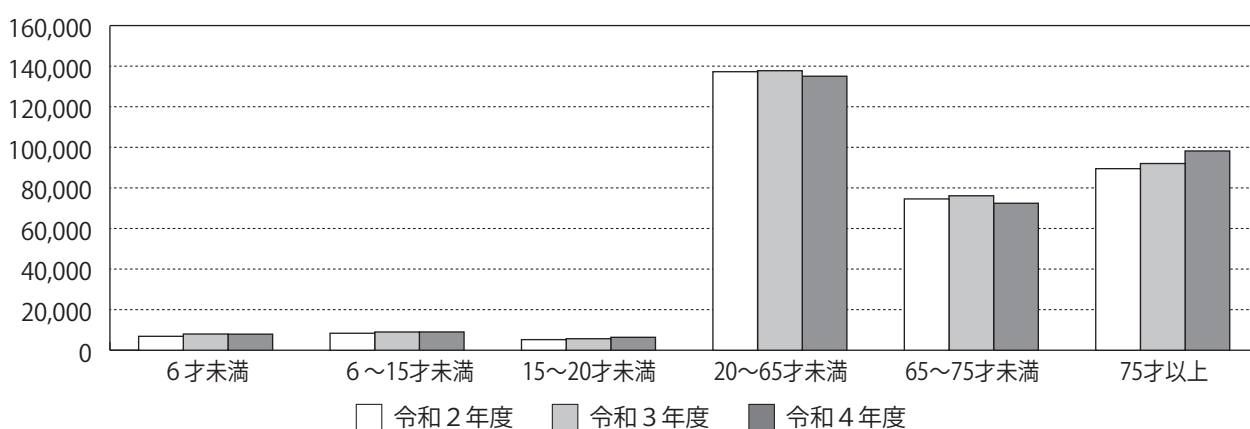


3. 年齢別利用状況

1. 年齢別外来利用状況 (延患者数)

(単位：人、%)

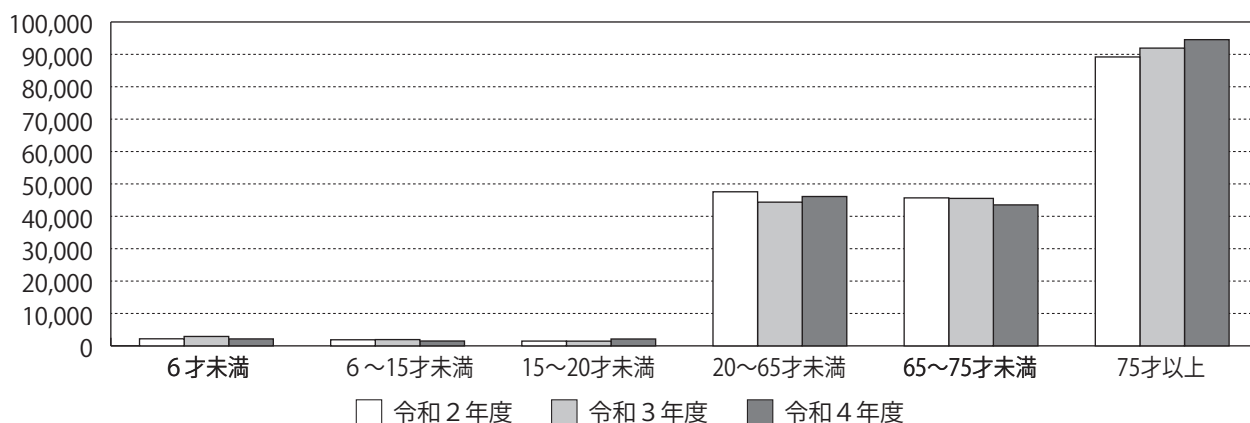
	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	7,927	2.4%	7,987	2.4%	6,862	2.1%
6～15才未満	9,015	2.7%	8,986	2.7%	8,371	2.6%
15～20才未満	6,373	1.9%	5,674	1.7%	5,223	1.6%
20～65才未満	135,037	41.0%	137,750	41.9%	137,262	42.7%
65～75才未満	72,433	22.0%	76,118	23.2%	74,568	23.2%
75才以上	98,199	29.8%	92,016	28.0%	89,198	27.7%
合計	328,984	100.0%	328,531	100.0%	321,484	100.0%



2. 年齢別入院利用状況 (延患者数)

(単位：人、%)

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	2,150	1.1%	2,905	1.5%	2,179	1.2%
6～15才未満	1,500	0.8%	1,938	1.0%	1,879	1.0%
15～20才未満	2,122	1.1%	1,458	0.8%	1,477	0.8%
20～65才未満	46,113	24.3%	44,371	23.6%	47,570	25.4%
65～75才未満	43,526	22.9%	45,528	24.2%	45,690	24.4%
75才以上	94,541	49.8%	91,962	48.9%	88,557	47.3%
合計	189,952	100.0%	188,162	100.0%	187,352	100.0%



4. 救命救急センター外来利用状況

1. 診療科別患者数

(単位：人)

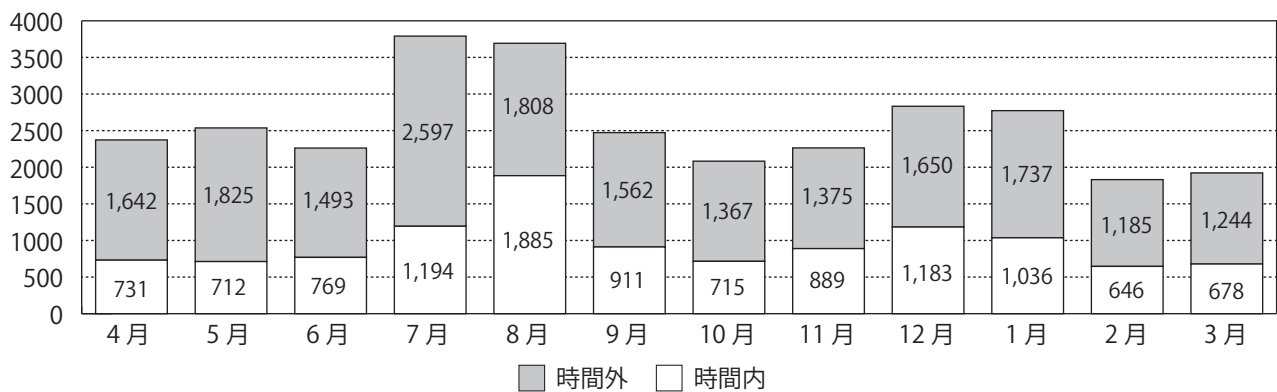
診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	延患者数	入院 (再掲)	日直		当直			
			延患者数	入院	患者数	入院(再掲)		
内科	4432	18	2600	24	4313	23	6913	11345
脳神経内科	590	207	156	110	334	283	490	1080
呼吸器内科	306	141	92	57	198	158	290	596
消化器内科	597	317	223	173	497	427	720	1317
循環器内科	608	254	175	139	465	387	640	1248
内分泌代謝科	150	50	31	26	83	76	114	264
腎臓内科	97	75	36	30	49	43	85	182
膠原病内科	5	1	0	0	0	0	0	5
血液内科	75	34	94	16	50	44	144	219
総合内科	391	106	60	58	141	133	201	592
肝臓内科	10	5	0	0	2	0	2	12
精神科	22	1	8	0	41	0	49	71
小児科	1519	45	854	71	1755	164	2609	4128
外科	122	6	175	22	193	14	368	490
消化器外科	143	141	73	69	259	255	332	475
血管外科	18	13	10	10	8	5	18	36
乳腺外科	12	9	7	4	13	12	20	32
整形外科	705	136	734	89	1354	138	2088	2793
脊椎外科	15	11	3	3	5	5	8	23
形成外科	148	7	203	0	414	5	617	765
脳神経外科	391	125	287	55	668	174	955	1346
呼吸器外科	33	18	8	3	26	17	34	67
心臓外科	14	12	6	2	11	6	17	31
皮膚科	116	11	216	17	349	30	565	681
泌尿器科	231	42	255	45	603	79	858	1089
産婦人科	76	11	70	14	156	26	226	302
眼科	28	2	72	2	111	2	183	211
耳鼻咽喉科	464	17	290	19	481	28	771	1235
麻酔科	6	1	1	0	0	0	1	7
歯科口腔外科	25	1	49	3	118	6	167	192
合計	11,349	1,817	6,788	1,061	12,697	2,540	19,485	30,834
前年度	8,733	1,815	6,475	1,061	12,076	2,365	18,551	27,284
前年度対比	130.0%	100.1%	104.8%	100.0%	105.1%	107.4%	105.0%	113.0%



2. 月別患者数

(単位：人)

年月日	時間内		時間外				合計		
			日直		当直			時間外合計	
	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
R 4	4月	731	146	619	104	1,023	204	1,642	2,373
	5月	712	139	745	90	1,080	190	1,825	2,537
	6月	769	153	402	71	1,091	216	1,493	2,262
	7月	1,194	165	986	103	1,611	234	2,597	3,791
	8月	1,885	160	590	84	1,218	227	1,808	3,693
	9月	911	136	535	88	1,027	204	1,562	2,473
	10月	715	127	452	89	915	187	1,367	2,082
	11月	889	166	453	79	922	182	1,375	2,264
	12月	1,183	189	579	99	1,071	260	1,650	2,833
R 5	1月	1,036	153	726	112	1,011	231	1,737	2,773
	2月	646	143	385	79	800	177	1,185	1,831
	3月	678	140	316	63	928	228	1,244	1,922
合計	11,349	1,817	6,788	1,061	12,697	2,540	19,485	30,834	

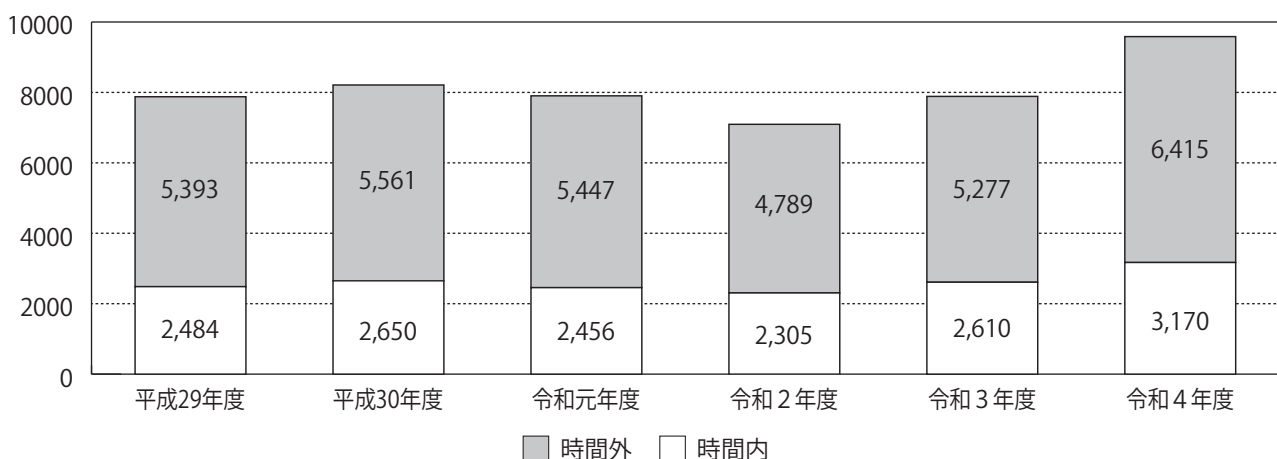


3. 救急車受入状況

①救急車受入数推移

(単位：人)

	時間内	時間外	総数	前年比
平成27年度	2,290	4,912	7,202	96.6%
平成28年度	2,338	4,954	7,292	101.2%
平成29年度	2,484	5,393	7,877	108.0%
平成30年度	2,650	5,561	8,211	104.2%
令和元年度	2,456	5,447	7,903	96.2%
令和2年度	2,305	4,789	7,094	89.8%
令和3年度	2,610	5,277	7,887	111.2%
令和4年度	3,170	6,415	9,585	121.5%



②診療科別救急車受入数

(単位：人)

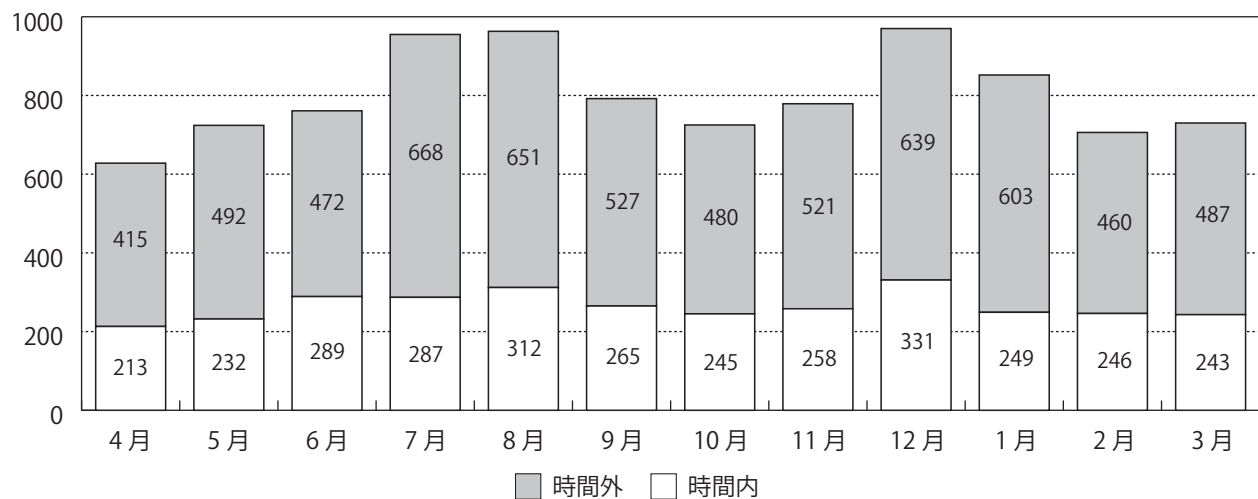
診療科	時間内		時間外				時間外 合計	合計
	患者数	入院(再掲)	日直		当直			
			患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)		
内科	666	12	418	16	1502	16	1920	2586
脳神経内科	217	167	85	68	242	215	327	544
呼吸器内科	126	105	39	32	130	107	169	295
消化器内科	269	216	103	94	328	297	431	700
循環器内科	276	209	105	95	358	321	463	739
内分泌代謝科	48	41	19	18	68	66	87	135
腎臓内科	60	56	24	22	34	32	58	118
膠原病内科	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	29	25	10	9	35	33	45	74
総合内科	97	89	37	37	103	101	140	237
肝臓内科	5	4	0	0	1	0	1	6
精神科	9	0	6	0	20	0	26	35
小児科	132	23	80	15	300	68	380	512
外科	28	4	16	6	57	8	73	101
消化器外科	104	103	30	29	134	133	164	268
血管外科	14	10	10	10	6	4	16	30
乳腺外科	5	5	1	1	10	9	11	16
整形外科	465	119	249	61	608	114	857	1322
脊椎外科	9	8	1	1	3	3	4	13
形成外科	56	6	26	0	84	4	110	166
脳神経外科	253	110	123	45	346	139	469	722
呼吸器外科	16	13	3	2	14	11	17	33
心臓外科	12	10	3	1	9	5	12	24
皮膚科	17	6	14	5	38	13	52	69
泌尿器科	82	32	49	18	179	46	228	310
産婦人科	23	8	8	4	37	12	45	68
眼科	5	1	9	0	9	1	18	23
耳鼻咽喉科	142	11	60	3	207	18	267	409
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	5	0	6	0	19	2	25	30
合計	3,170	1,393	1,534	592	4,881	1,778	6,415	9,585
前年度	2,610	1,256	1,244	519	4,033	1,554	5,277	7,887
前年対比	121.5%	110.9%	123.3%	114.1%	121.0%	114.4%	121.6%	121.5%



③月別救急車受入数

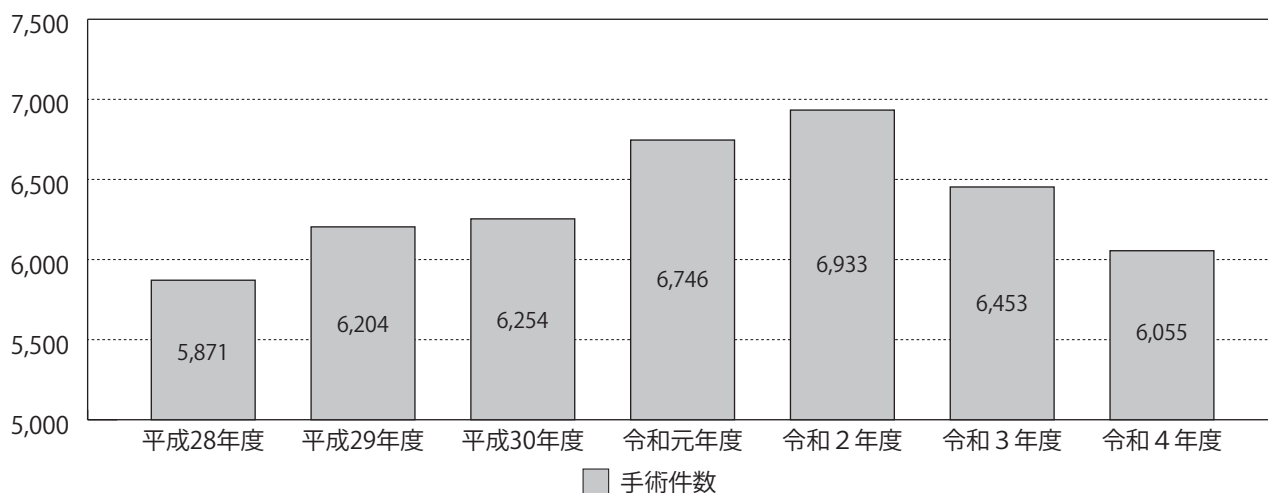
(単位：人)

年月日	時間内		時間外					合計	
			日直		当直		時間外 合計		
	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)	患者数	入院(再掲)			
R 4	4月	213	101	114	52	301	131	415	628
	5月	232	107	115	40	377	124	492	724
	6月	289	122	83	30	389	137	472	761
	7月	287	126	155	60	513	163	668	955
	8月	312	134	141	61	510	167	651	963
	9月	265	102	138	51	389	146	527	792
	10月	245	103	122	49	358	130	480	725
	11月	258	112	132	43	389	124	521	779
	12月	331	150	148	60	491	190	639	970
R 5	1月	249	112	170	66	433	180	603	852
	2月	246	116	117	46	343	123	460	706
	3月	243	108	99	34	388	163	487	730
合計	3,170	1,393	1,534	592	4,881	1,778	6,415	9,585	



5. 手術件数

	令和4年度		令和3年度	
	件数	緊急件数(再掲)	件数	緊急件数(再掲)
内科	121	6	96	3
外科	1,634	397	1,624	449
整形外科	1,301	345	1,231	299
形成外科	353	8	345	5
脳神経外科	240	132	251	140
呼吸器外科	173	0	167	0
心臓外科	92	15	113	20
皮膚科	15	1	21	0
泌尿器科	360	10	385	12
産婦人科	504	52	526	61
眼科	730	12	1,143	17
耳鼻咽喉科	315	13	328	17
歯科口腔外科	201	1	205	0
麻酔科	16	0	18	0
合計	6,055	992	6,453	1,023



6. 分娩数・死亡数・剖検数

(単位：人)

	令和4年度		令和3年度		
	当院	豊田市	当院	豊田市	
分娩数	220	2,748	245	2,863	
死亡数	悪性新生物	336	1,005	318	920
	心疾患	70	363	47	302
	肺炎及び気管支炎	45	98	49	156
	脳血管疾患	52	219	34	223
	老衰	12	472	8	418
	不慮の事故	10	79	14	68
	腎疾患	13	61	10	61
	肝疾患	7	50	19	52
	自殺	0	54	1	81
	高血圧性疾患	0	5	0	9
	その他	300	1,333	231	1,084
合計	845	3,739	731	3,374	
剖検数	9		14		

- (注) 1) 当院の死亡数は、入院中に死亡した数
2) 豊田市の人数は、1月～12月の数字を計上

令和4年度 悪性新生物（発生臓器別内訳）

[当院]

順位	臓器別	件数
1	肺	71
2	胃	59
3	膵	44
4	結腸	24
5	肝	22

[豊田市]

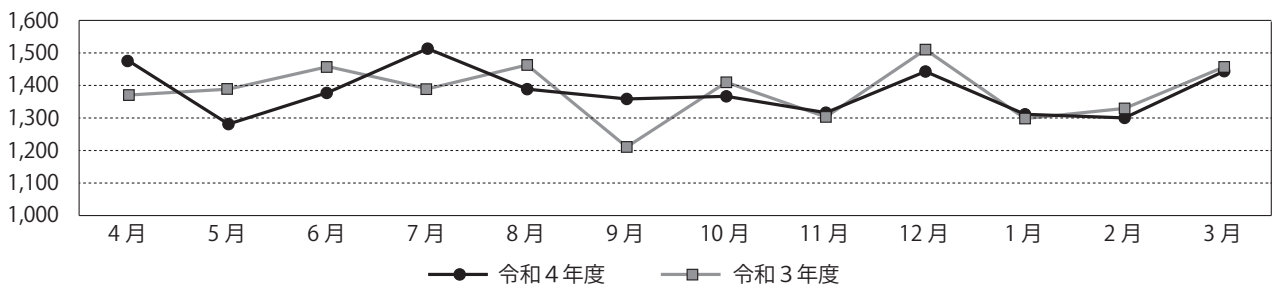
順位	臓器別	件数
1	肺	195
2	胃	142
3	膵	114
4	結腸	77
5	肝	64

7. 退院患者統計

集計の対象は入院年月日にかかわらず、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの退院患者とした。
データは退院サマリおよび電子カルテ本文より抽出した。

1. 診療科別・月別退院患者数

	総数	比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡
総数	16,557	100.0%	1,473	1,280	1,377	1,511	1,387	1,357	1,365	1,315	1,441	1,310	1,299	1,442	845
内科	7,460	45.1%	683	605	619	629	628	629	609	564	647	606	601	640	634
小児科	581	3.5%	42	39	49	108	60	36	40	40	57	33	39	38	0
外科	2,047	12.4%	186	147	172	199	174	166	179	158	184	166	139	177	104
整形外科	1,427	8.6%	120	111	122	121	119	118	114	121	121	106	119	135	5
形成外科	317	1.9%	32	29	23	32	27	24	26	28	21	20	22	33	1
脳神経外科	524	3.2%	50	37	43	42	46	48	53	43	44	38	33	47	50
呼吸器外科	208	1.3%	21	13	15	23	13	11	17	20	13	22	21	19	8
心臓血管外	100	0.6%	9	6	10	7	5	4	10	7	13	12	9	8	2
皮膚科	143	0.9%	12	18	12	13	11	15	8	9	9	13	10	13	2
泌尿器科	950	5.7%	70	66	74	99	82	89	68	73	79	79	80	91	26
産婦人科	912	5.5%	73	72	85	83	86	69	79	84	85	66	65	65	9
眼科	701	4.2%	59	49	49	50	46	52	60	68	71	63	72	62	0
耳鼻咽喉科	469	2.8%	49	34	41	46	40	36	40	48	37	29	29	40	2
麻酔科	14	0.1%	1	1	1	1	2	3	1	0	0	2	1	1	0
歯科口腔外	692	4.2%	66	53	62	58	48	57	61	48	58	53	55	73	2
救急科	12	0.1%	0	0	0	0	0	0	0	4	2	2	4	0	0
令和3年度	16,569		1,369	1,387	1,456	1,388	1,461	1,210	1,408	1,302	1,508	1,297	1,328	1,455	



2. 診療科別・死亡退院患者数

診療科	総数	比率	剖検数	剖検率	平均在院日数	48時間以内死亡	粗死亡率	精死亡率
総数	845	100.0%	9	1.1%	19.4	106	5.1%	4.5%
内科	634	75.0%	7	1.1%	19.5	69	8.5%	7.6%
小児科	0	-	-	-	-	-	-	-
外科	104	12.3%	1	1.0%	21.8	13	5.1%	4.4%
整形外科	5	0.6%	0	0.0%	11.2	1	0.4%	0.3%
形成外科	1	0.1%	0	0.0%	52.0		0.3%	0.3%
脳神経外科	50	5.9%	0	0.0%	10.1	19	9.5%	5.9%
呼吸器外科	8	0.9%	0	0.0%	16.0	2	3.8%	2.9%
心臓血管外	2	0.2%	0	0.0%	19.0		2.0%	2.0%
皮膚科	2	0.2%	0	0.0%	7.0		1.4%	1.4%
泌尿器科	26	3.1%	0	0.0%	29.4	1	2.7%	2.6%
産婦人科	9	1.1%	1	11.1%	17.0	1	1.0%	0.9%
眼科	0	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	2	0.2%	0	0.0%	19.0		0.4%	0.4%
麻酔科	0	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外	2	0.2%	0	0.0%	13.5		0.3%	0.3%
救急科	0	-	-	-	-	-	-	-

※精死亡率：(総死亡数 - 入院後48時間以内死亡数) / 退院患者数 × 100を表す



3. 地域別・年齢階層別退院患者数

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
総数	計	16,557	100.0	63.80	652	507	725	703	957	1,752	2,335	4,658	3,407	861
	男	9,002	100.0	64.10	372	256	310	280	465	989	1,460	2,772	1,818	280
	女	7,555	100.0	63.40	280	251	415	423	492	763	875	1,886	1,589	581
井郷地区	計	827	5.0	66.40	30	20	34	24	39	67	106	267	199	41
	男	445	4.9	66.90	15	11	13	9	19	48	54	159	101	16
	女	382	5.1	65.90	15	9	21	15	20	19	52	108	98	25
猿投地区	計	476	2.9	64.10	14	24	14	11	33	50	77	141	79	33
	男	273	3.0	64.30	11	14	5	5	10	22	51	104	41	10
	女	203	2.7	63.70	3	10	9	6	23	28	26	37	38	23
猿投台地区	計	684	4.1	67.80	17	14	19	19	32	74	99	206	164	40
	男	391	4.3	68.50	7	10	7	10	16	36	69	124	91	21
	女	293	3.9	66.90	10	4	12	9	16	38	30	82	73	19
逢妻地区	計	1,273	7.7	66.10	49	22	41	47	54	130	201	393	248	88
	男	696	7.7	64.90	27	14	24	26	24	70	137	222	133	19
	女	577	7.6	67.60	22	8	17	21	30	60	64	171	115	69
朝日丘地区	計	745	4.5	64.80	36	21	27	22	40	63	119	220	152	45
	男	416	4.6	65.90	17	11	9	10	20	45	73	119	93	19
	女	329	4.4	63.40	19	10	18	12	20	18	46	101	59	26
崇化館地区	計	1,191	7.2	65.50	36	32	42	36	79	139	162	319	264	82
	男	648	7.2	64.60	24	17	18	15	48	75	95	196	133	27
	女	543	7.2	66.50	12	15	24	21	31	64	67	123	131	55
豊南地区	計	251	1.5	60.80	13	8	11	6	27	32	27	81	41	5
	男	149	1.7	61.40	10	4	2	5	12	17	18	60	20	1
	女	102	1.4	60.00	3	4	9	1	15	15	9	21	21	4
保見地区	計	788	4.8	61.50	35	38	51	43	43	56	117	187	184	34
	男	426	4.7	63.60	15	19	19	15	23	31	76	118	98	12
	女	362	4.8	59.00	20	19	32	28	20	25	41	69	86	22
梅坪台地区	計	619	3.7	62.20	18	17	39	36	32	78	89	177	122	11
	男	332	3.7	60.30	11	12	18	21	19	47	56	92	55	1
	女	287	3.8	64.30	7	5	21	15	13	31	33	85	67	10
浄水地区	計	269	1.6	65.30	6	4	8	17	12	19	47	110	42	4
	男	156	1.7	66.80	4	0	2	6	6	14	29	74	21	0
	女	113	1.5	63.10	2	4	6	11	6	5	18	36	21	4
益富地区	計	533	3.2	66.10	25	14	13	16	25	45	53	197	121	24
	男	279	3.1	67.50	13	8	3	9	8	21	27	111	66	13
	女	254	3.4	64.50	12	6	10	7	17	24	26	86	55	11
美里地区	計	692	4.2	65.40	22	11	33	26	44	75	114	164	162	41
	男	394	4.4	65.40	17	7	15	5	27	46	58	106	98	15
	女	298	3.9	65.40	5	4	18	21	17	29	56	58	64	26
高橋地区	計	180	1.1	65.50	9	1	11	9	14	12	10	52	48	14
	男	92	1.0	67.50	5	1	3	3	3	9	5	25	32	6
	女	88	1.2	63.40	4	0	8	6	11	3	5	27	16	8
石野地区	計	106	0.6	67.20	2	2	3	5	4	11	22	29	23	5
	男	54	0.6	66.10	2	2	2	2	0	4	13	15	12	2
	女	52	0.7	68.30	0	0	1	3	4	7	9	14	11	3
松平地区	計	328	2.0	70.40	3	5	8	4	19	16	45	132	80	16
	男	192	2.1	69.50	3	3	5	3	10	9	26	83	45	5
	女	136	1.8	71.80	0	2	3	1	9	7	19	49	35	11
前林地区	計	484	2.9	68.00	10	5	21	9	26	48	54	180	103	28
	男	257	2.9	68.20	4	2	8	5	12	28	36	97	57	8
	女	227	3.0	67.80	6	3	13	4	14	20	18	83	46	20
竜神地区	計	159	1.0	67.00	6	5	3	3	8	20	10	51	45	8
	男	78	0.9	68.10	2	1	1	1	6	8	7	31	20	1
	女	81	1.1	66.00	4	4	2	2	2	12	3	20	25	7
若園地区	計	215	1.3	68.40	7	5	7	5	11	14	23	70	65	8
	男	137	1.5	71.00	3	2	3	1	8	8	15	45	49	3
	女	78	1.0	63.80	4	3	4	4	3	6	8	25	16	5
高岡地区	計	121	0.7	63.50	11	3	1	1	4	17	13	41	25	5
	男	64	0.7	64.70	5	1	0	1	3	9	6	23	13	3
	女	57	0.8	62.00	6	2	1	0	1	8	7	18	12	2

地域	性別	総数	比率(%)	平均年齢	0~9歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	~89歳	90歳~
上郷地区	計	225	1.4	60.60	13	6	10	11	11	33	42	54	38	7
	男	118	1.3	62.40	7	0	4	4	6	22	21	33	19	2
	女	107	1.4	58.60	6	6	6	7	5	11	21	21	19	5
末野原地区	計	450	2.7	68.20	5	14	10	7	15	69	66	124	109	31
	男	247	2.7	68.00	2	6	4	6	7	31	45	83	55	8
	女	203	2.7	68.40	3	8	6	1	8	38	21	41	54	23
藤岡地区	計	491	3.0	63.40	23	14	13	22	29	55	93	124	95	23
	男	260	2.9	63.50	13	9	3	7	13	34	50	78	45	8
	女	231	3.1	63.40	10	5	10	15	16	21	43	46	50	15
藤岡南地区	計	211	1.3	74.30	0	5	0	4	3	14	42	60	48	35
	男	107	1.2	71.20	0	4	0	1	3	10	20	39	20	10
	女	104	1.4	77.50	0	1	0	3	0	4	22	21	28	25
小原地区	計	352	2.1	72.60	5	2	5	2	7	28	64	125	74	40
	男	186	2.1	72.00	4	0	1	0	5	16	33	76	35	16
	女	166	2.2	73.30	1	2	4	2	2	12	31	49	39	24
足助地区	計	49	0.3	68.30	1	0	3	0	4	2	7	20	9	3
	男	25	0.3	65.90	0	0	3	0	2	0	4	9	7	0
	女	24	0.3	70.90	1	0	0	0	2	2	3	11	2	3
下山地区	計	109	0.7	72.90	0	1	0	1	4	12	21	33	25	12
	男	60	0.7	70.10	0	1	0	1	4	10	8	15	17	4
	女	49	0.6	76.30	0	0	0	0	0	2	13	18	8	8
稲武地区	計	182	1.1	73.60	2	1	1	1	7	9	24	68	56	13
	男	94	1.0	73.10	1	0	1	0	5	5	15	28	33	6
	女	88	1.2	74.10	1	1	0	1	2	4	9	40	23	7
旭地区	計	716	4.3	57.10	61	32	46	50	64	53	66	197	129	18
	男	377	4.2	58.50	38	16	18	12	28	29	36	118	80	2
	女	339	4.5	55.40	23	16	28	38	36	24	30	79	49	16
みよし市	計	2,302	13.9	60.00	118	90	133	127	152	304	318	530	446	84
	男	1,268	14.1	60.90	70	41	62	48	64	177	230	312	233	31
	女	1,034	13.7	59.00	48	49	71	79	88	127	88	218	213	53
東郷町	計	316	1.9	60.20	24	15	7	8	14	55	38	96	50	9
	男	171	1.9	61.80	12	5	2	2	9	29	30	58	21	3
	女	145	1.9	58.40	12	10	5	6	5	26	8	38	29	6
日進市	計	331	2.0	59.70	12	7	29	39	22	31	38	63	70	20
	男	161	1.8	59.90	5	6	12	16	9	12	28	35	35	3
	女	170	2.3	59.40	7	1	17	23	13	19	10	28	35	17
岡崎市	計	146	0.9	54.00	6	12	8	14	11	13	39	31	11	1
	男	76	0.8	55.80	4	5	4	3	6	6	28	15	5	0
	女	70	0.9	52.00	2	7	4	11	5	7	11	16	6	1
刈谷市	計	27	0.2	51.60	0	4	4	3	1	0	7	3	4	1
	男	12	0.1	63.60	0	0	1	1	0	0	6	1	3	0
	女	15	0.2	42.10	0	4	3	2	1	0	1	2	1	1
名古屋市	計	209	1.3	55.20	6	3	22	21	30	35	27	32	24	9
	男	103	1.1	51.40	3	3	14	11	12	17	20	15	8	0
	女	106	1.4	58.80	3	0	8	10	18	18	7	17	16	9
安城市	計	33	0.2	42.50	2	7	6	0	5	3	1	7	2	0
	男	18	0.2	45.80	1	3	5	0	1	0	1	5	2	0
	女	15	0.2	38.50	1	4	1	0	4	3	0	2	0	0
知立市	計	29	0.2	45.70	3	5	3	2	2	4	3	3	3	1
	男	6	0.1	45.70	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0
	女	23	0.3	45.70	2	5	2	2	1	3	2	2	3	1
瀬戸市	計	68	0.4	55.70	3	4	7	5	5	9	10	13	7	5
	男	44	0.5	56.20	0	3	5	3	4	6	6	12	4	1
	女	24	0.3	54.80	3	1	2	2	1	3	4	1	3	4
長久手市	計	39	0.2	56.10	3	0	2	5	7	6	2	4	6	4
	男	18	0.2	57.70	1	0	1	0	4	5	2	2	1	2
	女	21	0.3	54.60	2	0	1	5	3	1	0	2	5	2
その他市外	計	224	1.3	53.15	5	23	19	26	12	42	27	36	27	7
	男	112	1.4	54.84	4	7	7	11	5	26	21	20	11	0
	女	112	1.2	52.18	1	16	12	15	7	16	6	16	16	7
県外	計	107	0.6	46.90	11	11	11	16	6	9	12	18	7	6
	男	60	0.7	44.90	11	8	5	2	3	6	4	13	6	2
	女	47	0.6	49.30	0	3	6	14	3	3	8	5	1	4

4. 疾病別・診療科別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	内科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	救急科	死亡数	剖検数
総数	計	16,557	7,460	581	2,047	1,427	317	524	208	100	143	950	912	701	469	14	692	12	845	9
	男	9,002	4,508	309	1,151	673	149	280	134	56	83	736	0	325	268	4	320	6	514	4
	女	7,555	2,952	272	896	754	168	244	74	44	60	214	912	376	201	10	372	6	331	5
I 感染症及び寄生虫症	計	289	156	71	9	1	0	0	2	0	27	7	1	0	12	3	0	0	26	1
	男	144	87	30	5	1	0	0	0	0	12	4	0	0	4	1	0	0	15	0
	女	145	69	41	4	0	0	0	2	0	15	3	1	0	8	2	0	0	11	1
II 新生物	計	3,242	1,295	0	761	21	71	44	121	1	16	326	433	0	124	3	26	0	324	3
	男	1,757	882	0	371	13	40	27	65	0	9	267	0	0	69	1	13	0	205	1
	女	1,485	413	0	390	8	31	17	56	1	7	59	433	0	55	2	13	0	119	2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	87	45	4	23	0	0	1	0	0	0	3	11	0	0	0	0	0	3	0
	男	36	26	2	5	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0
	女	51	19	2	18	0	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	405	316	19	7	1	5	3	2	0	0	1	1	6	44	0	0	0	11	0
	男	195	161	10	4	0	2	0	0	0	0	1	0	5	12	0	0	0	4	0
	女	210	155	9	3	1	3	3	2	0	0	0	1	1	32	0	0	0	7	0
V 精神及び行動の障害	計	28	27	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	男	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	11	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI 神経系の疾患	計	363	268	13	1	13	2	47	0	0	0	0	0	1	17	1	0	0	12	1
	男	207	154	8	1	7	2	21	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	7	1
	女	156	114	5	0	6	0	26	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	5	0
VII 眼及び付属器の疾患	計	808	3	0	0	0	119	0	0	0	0	0	0	686	0	0	0	0	0	0
	男	361	2	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	315	0	0	0	0	0	0
	女	447	1	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	371	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	55	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	1	0	0
	男	32	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0
	女	23	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	1	0	0
IX 循環器系の疾患	計	2,668	2,225	1	123	0	1	217	1	96	1	1	1	0	1	0	0	0	156	2
	男	1,635	1,383	1	86	0	1	110	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	94	1
	女	1,033	842	0	37	0	0	107	1	42	1	1	1	0	1	0	0	0	62	1
X 呼吸器系の疾患	計	1,135	724	170	7	1	0	0	62	0	0	2	0	0	168	0	1	0	174	0
	男	744	469	98	5	1	0	0	54	0	0	2	0	0	115	0	0	0	114	0
	女	391	255	72	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	53	0	1	0	60	0
XI 消化器系の疾患	計	2,597	956	10	964	0	3	0	0	0	0	3	7	0	10	0	644	0	54	0
	男	1,415	517	4	596	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	292	0	30	0
	女	1,182	439	6	368	0	3	0	0	0	0	0	7	0	7	0	352	0	24	0
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	155	14	10	3	3	38	0	0	0	76	0	0	0	9	0	1	1	3	0
	男	90	10	3	2	1	22	0	0	0	47	0	0	0	5	0	0	0	1	0
	女	65	4	7	1	2	16	0	0	0	29	0	0	0	4	0	1	1	2	0
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	513	93	18	4	370	6	1	1	0	3	1	0	0	8	7	0	1	14	1
	男	243	49	10	2	164	3	1	1	0	3	1	0	0	6	2	0	1	7	0
	女	270	44	8	2	206	3	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	7	1
XIV 尿路性器系の疾患	計	997	409	17	25	0	3	0	0	0	0	372	169	0	2	0	0	0	25	0
	男	434	189	7	7	0	1	0	0	0	0	230	0	0	0	0	0	0	6	0
	女	563	220	10	18	0	2	0	0	0	0	142	169	0	2	0	0	0	19	0
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	266	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	265	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	266	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	265	0	0	0	0	0	0	0
XVI 周産期に発生した病態	計	52	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	26	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	26	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	39	5	1	6	9	1	3	0	0	0	1	3	0	10	0	0	0	0	0
	男	18	2	1	4	6	0	2	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
	女	21	3	0	2	3	1	1	0	0	0	0	3	0	8	0	0	0	0	0

国際分類大項目分類	総数	内科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓血管外	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外	救急科	死亡数	剖検数	
VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	213	84	89	21	2	0	1	0	0	7	0	0	9	0	0	0	11	1	
	男	116	45	46	12	2	0	0	0	0	4	0	0	7	0	0	0	7	1	
	女	97	39	43	9	0	0	1	0	0	3	0	0	2	0	0	0	4	0	
IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,155	85	8	57	675	40	192	18	3	19	10	11	8	5	0	15	9	14	0
	男	577	47	3	33	299	27	110	14	2	12	8	0	4	2	0	11	5	10	0
	女	578	38	5	24	376	13	82	4	1	7	2	11	4	3	0	4	4	4	0
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,288	584	62	35	331	28	15	1	0	1	216	10	0	0	0	5	0	0	0
	男	842	376	38	17	179	7	8	0	0	0	213	0	0	0	0	4	0	0	0
	女	446	208	24	18	152	21	7	1	0	1	3	10	0	0	0	1	0	0	0
XXI 特殊目的用コード(新型コロナウイルス感染症を含む)	計	202	168	33	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0
	男	113	91	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	女	89	77	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0

※主病名に対する死亡数であるため、死因統計とは異なる

5. 診療科別・在院期間別退院患者数

		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総数	計	16,557	9,242	3,411	1,574	1,000	1,090	176	61	3	0	0	12.1
	男	9,002	5,024	1,823	856	548	601	110	38	2	0	0	12.2
	女	7,555	4,218	1,588	718	452	489	66	23	1	0	0	11.9
内科	計	7,460	3,389	1,763	860	594	705	112	36	1	0	0	14.7
	男	4,508	2,169	1,012	503	333	397	69	24	1	0	0	14.2
	女	2,952	1,220	751	357	261	308	43	12	0	0	0	15.4
小児科	計	581	554	21	2	3	0	1	0	0	0	0	4.4
	男	309	292	13	2	2	0	0	0	0	0	0	4.3
	女	272	262	8	0	1	0	1	0	0	0	0	4.5
外科	計	2,047	995	557	190	138	135	22	9	1	0	0	13.2
	男	1,151	568	283	109	85	82	17	6	1	0	0	14.0
	女	896	427	274	81	53	53	5	3	0	0	0	12.4
整形外科	計	1,427	632	315	276	101	82	15	6	0	0	0	13.2
	男	673	339	140	104	41	36	11	2	0	0	0	12.3
	女	754	293	175	172	60	46	4	4	0	0	0	14.0
形成外科	計	317	272	22	9	3	5	2	3	1	0	0	6.6
	男	149	124	13	4	2	3	0	3	0	0	0	6.7
	女	168	148	9	5	1	2	2	0	1	0	0	6.5
脳神経外科	計	524	192	120	62	59	76	12	3	0	0	0	18.0
	男	280	107	68	30	29	38	8	0	0	0	0	17.2
	女	244	85	52	32	30	38	4	3	0	0	0	18.9
呼吸器外科	計	208	45	127	22	8	5	1	0	0	0	0	11.5
	男	134	28	79	18	5	4	0	0	0	0	0	11.7
	女	74	17	48	4	3	1	1	0	0	0	0	11.0
心臓血管外	計	100	6	9	29	30	22	2	2	0	0	0	28.0
	男	56	3	5	19	15	11	2	1	0	0	0	26.9
	女	44	3	4	10	15	11	0	1	0	0	0	29.4
皮膚科	計	143	91	30	5	10	7	0	0	0	0	0	10.3
	男	83	48	21	5	5	4	0	0	0	0	0	10.7
	女	60	43	9	0	5	3	0	0	0	0	0	9.6
泌尿器科	計	950	659	163	58	33	30	5	2	0	0	0	8.7
	男	736	528	120	38	25	21	2	2	0	0	0	8.2
	女	214	131	43	20	8	9	3	0	0	0	0	10.8
産婦人科	計	912	703	172	18	7	10	2	0	0	0	0	6.9
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	女	912	703	172	18	7	10	2	0	0	0	0	6.9



		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
眼 科	計	701	647	37	11	2	4	0	0	0	0	0	3.8
	男	325	297	19	8	0	1	0	0	0	0	0	4.0
	女	376	350	18	3	2	3	0	0	0	0	0	3.7
耳鼻咽喉科	計	469	387	57	14	5	5	1	0	0	0	0	7.5
	男	268	212	39	10	4	3	0	0	0	0	0	7.6
	女	201	175	18	4	1	2	1	0	0	0	0	7.4
麻 酔 科	計	14	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.0
	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.3
	女	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.9
歯科口腔外	計	692	644	18	18	7	4	1	0	0	0	0	4.0
	男	320	299	11	6	2	1	1	0	0	0	0	4.0
	女	372	345	7	12	5	3	0	0	0	0	0	4.0
救 急 科	計	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.2
	男	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3
	女	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0

6. 疾病別・在院期間別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
総 数	計	16,557	9,242	3,411	1,574	1,000	1,090	176	61	3	0	0	12.1
	男	9,002	5,024	1,823	856	548	601	110	38	2	0	0	12.2
	女	7,555	4,218	1,588	718	452	489	66	23	1	0	0	11.9
I 感染症及び寄生虫症	計	289	163	64	25	15	19	2	1	0	0	0	11.9
	男	144	76	34	13	8	12	1	0	0	0	0	12.8
	女	145	87	30	12	7	7	1	1	0	0	0	11.2
II 新生物	計	3,242	1,313	963	400	257	259	43	7	0	0	0	14.3
	男	1,757	591	532	263	165	172	28	6	0	0	0	16.2
	女	1,485	722	431	137	92	87	15	1	0	0	0	12.2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	87	42	24	9	4	7	1	0	0	0	0	13.5
	男	36	19	7	4	2	3	1	0	0	0	0	14.1
	女	51	23	17	5	2	4	0	0	0	0	0	13.0
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	計	405	220	89	33	29	25	5	3	1	0	0	14.2
	男	195	116	37	16	15	9	1	1	0	0	0	12.1
	女	210	104	52	17	14	16	4	2	1	0	0	16.2
V 精神及び行動の障害	計	28	10	6	2	1	5	3	1	0	0	0	26.9
	男	17	7	6	1	0	2	1	0	0	0	0	17.6
	女	11	3	0	1	1	3	2	1	0	0	0	41.2
VI 神経系の疾患	計	363	198	74	25	19	35	9	3	0	0	0	14.4
	男	207	124	39	7	10	20	5	2	0	0	0	13.6
	女	156	74	35	18	9	15	4	1	0	0	0	15.4
VII 眼及び付属器の疾患	計	808	755	37	11	2	3	0	0	0	0	0	3.4
	男	361	334	19	8	0	0	0	0	0	0	0	3.6
	女	447	421	18	3	2	3	0	0	0	0	0	3.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	55	47	8	0	0	0	0	0	0	0	0	6.0
	男	32	26	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6.7
	女	23	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4.9
IX 循環器系の疾患	計	2,668	1,236	603	318	218	240	41	12	0	0	0	14.3
	男	1,635	841	366	176	106	114	25	7	0	0	0	12.9
	女	1,033	395	237	142	112	126	16	5	0	0	0	16.6
X 呼吸器系の疾患	計	1,135	478	212	125	117	176	22	4	1	0	0	17.6
	男	744	307	143	86	76	111	16	4	1	0	0	17.9
	女	391	171	69	39	41	65	6	0	0	0	0	16.9

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年～	平均在院日数
XI 消化器系の疾患	計	2,597	1,697	523	173	103	83	8	9	1	0	0	9.5
	男	1,415	945	270	87	56	42	7	7	1	0	0	9.7
	女	1,182	752	253	86	47	41	1	2	0	0	0	9.2
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	155	90	28	13	13	9	0	2	0	0	0	12.4
	男	90	46	19	11	8	4	0	2	0	0	0	13.7
	女	65	44	9	2	5	5	0	0	0	0	0	10.6
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	513	84	196	131	33	52	10	7	0	0	0	19.3
	男	243	46	103	46	13	28	4	3	0	0	0	18.5
	女	270	38	93	85	20	24	6	4	0	0	0	20.1
XIV 尿路性器系の疾患	計	997	617	198	70	51	50	8	3	0	0	0	11.0
	男	434	255	93	30	25	24	5	2	0	0	0	11.9
	女	563	362	105	40	26	26	3	1	0	0	0	10.3
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	266	202	59	3	1	1	0	0	0	0	0	7.3
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	女	266	202	59	3	1	1	0	0	0	0	0	7.3
XVI 周産期に発生した病態	計	52	46	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6.8
	男	26	22	4	0	0	0	0	0	0	0	0	7.0
	女	26	24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6.6
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	39	25	8	5	0	0	1	0	0	0	0	9.4
	男	18	9	4	4	0	0	1	0	0	0	0	13.1
	女	21	16	4	1	0	0	0	0	0	0	0	6.3
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	213	152	22	8	12	15	4	0	0	0	0	10.4
	男	116	80	14	3	8	7	4	0	0	0	0	11.3
	女	97	72	8	5	4	8	0	0	0	0	0	9.5
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,155	542	209	195	111	77	14	7	0	0	0	14.1
	男	577	306	90	86	48	36	8	3	0	0	0	13.2
	女	578	236	119	109	63	41	6	4	0	0	0	15.1
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,288	1,233	47	5	2	1	0	0	0	0	0	2.9
	男	842	821	19	1	1	0	0	0	0	0	0	2.6
	女	446	412	28	4	1	1	0	0	0	0	0	3.5
XXI 特殊目的用コード (新型コロナウイルス感染症を含む)	計	202	92	35	23	12	33	5	2	0	0	0	17.2
	男	113	53	18	14	7	17	3	1	0	0	0	16.8
	女	89	39	17	9	5	16	2	1	0	0	0	17.7

7. 疾病別・年齢階層別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
総数	計	16,557	652	507	725	703	957	1,752	2,335	4,658	3,407	861	63.80
	男	9,002	372	256	310	280	465	989	1,460	2,772	1,818	280	64.10
	女	7,555	280	251	415	423	492	763	875	1,886	1,589	581	63.40
I 感染症及び寄生虫症	計	289	59	18	17	1	14	20	33	44	65	18	52.30
	男	144	25	7	5	1	10	11	21	24	33	7	55.00
	女	145	34	11	12	0	4	9	12	20	32	11	49.70
II 新生物	計	3,242	4	18	36	91	203	443	559	1,247	571	70	68.20
	男	1,757	4	9	14	19	44	163	325	805	349	25	71.00
	女	1,485	0	9	22	72	159	280	234	442	222	45	64.80
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	87	3	3	1	2	3	12	13	27	22	1	65.80
	男	36	1	1	0	0	0	4	4	15	10	1	69.90
	女	51	2	2	1	2	3	8	9	12	12	0	62.90
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	405	19	1	7	22	42	67	75	90	61	21	62.20
	男	195	10	1	4	9	27	36	35	45	22	6	59.80
	女	210	9	0	3	13	15	31	40	45	39	15	64.50



国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
V 精神及び行動の障害	計	28	1	1	0	3	2	4	5	6	5	1	62.80
	男	17	0	0	0	3	2	4	3	1	3	1	63.10
	女	11	1	1	0	0	0	0	2	5	2	0	62.40
VI 神経系の疾患	計	363	11	17	23	19	24	57	48	95	56	13	60.00
	男	207	9	11	10	15	14	34	32	51	28	3	57.80
	女	156	2	6	13	4	10	23	16	44	28	10	62.80
VII 眼及び付属器の疾患	計	808	3	3	5	12	26	78	130	345	198	8	71.30
	男	361	2	2	1	11	15	39	66	137	83	5	69.70
	女	447	1	1	4	1	11	39	64	208	115	3	72.60
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	55	3	2	1	4	6	8	13	15	3	0	56.70
	男	32	2	2	0	1	3	6	9	8	1	0	55.90
	女	23	1	0	1	3	3	2	4	7	2	0	57.70
IX 循環器系の疾患	計	2,668	2	9	12	33	101	289	402	852	766	202	73.10
	男	1,635	1	5	7	26	75	210	300	540	410	61	70.80
	女	1,033	1	4	5	7	26	79	102	312	356	141	76.80
X 呼吸器系の疾患	計	1,135	166	36	77	35	51	41	80	205	292	152	59.90
	男	744	98	25	55	25	31	28	64	159	198	61	59.40
	女	391	68	11	22	10	20	13	16	46	94	91	61.00
XI 消化器系の疾患	計	2,597	63	162	315	149	193	267	300	511	495	142	58.30
	男	1,415	45	66	140	88	106	182	197	289	265	37	58.20
	女	1,182	18	96	175	61	87	85	103	222	230	105	58.40
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	155	12	7	9	7	14	32	21	17	23	13	56.30
	男	90	5	3	4	5	10	21	11	7	16	8	58.10
	女	65	7	4	5	2	4	11	10	10	7	5	53.90
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	513	20	34	9	11	26	54	91	173	83	12	62.60
	男	243	12	10	1	9	16	24	47	84	32	8	62.80
	女	270	8	24	8	2	10	30	44	89	51	4	62.40
XIV 尿路性器系の疾患	計	997	17	11	38	61	100	116	151	255	196	52	64.30
	男	434	10	5	13	15	25	50	77	131	93	15	66.10
	女	563	7	6	25	46	75	66	74	124	103	37	63.00
XV 妊娠、分娩及び産じょく	計	266	0	5	88	161	12	0	0	0	0	0	31.80
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	266	0	5	88	161	12	0	0	0	0	0	31.80
XVI 周産期に発生した病態	計	52	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	男	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	39	5	16	3	3	4	2	2	3	1	0	29.10
	男	18	2	10	1	1	1	1	2	0	0	0	24.40
	女	21	3	6	2	2	3	1	0	3	1	0	33.20
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	213	81	14	4	2	3	13	14	33	39	10	42.50
	男	116	41	9	3	1	1	8	9	18	22	4	43.10
	女	97	40	5	1	1	2	5	5	15	17	6	41.80
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,155	44	78	58	38	56	95	132	241	302	111	64.30
	男	577	25	55	44	26	39	61	68	120	113	26	57.80
	女	578	19	23	14	12	17	34	64	121	189	85	70.80
XX 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,288	60	65	21	44	72	143	241	462	172	8	61.50
	男	842	37	31	8	24	41	100	177	311	111	2	62.90
	女	446	23	34	13	20	31	43	64	151	61	6	59.00
XXI 特殊目的用コード (新型コロナウイルス感染症を含む)	計	202	27	7	1	5	5	11	25	37	57	27	64.10
	男	113	17	4	0	1	5	7	13	27	29	10	62.00
	女	89	10	3	1	4	0	4	12	10	28	17	66.80

8. 診療科別疾患順位（細分類）

細分類病名のままではわかりにくいものに関しては、一部修正を加え掲載

<内科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I500	うっ血性心不全	412	22.9	37.5	125	2
2	J690	誤嚥性肺炎	385	27.6	28.5	137	1
3	I208	労作性狭心症	231	4.8	10	99	2
4	I480	発作性心房細動	198	4.5	7	59	1
5	I633	血栓性脳梗塞	177	18.7	25	78	3
6	Z136	心臓カテーテル検査入院	171	2.7	3	4	2
7	Z138	その他の検査（睡眠時無呼吸、腎生検、気管支鏡）入院	168	2.0	1.5	2	1
	U071	新型コロナウイルス感染症	168	25.3	28	144	4
8	K803	総胆管結石性胆管炎	152	12.2	16	50	2
9	N185	慢性腎臓病、ステージ5	147	16.1	22.5	168	3
10	C341	上葉肺の悪性新生物	146	21.1	26	131	1

<小児科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	R560	熱性けいれん	56	3	4	7	1
2	U071	新型コロナウイルス感染症	33	3.1	3	5	1
3	Z130	食物負荷試験	31	1	1.5	2	1
	J450	小児気管支喘息	31	5.1	5.5	8	3
4	J205	RSウイルスによる急性気管支炎	27	4.7	5	8	2
5	J209	急性気管支炎	24	3.5	3.5	5	2
6	J189	急性肺炎	20	4.3	4.5	6	3
7	M303	川崎病	17	8.1	8	12	4
	A099	急性胃腸炎	17	3.2	3	4	2
8	P071b	低出産体重(児)のうち、出産体重1500グラム-2499グラムの児	16	7.4	7.5	14	1
9	E86	ケトン血性嘔吐症	14	3.4	3.5	5	2
	R568	痙攣	14	2	2	3	1
	Z134	成長ホルモン負荷試験	14	2.7	2	3	1
10	Z016	MRI検査入院	13	1	1	1	1

<外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K409	片側鼠径ヘルニア	137	3.6	7	12	2
2	K801	慢性胆のう炎を伴う胆のう結石	100	6.8	9	40	4
3	K913	術後腸閉塞	89	12.2	15	61	1
4	K358	急性虫垂炎、その他	82	5.1	7	11	4
5	C504	乳房上外側4分の1の悪性新生物	77	10.7	10.5	102	1
6	C162	胃体部の悪性新生物	57	22.4	26	63	3
7	C20	直腸の悪性新生物	56	20.3	19.5	66	2
8	K353	限局性腹膜炎を伴う急性虫垂炎	50	10.4	13	55	4
9	K810	急性胆のう炎	45	9.7	12	67	4
10	C163	幽門前庭の悪性新生物	43	23.8	21	89	2



<整形外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z138	脊髄腔造影検査入院	238	2.0	2.5	3	2
2	S7200	閉鎖性大腿骨頸部骨折	151	19.5	23.5	56	5
3	S7210	閉鎖性脛骨貫通骨折	139	19.7	24	118	5
4	Z470	術後抜釘入院	92	2.7	5	9	2
5	M4806	腰部脊柱管狭窄症	81	13.5	15.5	53	6
6	S5250	閉塞性橈骨遠位端骨折	54	2.7	4	8	2
7	M4712	頸髄症性脊椎症	49	15.3	17	61	6
8	M4125	特発性脊柱側弯症	26	12.1	13	17	10
9	S141	頸髄損傷	21	18.0	17	49	4
10	M170	原発性膝関節症	20	19.3	19	32	17

<形成外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H024	眼瞼下垂	99	1.6	2.5	4	1
2	S0220	閉鎖性鼻骨骨折	21	3.1	2.5	20	1
3	H020	眼瞼内反症	18	1.4	2	3	1
4	Z421	術後乳房再建	15	7.9	8.5	20	2
	D171	体幹の皮膚及び皮下腫瘍	15	2.4	3.5	5	2
5	C443	顔面の皮膚悪性新生物	14	2.8	3	9	1

<脳神経外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I610	脳内出血、皮質下出血	114	22	24	63	1
2	S0650	外傷性硬膜下出血	111	15	20.5	76	1
3	S0660	外傷性くも膜下出血	35	12.5	13.5	55	1
4	G408	症候性てんかん	22	10.1	9	34	2
5	S0620	びまん性脳損傷	21	10.5	12	28	2
	I652	頸動脈の閉塞及び狭窄	21	16.9	18	52	8
6	S0640	硬膜外出血	11	13.7	12	30	1
7	Z138	脳血管造影検査入院	10	2	2	2	2
8	I614	小脳の脳内出血	8	21.5	18.5	52	5
	C793	転移性脳腫瘍	8	22.6	18	75	2
	I613	脳幹の脳内出血	8	26	18	126	1
9	I600	頸動脈分岐部くも膜下出血	7	32.7	37	48	4
	I671	未破裂脳動脈瘤	7	15	12.5	36	9
	I606	その他の頭蓋内動脈からのくも膜下出血	7	36.9	36	72	2
10	D320	脳髄膜	6	19.8	17	38	10
	I601	中大脳動脈部くも膜下出血	6	29	25.5	72	2
	D352	下垂体腫瘍	6	12.8	12.5	18	8
	C712	側頭葉の悪性新生物	6	42.2	37.5	70	24

<呼吸器外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	C341	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	46	10.6	10.5	23	3
2	J931	自然気胸	42	9.7	11.5	19	5
3	C343	下葉、気管支又は肺の悪性新生物	29	12.6	13.5	66	2
4	C780	肺の転移性悪性新生物	22	12.2	16	32	9
5	J938	続発性気胸	10	18.9	20	36	9

<心臓血管外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I710	大動脈の解離	20	33.7	26.5	177	2
2	I340	僧帽弁閉鎖不全症	16	22.3	18	104	15
	I208	労作性狭心症	16	25.4	24.5	36	18
3	I060	リウマチ性大動脈狭窄症	7	21.9	20.5	29	18
	I200	不安定狭心症	7	35.7	32	59	21
4	I351	大動脈弁閉鎖不全症	6	20.2	19.5	39	2
	I209	狭心症3枝病変	6	36.7	30	70	20
5	I350	大動脈弁狭窄症	3	28	24	37	23
	I330	急性感染性心内膜炎	3	38	33	52	29

<皮膚科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	L031	四肢の蜂窩織炎	49	10.6	13	29	3
2	T630	マムシ咬傷	15	4.5	5	9	2
3	B023	結膜炎を伴う帯状疱疹	9	14.1	9.5	48	6
4	L518	多形紅斑	5	8.4	7	15	6
	B027	播種性帯状疱疹	5	15.8	9	45	7
	L638	円形脱毛症	5	3.2	3.5	4	3
5	C443	顔面の皮膚悪性新生物	4	2.5	3	4	2
	B029	合併症を伴わない帯状疱疹	4	8.3	8.5	11	5
	D047	下肢の皮膚腫瘍	4	5.5	5.5	9	2
	B022	帯状疱疹後神経痛	4	8.5	8.5	10	7
	A46	丹毒	4	7.8	8	9	7

<泌尿器科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z125	前立腺生検入院	210	2	3	4	2
2	N201	尿管結石	118	6.3	12.5	26	2
3	C678	膀胱の境界部病巣の悪性新生物	71	9.9	15.5	59	4
4	N10	急性尿管間質性腎炎	69	10.9	13.5	36	3
5	C61	前立腺の悪性新生物	52	16.6	20	67	3
6	N200	腎結石	44	4.8	6	16	2
7	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	39	10.4	10.5	52	3
8	C672	膀胱側壁の悪性新生物	34	7.8	9	37	4
9	N136	膿腎症	30	22.3	19	84	4
10	N40	前立腺肥大症	25	7.1	8	14	5

<産婦人科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	O800	自然頭位分娩	109	7.3	8.5	11	6
2	C541	子宮内膜の悪性新生物	101	6.2	8.5	50	1
3	C56	卵巣の悪性新生物	92	10.3	20	62	2
4	D27	卵巣の良性新生物	43	6.5	8	13	5
5	D259	子宮平滑筋腫、その他	39	7.1	7.5	13	3



6	O342	既往帝王切開後妊娠	36	8.8	8.5	10	7
7	D069	子宮頸部の良性新生物	31	3.8	6	9	3
	N840	子宮体部ポリープ	31	2.8	2.5	6	1
8	C539	子宮頸部の悪性新生物	30	10.4	10	90	2
	D251	壁内子宮平滑筋腫	30	7.1	8.5	11	6
9	D250	粘膜下子宮平滑筋腫	27	4.3	6	9	3
10	O814	吸引娩出術を伴う自然分娩	25	7.6	8.5	10	7

<眼科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H250	老人性初発白内障	353	2.6	4	24	1
2	H251	老人性核白内障	198	2.7	5	19	2
3	H353	黄斑及び後極の変性	39	7.3	9	14	5
4	H258	その他の老人性白内障	19	3.4	4	14	2
5	H401	原発開放隅角緑内障	15	7.5	8	14	5

<耳鼻咽喉科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J36	扁桃周囲膿瘍	38	6	6	25	3
2	E049	線種様甲状腺腫	36	7.3	8	13	7
3	C73	甲状腺の悪性新生物	24	8.5	9.5	21	7
4	J350	慢性扁桃炎	23	8.6	10.5	17	7
5	H912	突発性難聴(特発性)	22	7.9	8.5	12	4
6	J342	鼻中隔湾曲症	20	6.7	7	8	6
7	H813	末梢性めまい症	18	4.3	4.5	10	2
8	J039	急性扁桃炎	17	4.4	4.5	6	3
9	D110	耳下腺	14	7.9	7.5	20	6
10	J324	慢性汎副鼻腔炎	11	6.8	7	9	6
	G510	ベル<Bell>麻痺	11	8.6	9	13	4
	C320	声門の悪性新生物	11	13.3	11.5	36	8

<麻酔科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	M4806	腰部脊柱管狭窄症	4	5.8	5.5	6	5
2	B022	帯状疱疹後神経痛	3	5	5	5	5
3	C539	子宮頸部の悪性新生物	2	2	2	2	2

<歯科口腔外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K073	下顎水平埋伏智歯	477	2.4	2.5	3	2
2	K011	埋伏歯<impacted teeth>	62	2.6	2.5	3	2
3	K048	歯根のう<囊>胞	24	3.8	4	8	2
4	K090	発育性歯原性のう<囊>胞	18	5.4	5	11	2
5	K010	埋伏歯<embedded teeth>	13	2.9	2.5	3	2

8. 剖検数

年齢	性別	診療科	主臨床診断名
69	男	内科	ANCA 関連血管炎
66	男	呼吸器内科	心停止
79	女	総合内科	メソトレキセート関連リンパ増殖性疾患の疑い
76	女	産婦人科	子宮肉腫
96	女	内分泌代謝科	急性腎不全
81	男	外科	胃神経内分泌細胞癌
76	女	呼吸器内科	発熱性好中球減少症 ニューモシスチス肺炎の疑い サイトメガロウイルス肺炎の疑い
75	男	救急科	腹部大動脈瘤破裂
94	女	救急科	老衰 来院時心肺停止
61	男	脳神経内科	脳症
80	女	総合内科	ニューモシスチス肺炎

9. 臨床研究

受託 No	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
2022-ST01		胃癌患者に対する在宅輸液療法の現状	外科	世古口 英		2022/5/17 ～ 2022/12/31
2022-ST02		開心術後心房細動に対する盲目的Mg補充療法の効果と安全性	心臓外科	寺田 貴史	当院： 約110例	2022/5/17 ～ 2022/12/31
2022-ST03		腹部～骨盤CTにおける腎臓と腸管の位置関係に関する検討	腎臓内科	倉田 久嗣	当院：2000例 (全参加施設例)	2022/5/24 ～ 2022/10/31
2022-ST04		CT colonography(CTC)における拡張不良所見の発生要因とその対応に対する検討	消化器内科	平岩 厚佑	当院：250例 (全参加施設例)	2022/6/7 ～ 2022/10/31
2022-ST05		Escherichia coli、Klebsiella pneumoniae菌血症におけるcefepodoximeディスク簡易スクリーニングによる第3世代セファロスポリン耐性早期検出の臨床的効果の検討	薬剤部	酒井 幹康	当院：150例 (全参加施設例)	2022/6/7 ～ 2023/3/31 →2023/9/30
2022-ST06	名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科	冠動脈バイパス術後患者に対する冠動脈インターベンションとその予後に関する観察研究に関する情報公開	循環器内科	大橋 大器	当院：全例 (全参加施設900例)	2022/6/14 ～ 2023/12/31
2022-ST07		大腸癌肝転移切除後、補助化学療法の有無についての臨床病理学的検討	外科	久留宮 康浩	当院：60例 (全参加施設例)	2022/6/14 ～ 2022/12/31
2022-ST08	TXP Medical 株式会社リサーチチーム	消防救急隊と搬送先病院の連携のための患者情報共有アプリ(NSER mobile)導入による病院前診療・救急医療体制への影響の検討 多機関共同研究 ～NEXT INSPIRE Study～	外科	水野 敬輔	当院：全例 (全参加施設例)	2022/6/14 ～ 2030/12/31
2022-ST09		急性虫垂炎緊急手術症例におけるSARS-Cov-2パンデミックの影響	外科	権田 紘丈	当院：450例	2022/6/28 ～ 2022/12/31
2022-ST10	名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科	心原性ショックを伴う急性心筋梗塞多施設前向き観察研究	循環器内科	大橋 大器	全参加施設 100例	2022/6/28 ～ 2025/3/31

受託 No	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
2022 ST11	国立長寿医療研究センター	サルコペニア病態に関する筋肉の質を含めた基礎および臨床研究	整形外科	金山 康秀	全参加施設 300例	
2022 ST12	新潟大学	日本における大腿骨近位部骨折の適正治療を目指したグローバルデータベースの作成	整形外科	金山 康秀	全参加施設 1000例	2022/6/28 ～ 2025/3/31
2022 ST13		直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術、及び骨盤臓器脱合併直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定併用仙骨靭帯固定術の手術成績の検討	外科	加藤 健宏	2019/4/1- 2022/5/31に 上記術式を施行した50症例	2022/7/5～ 2022年 秋 学会発表時（演題採択状況による）
2022 ST14	名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器内科学	肝硬変に合併した門脈血栓症の経過予測に有用な因子および予後への影響を解明するための前向き観察研究	消化器内科	森田 清	当院：例 (全参加施設 40例)	2022/7/12 ～ 2027/12/31
2022 ST15						
2022 ST16	第二日赤	愛知小児腎臓病専門施設に来院した幼稚園・学校および3歳児検尿の新基準に関する実態調査	小児科	梶田 光春	定めない	2022/7/19 ～ 2025/12/31
2022 ST17		がん化学療法施行中患者における救急外来受診の実態調査	薬剤部	加藤 亜季	-	2022/8/2 ～ 2023/3/1
2022 ST18	名古屋大学 消化器内科	腸管リンパ腫における臨床病理学的検討	消化器内科	内田 元太	当院：20例 (全参加施設 500例)	2022/8/16 ～ 2027/3/31
2022 ST19		糖尿病教育入院における栄養食事指導の課題	栄養管理室	鈴木 祥子	当院：100例	2022/8/23 ～ 2022/12/31
2022 ST20	渥美主管	脳卒中患者の発症1週間後の機能と退院時の生活自立度の関連について	リハビリテーション室	仲川 賢	当院：100例 (全参加施設 300例)	2022/9/6 ～ 2023/3/31
2022 ST21	名古屋大学大学院 医学系研究科 脳神経病態制御学講座脳神経外科学	もやもや病発症と腸内および口腔内細菌叢に関する研究	脳神経外科	住友 正樹	10例	2022/9/27 ～ 2027/4/1
2022 ST22	名古屋大学大学院 医学系研究科 脳神経病態制御学講座脳神経外科学	脳血管障害患者の血中・尿中microRNAに関する研究	脳神経外科	住友 正樹	10例	2022/9/27 ～ 2026/4/1



受託 No	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
2022 ST23		一過性意識消失にて当院へ救急搬送された患者の解析	総合内科	西本 泰浩	2000例	2022/10/4 ～ 2023/4/30
2022 ST24	三重大学大学院 先進血液腫瘍学	未治療CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫における新規治療導入後の診断実態と予後に関する国内多機関共同観察研究	血液内科	平賀 潤二	8例	2022/11/15 ～ 2023/12/31
2022 ST25	名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター・小児科	一般小児科診療における医療者の着衣についての検討	小児科	梶田 光春	100例	2022/12/13 ～ 2025/3/31
2022 ST26	ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社	BSJ主導観察研究 石灰化病変におけるデバイス選択がステント拡張率に及ぼす影響をIVUSカルシウムスコア別に観察する研究	循環器内科	窪田 龍二	20例	2022/11/29 ～ 2023/6/30
2022 ST27		当院の若手外科医（後期研修医）が執刀する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術	外科	久留宮 康浩	90例	2022/12/13 ～ 2023/4/30
2022 ST28		閉塞性大腸癌に対する治療戦略の選択が短期成績・長期成績に与える影響	外科	山口 真和	250例	2022/12/13 ～ 2023/12/31
2022 ST29	東北大学消化器外科学	腹腔洗浄細胞診陽性膵癌に対し切除の是非を明らかにするための比較研究	消化器外科	菅原 元	5例	2022/12/20 ～ 2025/12/31
2022 ST30		当院における術前化学療法を行ったBulky N2と大型3型,4型胃癌症例の検討	外科	久留宮 康浩	20例	2022/12/20 ～ 2023/4/30
2022 ST31	三重大学医学部 附属病院周産母子センター	川崎病既存成人における急性冠症候群とカテーテル治療例の診療実態に関する全国調査研究	循環器内科	篠田 政典	2例	2022/12/26 ～ 2026/7/31
2022 ST32		高齢糖尿病患者における栄養調査とフレイルに関する横断研究 →高齢糖尿病患者におけるフレイルに関する横断研究	内分泌・代謝内科	戸松 瑛介	20例	2023/1/17 ～ 2023/12/29 →2023/4/1 ～ 2024/3/31
2022 ST33		抗アセチルコリン受容体抗体の無症候陽性症例に対する免疫チェックポイント阻害剤投与の安全性についての検討	血液内科	原田 靖彦	300例	2023/2/7～ 2024/3/31

受託 No	依頼者	研究調査課題	科名	研究 責任者名	症例数	期間
2022 ST34		新型コロナウイルス感染症の流行状況が肺がん診療におよぼす影響の検討	呼吸器外科	岡阪 敏樹	300例	2023/1/26 ～ 2024/12/31
2022 ST35		血液学的悪性腫瘍の治療におけるPICCカテーテルの有用性の検討	脳神経外科	池田 昇平	約220例	2023/2/7 ～ 2024/3/31
2022 ST-36		Streptococcus agalactiae菌血症の臨床的特徴の検討	臨床検査室	加藤 雄大	100例	2023/2/14 ～ 2023/8/31
2022 ST-37		当院における急性動脈閉塞に対する血行再建の検討	外科	秋田 直宏	50例	2023/3/7 ～ 2023/12/31
2022 ST-38		全身麻酔下産婦人科手術における5-HT3受容体拮抗薬の術後悪心嘔吐に対する効果の検討	薬剤部	蟹江 千雛	250例	2023/4/11 ～ 2023/11/30

Ⅱ 部署別業務実績

1. 診療放射線室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 高額医療機器等の導入及び更新
→健診X線透視装置2台更新
2. 被ばく線量管理と未読レポート管理
→医療放射線被ばく線量管理の実施。未読レポート0件継続
3. 手術室O-arm撮影装置導入
→脊椎外科全手術への対応
4. 臨地実習生の受け入れ
→岐阜医療科学大学 学生2年生、3年生、4年生の実習指導
5. CT共同研究の継続
→フジフィルムヘルスケアと共同研究
6. 医療被ばく低減施設認定
→更新合格

2. 令和4年度実績

1. 診療放射線室取扱件数

	令和4年度	令和3年度	前年度比 (%)
一般撮影	122,173	119,038	102.63
X線テレビ	12,393	12,600	98.36
血管撮影	2,541	2,409	105.48
C T	42,031	39,631	106.06
M R I	16,419	15,757	104.20
骨塩定量	1,894	1,866	101.50
R I	2,594	2,602	99.69
放射線治療	6,014	4,465	134.69
合計	206,059	198,368	103.88

2. MRI検査件数

	令和4年度	令和3年度	前年度比 (%)
内科	4,432	4,174	106.2
心療精神科	43	59	72.9
小児科	153	176	86.4
外科	569	542	105.0
整形外科	2,468	2,181	113.2
脳神経外科	3,344	3,608	92.7
皮膚科	69	94	73.4
泌尿器科	521	503	103.6
産婦人科	658	617	106.6
眼科	92	60	153.3
耳鼻咽喉科	316	372	84.9
放射線科	601	470	127.9
麻酔科	54	40	135.0
歯科口腔外科	58	78	74.4
形成外科	93	121	76.9
心臓外科	82	92	89.1
呼吸器外科	101	72	140.3
健診センター	1,218	1,170	103.7
救急科	1,547	1,328	116.5
合計	16,419	15,757	104.2

3. 血管撮影件数

	令和4年度	令和3年度	前年度比 (%)
内 科	2,284	1,875	121.8
外 科	167	167	100.0
整 形 外 科	0	0	
脳 神 経 外 科	83	104	79.8
呼 吸 器 外 科	0	3	0.0
産 婦 人 科	7	4	175.0
合 計	2,541	2,153	118.0

4. X線CT検査件数

	令和4年度	令和3年度	前年度比 (%)
内 科	14,181	13,944	101.7
心 療 精 神 科	6	8	75.0
小 児 科	34	61	55.7
外 科	5,348	4,946	108.1
整 形 外 科	2,106	2,030	103.7
脳 神 経 外 科	2,297	2,397	95.8
皮 膚 科	146	201	72.6
泌 尿 器 科	2,057	2,061	99.8
産 婦 人 科	583	534	109.2
眼 科	27	36	75.0
耳 鼻 咽 喉 科	1,234	1,396	88.4
放 射 線 科	791	749	105.6
麻 酔 科	19	13	146.2
歯 科 口 腔 外 科	690	608	113.5
形 成 外 科	131	128	102.3
心 臓 外 科	400	441	90.7
呼 吸 器 外 科	981	886	110.7
健 診 セ ン タ ー	392	264	148.5
救 急 科	10,608	8,928	118.8
合 計	42,031	39,631	106.1

5. アイソトープ検査件数

	令和4年度	令和3年度	前年度比 (%)
脳 血 流	342	350	97.7
甲 状 腺	21	15	140.0
副 甲 状 腺	9	6	150.0
肺 血 流	14	30	46.7
心 筋 負 荷	933	916	101.9
心 筋 無 負 荷	145	220	65.9
心 プ ー ル	0	0	
肝	0	0	
腎	10	2	500.0
副 腎	5	15	33.3
メ ッ ケ ル	3	1	300.0
消 化 管	1	1	100.0
骨	222	205	108.3
ガ リ ウ ム	9	9	100.0
P E T	620	654	94.8
そ の 他	260	178	146.1
合 計	2,594	2,602	99.7

その他：肺換気14件、センチネルリンパ123件、DATシンチ71件、
ソフトスタチン7件、その他45件

6. 放射線科使用装置の定格（豊田厚生病院）

令和5年4月現在

設置場所	装置（メーカー）		定格（kV、mA）		購入年月
第1撮影室	RADspeed Pro	島津	150/80	320/630	R03. 6
第2撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	R03. 3
第3撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26.9 H20.1*1
第4撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26. 9
第5撮影室	アミュレット イノバリティ	フジ	49/35	102/200	H28. 4
第6撮影室	AutoAZ3000CMR	アサヒ	100	15	H20. 1
第7撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20. 1 *2
第8撮影室	Prodigy	G E	76	3	H24. 7
救急外来撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20. 1
	モバイルアートMUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H14. 1
泌尿器科撮影室	ウロスコープアクセス	シーメンス	150/81	630/800	H20. 1
結石破砕室	Delta II	ドルニエ	110	4	H20. 1
第1透視室	Sonialvision Safire	島津	150/80	500/1000	H20. 1
第2透視室	VersiFlex VISTA	フジ	150/63	320/800	R03. 9
第3透視室	KXO-80Z/MFX-8000A	東芝	150/100	500/800	H23. 3
血管撮影室	アズリオン	Philips	125/720	10/28.8	R03.01
循環器撮影室1	トリニアスB8インチ	島津	125/100	800/1000	R01. 8
循環器撮影室2	トリニアスB12インチ	島津	125/100	800/1000	R01. 8
第1CT室	SCENARIO VIEW	フジ	120/140	140/510	R02.12
第2CT室	SCENARIO	日立	120/140	140/510	H24.10
第3CT室	SCENARIO	日立	120/140	140/510	H24.12
第1MRI室	SKYRA	シーメンス	3.0テスラ		H28.11
第2MRI室	Area	シーメンス	1.5テスラ		H30.12
第3MRI室	Achieva R2	フィリップス	1.5テスラ		H22. 8
ガンマカメラ室	Infinia 3	G E横河			H20. 1
PET-CT室	Discovery ST Elite	G E横河	140/120	380/440	H20. 1
	Clinac iX	バリアン	15MeV		H20. 1
リニアック室	OBI	バリアン	125	80/20	H20. 1
	シミュレータCT室	Light Speed RT	G E横河	140/120	380/440
外科用イメージ O-arm 手術室ポータブル	CiosSelect	シーメンス	110	(200mAs)	R01. 8
	WHA-200	島津	110	200/9	H23. 5
	OECBrivo Essential	G E	110	20	H25.10
	O-arm	Medtronic	140	100	R04. 1
	Tiara	フジ	130/40	120/200	R03. 3
2Fポータブル庫	モバイルアートEvolution	島津	125	(200mAs)	H29.10
3Fポータブル庫	Tiara	フジ	130/40	120/200	R03. 3
4Fポータブル庫	モバイルアートMUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20. 1
感染病棟診察室	Tiara	フジ	130/40	120/200	R03. 3
健診胸部撮影室	RADspeed Pro	島津	150/80	320/630	R03. 6
健診マンモ撮影室	アミュレット イノバリティ	フジ	49/35	102/200	R04. 3
健診透視室1FPD	FLEXAVISION	島津	150/80	320/630	R05. 3
健診透視室2FPD	FLEXAVISION	島津	150/80	320/630	R05. 3
健診透視室3FPD	FLEXAVISION	島津	150/80	320/630	H29. 4
歯科口腔外科	AZ3000	アサヒ	90	12	H11. 1
X線撮影室	GX-70	アサヒ	70	10	H11. 1

2. 臨床検査室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能への貢献

- ・新型コロナウイルス感染症検査の抗原定性および抗原定量、遺伝子検査を計21,487件実施。
(令和3年度：15,076件、前年度比：142.5%)
- ・新型コロナウイルス感染症検査の術前スクリーニング検査を8,116件実施。
(令和3年度：4,754件、前年度比：170.7%)
- ・新型コロナウイルス検査繁忙期の救急外来検体採取を支援。
- ・職員の出勤前コロナ検査(7:30～)に対応。

2. 業務改善と効率化

- ・働き方改革による超過勤務削減を実施し、昨年度比30% (1,171時間) 削減。
(令和2年度：4,792時間、令和3年度：3,966時間、令和4年度：2,795時間)
- ・前年度より継続して献血アルブミン使用量削減に向けた啓発活動を行い、前年度比で使用量1%減。
ALB/MAP比令和3年度1.14→令和4年度1.04 (アルブミン製剤使用金額：30万円削減)

3. チーム医療および医療安全

- ・健康管理センターにおける土曜日稼働への支援体制を継続。
(エコー件数：平均27.4/日、検体件数：平均235.3本/日)
- ・ハイブリットOPE室でのTAVI実施に向けた担当者の育成(1名→2名)。
- ・術中神経モニタリングの休日夜間対応体制の構築(連絡手段の構築)
- ・未読管理システムを利用した病理細胞・生理レポートの未読管理を実施。
(病理細胞未読率：0%、超音波検査未読率：0%)
- ・医療安全管理者(報告書管理確認者)を臨床検査室内で1名養成。
- ・初回肝炎ウイルス検査(HBs抗原およびHCV抗体)陽性者に対する医師への報告と患者への通知について管理を開始(令和4年9月より)。

4. 人材育成と施設認証

- ・病棟検査担当技師を1名育成し4D病棟へ診療支援を実施。
- ・術中神経モニタリングの件数増加に伴う対応技師を1名育成(計5名)。
- ・経食道エコーの対応技師を1名育成(計5名)。
- ・造影超音波検査時の薬剤投与を5名育成。
- ・学会・研修会(Web開催)にて16演題の発表及び6種12名が認定資格を取得。
(日本神経生理学会専門技師：神経分野1名、緊急臨床検査士6名、認定血液検査技師1名、
JHRS認定心電図専門士2名、糖尿病療養指導士1名、血液2級臨床検査士1名)
- ・タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 実技講習カリキュラム累計55名修了。



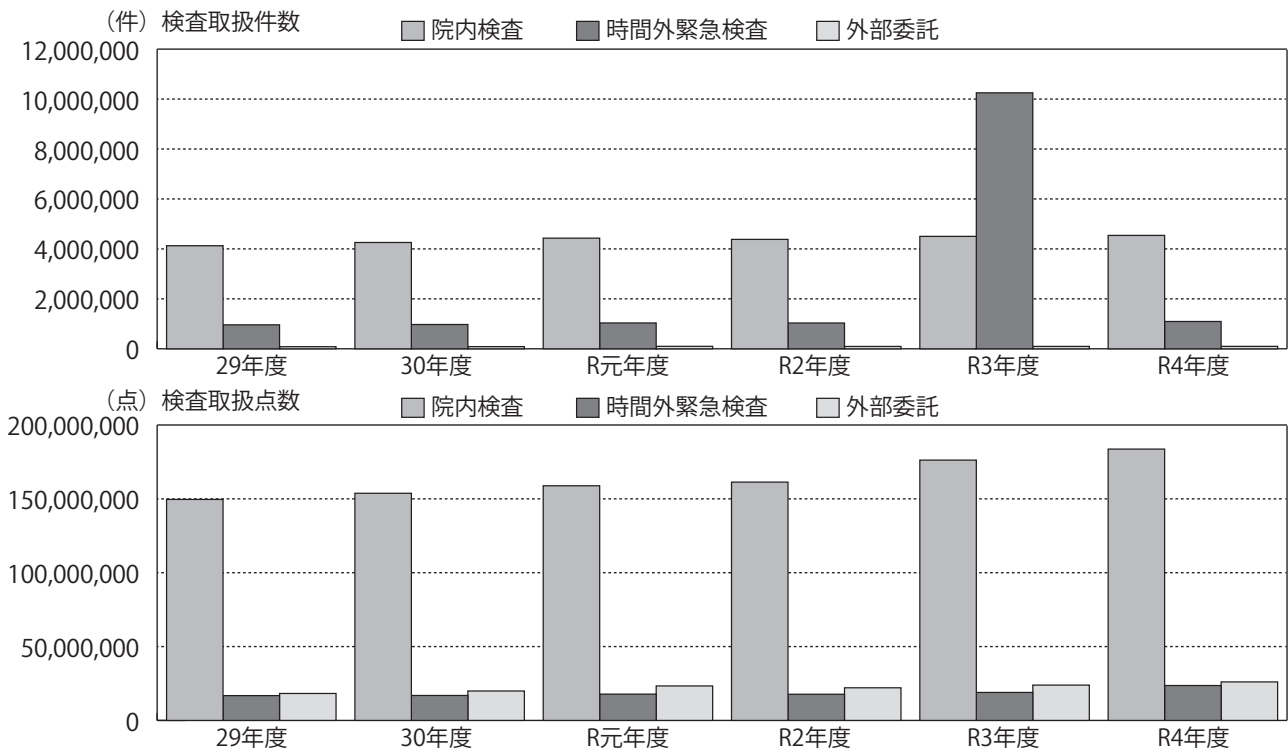
2. 令和4年度実績

1. 整備機器（高額医療機器および固定資産機器）

部署	機器名	機種名	メーカー	数量
微生物遺伝子検査	CO ₂ インキュベーター	MCO-170AICUV-PJ	PHC株式会社	2
微生物遺伝子検査	対物レンズ	プランアポクロマトMPLAPON-Oil	オリンパス	2
微生物遺伝子検査	血液培養自動分析装置	BDバクテックFXシステム	日本ベクトンデッキンソン	1
中央採血室	ラベルプリンタ	BC-8001SA(カッター仕様)	テクノメディカ	1
血液一般検査	システム顕微鏡	BX53	オリンパス	1
生理検査	重心バランスシステム/平衡機能計	グラビコーダGW-31	アニマ株式会社	1

2. 検査取扱件数・点数

検査大項目	検査小項目	令和4年度件数	令和4年度点数
一般検査	尿	139,975	3,799,534
	便	26,088	1,068,937
	体液	3,313	69,946
血液検査	血液	528,444	14,549,637
輸血検査	輸血	65,253	3,408,816
臨床化学	化学Ⅰ	2,931,274	37,498,093
	化学Ⅱ	110,991	13,638,764
	血液ガス	38,562	5,205,870
	負荷試験	164	28,400
免疫検査	免疫	308,688	25,406,263
微生物検査	一般細菌	77,016	10,470,187
	核酸検査	8,787	6,080,390
	その他	2,744	0
病理検査	病理組織	11,659	11,549,520
	細胞診	12,408	2,317,386
生理検査	肺機能	16,068	1,566,500
	心電図	52,908	13,194,520
	超音波	39,032	23,357,280
	脳波	3,401	2,789,180
	その他	29,950	2,866,308
その他	採血・検体採取	132,983	4,555,200
	病理解剖	11	275,000
	検査外業務	635	0
院内合計		4,540,354	183,695,731
外部委託		96,933	26,078,844
総合計		4,597,408	200,152,625
時間外緊急検査		1,093,804	23,625,717



3. 外注検査依頼状況

S R L		令和4年度
保険収載分	件数	64,725
	点数	17,748,608
薬物濃度	件数	1,438
	点数	675,860
保険未収載	件数	1,834
	支払金額	6,001,500
B M L		令和4年度
保険収載分	件数	28,909
	点数	7,611,176
ファールコ		令和4年度
保険収載分	件数	1
	点数	2,553

*外注の保険収載・薬物分は稼働点数、未収載は支払い金額を計上

4. 加算件数・点数

項目	令和4年度	
	件数	点数
時間外加算	7,590	1,518,000
入院初回加算	625	12,500
検体管理加算 I	103,862	4,154,480
検体管理加算 IV	1,437	718,500
外来迅速加算	68,252	3,016,040
病理診断料(加算Ⅱ含)	23,891	8,217,440
輸血管理料・適正加算 I	4,729	779,090
骨髓診断加算	208	49,920
国際標準検査管理加算	11,557	462,280
合計	222,151	18,928,250

5. 検査判断件数・点数

項目	令和4年度	
	件数	点数
尿	29,413	1,000,042
血液検査	83,735	10,466,875
臨床化学Ⅰ	84,722	12,199,968
臨床化学Ⅱ	29,237	4,210,128
免疫血清	67,015	9,650,160
微生物検査	17,925	2,688,750
遺伝子・染色体	785	78,500
病理細胞検査	1,558	202,540
生理検査	5,953	955,060
合計	320,343	41,452,023

6. 外部精度管理調査結果

調査年度	外部精度管理種類	評点
令和4年度	日本医師会	93.6点 D:0
令和4年度	日本臨床衛生検査技師会	A+B:269/270 C:0 D:1
令和4年度	愛知県臨床検査技師会	A+B:202/203 C:0 D:1

7. 臨床検査室認証・認定

認証・認定団体	令和4年度
日臨技精度保証施設認証	認証
日本臨床細胞学会施設認定	認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定	認定
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設(I&A)	認定
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設	認定
ISO15189施設認定(RML02250)	認定

8. 学会認定資格者

学会認定資格	令和4年度
超音波検査士	11名
細胞検査士	4名
輸血認定技師	2名
細胞治療認定管理師	1名
第1種衛生管理士	7名
衛生工学衛生管理者	1名
認定臨床微生物検査技師	1名
認定血液検査技師	4名
認定心電検査技師	1名
認定病理検査技師	2名
認定一般検査技師	1名
認定救急検査技師	1名
緊急臨床検査士	19名
二級臨床検査士(病理学)	2名
二級臨床検査士(微生物学)	6名
二級臨床検査士(血液学)	4名
糖尿病療養指導士	1名
血管診療技師	1名
術中脳脊髄モニタリング認定技術師	2名
専門技術師(筋電図・神経伝導分野)	1名
専門技術師(脳波分野)	2名
JHRS認定心電図専門士	7名
精度管理責任者	4名
認定サイトメトリー技術者	1名
医用質量分析認定士	1名
リウマチ学会登録ソノグラファー	5名
ピンクリボンアドバイザー(中級)	1名
特化物及び四アルキル鉛等作業主任者	4名
睡眠健康指導士(初級)	1名
検査説明・相談ができる臨床検査技師	3名
検査説明・相談ができる臨床検査技師	5名

3. リハビリテーション室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 教育活動として、臨床実習生の受け入れの取り組み

- ・リハビリ学生：5校7名 ・他職種の臨地実習協力：16名

2. 地域の支援活動

- ・介護認定審査会協力 【人数】1名派遣【期間】通年【頻度】2回／1か月
- ・JAあいち豊田広報誌「グリーンボイス」健康の話へ投稿
- ・第10回中日健康フェアで発表「変形性股関節症対策の最新情報」

3. 職員の資質向上

- ・部署内勉強会（全体会：2回／年、職種別勉強会：理学2回／年、言語5回／年、作業10回／年）
- ・他職種勉強会・研修会への講師派遣（院内）2回（院外）5回
- ・学会発表 1題（ST：0題、PT：1題、OT：0題）
- ・臨床実習指導者講習会修了者 PT：1名、OT：1名

4. 診療機能の充実

- ・特定集中治療室早期離床・リハビリテーション加算への参加協力の維持。
- ・透析時運動指導等加算の新設に伴い、透析中の運動療法を開始。
- ・PCTラウンドへの参加。

2. 令和4年度実績

			理学療法		作業療法		言語聴覚療法		
			外来	入院	外来	入院	外来	入院	
個 別 療 法	脳血管疾患等 リハ料	患者数	561	10,484	290	10,257	34	5,412	
		単位数	1,011	12,996	556	14,141	63	7,808	
	廃用症候群 リハ料	患者数	0	4,831	0	142	0	0	
		単位数	0	5,500	0	173	0	0	
	運動器リハ料	患者数	1,522	19,255	2,590	2,408			
		単位数	2,684	24,411	4,111	2,970			
	呼吸器リハ料	患者数	4	11,306	0	2,066	0	4,925	
		単位数	8	13,071	0	2,377	0	8,222	
	心大血管疾患 リハ料	患者数	652	7,085	0	87			
		単位数	1,296	8,633	0	99			
	がん患者 リハ料	患者数		1,702		140		12	
		単位数		1,803		186		19	
	早期加算				46,469		15,178		14,142
	退院前訪問リハ指導				0		0		0
退院時リハビリ指導				1,663		436		8	
リハビリ総合計画評価			564	4,018	451	662	6	36	
摂食機能療法								1,598	
件数合計			2,739	54,663	2,880	15,100	34	10,349	
単位数合計			4,999	66,414	4,667	19,946	63	16,049	
診療点数			1,180,314	17,703,433	1,032,072	5,734,581	17,235	4,528,179	

- ・心肺運動負荷試験 年間43件

2. 科別件数

	理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
内科	155	952		521		269
精神科						
脳神経内科	203	4,966	116	5,248	20	3,339
呼吸器内科	3	3,954		707		712
消化器内科		5,417	9	789		802
循環器内科	87	7,462		450		996
小児科						
外科	44	3,518	2	169		113
整形外科	1,357	7,044	2,557	829		84
形成外科	7	314	32	10		17
脳神経外科	27	3,297	7	3,965	6	1,787
呼吸器外科		904		11		17
心臓外科	488	1,490		63		34
小児外科						
皮膚科		181		3		13
泌尿器科		755		8		5
血管外科		445				10
乳腺科		37		11		
産婦人科		334		31		12
眼科						
耳鼻咽喉科	21	75		13	8	121
放射線科						
麻酔科						
アレルギー科						
リウマチ科						
リハビリ科						
感染症科						
歯科口腔外科		18		1		12
消化器外科		3,286		54		97
内分泌代謝科		1,664		195		423
腎臓内科		1,476		261		565
膠原病内科	1					
血液内科		866		56		146
総合内科		2,789		700		400
健診科		1				
緩和ケア科						
肝臓内科		295		31		28
脊椎外科	346	2,384	157	610		25
新生児科						
救急科		739		364		322
合計	2,739	54,663	2,880	15,100	34	10,349

4. 臨床工学室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療機器における安全教育及び医療機器研修会の実施

- ・WEBを活用しYouTubeにて新規導入機器の操作方法及び治療に関する勉強会などを行った。QRコード及びURLを利用することで自宅でも受講が可能となり受講者の増加に繋がった。また、Googleフォームを利用しアンケート結果から受講率、習熟度の確認が可能となった。

2. 血液浄化センターにおける透析時運動指導等換算を算定

- ・医師、看護師、理学療法士、医事課、臨床工学技士間でワーキンググループ活動を行い、透析時の運動療法を開始した。

3. 集中治療室における人工呼吸器管理

- ・集中治療室において気管内挿管患者における離脱試験の実施と離脱試験加算の取得を行った。

4. 資格取得及び学会発表・論文投稿の推進

- ・資格取得／植込み型心臓不整脈デバイス認定士、集中治療専門臨床工学技士、
日本急性血液浄化学会認定指導者
- ・学会発表／12演題
- ・座長、司会、講演／7回

5. 手術支援ロボットの導入

- ・手術支援ロボット「ダビンチ」の導入に伴い、トレーニング及び業務の構築に取り組んだ。

6. 更新医療機器の充実

- ・院内の輸液ポンプ及び体外式除細動器全台を更新。

7. 経カテーテル大動脈弁治療の導入

- ・経カテーテル大動脈弁治療「TAVI」の導入に伴い、清潔野におけるクリンピングの習得及び業務の構築に取り組んだ。

8. タスクシフト・シェア

- ・内視鏡センター、血液浄化センター、集中治療センター、中央手術センター、循環器センター、救命救急センターなど各関連センターを主に積極的にタスクシフトに取り組んだ。

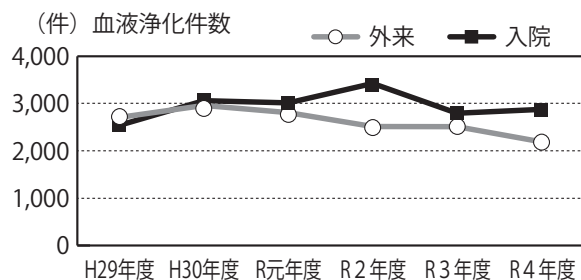
9. 補助循環用ポンプカテーテルの導入

- ・補助循環用ポンプカテーテル「IMPELLA」の導入に伴い、トレーニング及び業務の構築に取り組んだ。

2. 令和4年度実績

1. 血液浄化

分類	件数
外来	2,191
入院	2,878
計	5,069
末末血幹細胞	5
腹水濾過濃縮	32
シャントエコー	1,271

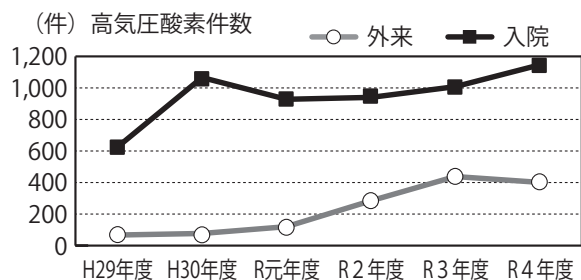


浄化法別分類	件数
血液透析 HD	1,823
血液濾過透析 I-HDF	3,065
ECUM	64
血漿交換 PE	4
血液吸着 DHP	46
持続血液浄化療法	23

患者動向分類	件数
新規導入	66
急性浄化	35
他院転入	266
転出	326
死亡 慢性	19
死亡 急性	8

2. 高気圧酸素

分類	件数
外来	401
入院	1,146
計	1,547



科別分類	件数
内科	42
外科	325
整形外科	127
耳鼻科	528
口腔外科	34
泌尿器科	62
皮膚科	14
形成外科	118
その他	297
計	1,547

疾患別分類	件数
突発性難聴	511
骨髄炎	349
腸閉塞	334
難治性潰瘍	52
放射性膀胱炎	44
脊髄神経疾患	125
その他	132
計	1,547

3. 心臓カテーテル

分類	件数
緊急症例	296
予定症例	880
計	1,176

心カテ分類	件数
PCI	377
CAG	777
アブレーション	473
3D mapping	473
ペースメーカー交換	31
ICD 新規	2
ICD 交換	3
CRTP 新規	1
CRTP 交換	1
CRTD 新規	2
CRTD 交換	2
体外式ペースメーカー	469日 (110)
IABP	394日 (75)
PCPS	101日 (20)
ペースメーカーチェック	7,530

4. 内視鏡

分類	件数
GIF	2,671
CF	731
EUS	30
ERCP	50
ESD	48
止血術	11
小腸内視鏡	3
カプセル内視鏡	16
計	3,560

5. 自己血回収術件数

科別分類	件数
心臓外科	90
血管外科	11
整形外科	160
その他	2
計	263

6. 心臓血管外科

分類	件数
緊急症例	13
予定症例	75
計	88

症例分類	件数
虚血性心疾患	34
弁膜症	43
大動脈疾患	17
その他	6
計	100

7. Navigation

科別分類	件数
脳外科	34
耳鼻科	31
整形外科	169
計	234

症例分類	件数
腫瘍	28
クリッピング	2
FESS	30
頸椎固定	166
その他	8
計	234

8. ロボット手術支援

科別分類	件数
外科	34
泌尿器	11
計	45

9. TAVI

分類	件数
経大動脈弁治療	12

10. 集中治療補助

分類	件数
診療支援業務	2,493

詳細	件数
人工呼吸器管理	2,106
血液浄化	195
補助循環管理	101
POCUS	91
計	2,493

11. 機器管理

修理分類	件数
院内修理	906
委託修理	80
計	986

修理機器分類	件数
心電図モニター	237
人工呼吸器	15
輸液ポンプ	112
血圧計	107
パルスオキシメーター	43
血液浄化関連装置	184
その他	288
計	986

機器点検件数	件数
点検件数	47,853

5. 栄養管理室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 医療提供体制の充実

- ・新型コロナウイルス感染防止に基づく食事提供、栄養食事指導体制の継続
- ・ICUにおける早期栄養介入管理体制の構築
- ・栄養食事指導の強化

2. 医療安全の充実

- ・HACCP制度に基づいた衛生管理の実施

3. 人材育成

- ・厚生連栄養士会相互啓発研修会における新人教育プログラムの活用研修会への参加
- ・厚生連栄養士会新人教育プログラムの実施
- ・部署内勉強会（管理栄養士：6回／年）
- ・学会・研究会発表11題（管理栄養士）

4. 地域との連携強化

- ・JAとの連携継続、健康啓発活動（JA広報誌への投稿、JA料理教室への講師派遣）

2. 令和4年度実績

1. 令和4年度 食事提供数

①患者食

	食数(食)	比率
常食	130,223	28.8%
軟食	85,905	19.0%
流動食	1,215	0.3%
特別食 A	138,495	30.7%
特別食 B	95,727	21.2%
合計	451,565	100.0%

②賄食

	食数(食)
職員食	83,449
付添食	0
合計	83,449

2. 令和4年度 診療報酬算定

①個人栄養食事指導

	外来(人)	入院(人)
糖尿病	731	781
心臓・高血圧症	213	844
脂質異常症	183	17
肥満	10	0
腎臓病	229	176
肝臓病	28	48
糖尿病透析予防	163	-
その他	125	575
合計	1,682	2,441

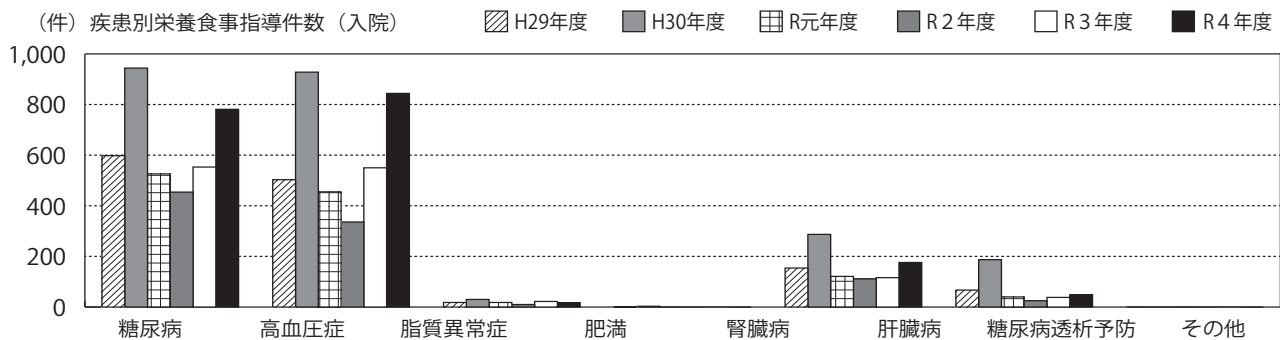
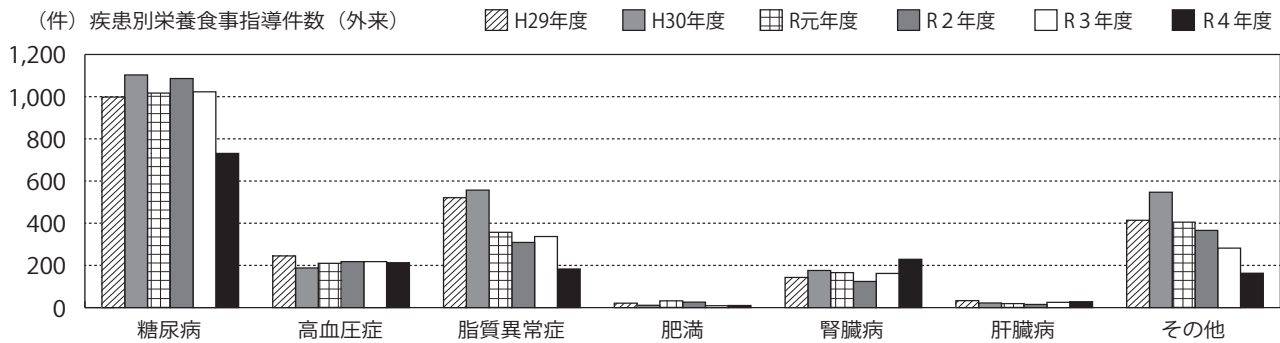
②集団栄養食事指導

	(人)
糖尿病	51
腎臓病	0
ワンポイント講座	0
市民講座	0
合計	51

糖尿病集団指導以外は新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

③チーム医療

種類	各種算定名称	算定件数 (件)
ICU・HCU	早期栄養介入管理加算	250点：669
		400点：65
NST (栄養サポートチーム)	NST加算	200点：437
	歯科医師連携加算	50点：212
緩和ケアチーム	個別栄養食事管理加算	70点：68
摂食嚥下	摂食嚥下機能回復体制加算2	190点：46



3. 令和4年度 院外活動

①JAあいち豊田料理教室

	(回数)	(人)
松平教室	8	49
保見教室	14	112
高橋教室	23	199
三好教室	13	95
合計	58	455

8・9・1・2・3月は新型コロナウイルスの感染拡大によりレシピのみ提供（講師派遣中止）。

4. 認定資格者

認定資格	令和4年度
NST専門療法士	2名
臨床栄養代謝専門療法士	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
病態栄養専門管理栄養士	4名
在宅訪問管理栄養士	1名
在宅栄養専門管理栄養士	1名
給食用特殊料理専門調理師	1名
病院調理師	3名

6. 薬剤部

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能の充実

- ・入退院支援センター業務体制の整備
 (予定入院患者の持参薬報告書事前作成率100%、入退院支援センターおよび持参薬外来における薬剤師の業務手順確立)
 →予定入院患者の持参薬報告書事前作成率は90%であった。
 →テンプレート等を導入し、持参薬外来の業務手順を確立できた。
- ・通院治療センターにおける服薬指導の充実
 →患者指導件数は1,844件行い、うちがん患者指導管理料は136件算定した。
- ・免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象(irAE)対応アルゴリズムの作成
 →間質性肺炎・内分泌障害・下痢・大腸炎に対して対応マニュアルを作成。外科・内科会にて周知を行い、JUS-DIおよび院内電子掲示板のマニュアルに掲載した。

2. 治験業務の充実

- ・院内治験コーディネーターを利用した治験受託件数の増加(新規受託2件/年)
 →治験新規受託の件数は4件であり、目標を大きく上回る結果となった。

3. 医療情報システム関連

- ・リフィル処方箋機能の導入
 →リフィル処方箋は行わないことが決定したため現在システムは使用していない。
 →院外処方箋のレイアウト変更は実施した。
 →リフィル処方箋を行うことになれば実施ができるように対応を行った。

4. Quality Indicator

- ・退院指導実施率(退院指導患者数/入院実患者数)の推進(目標実施率50%)
 →49.4%であった。目標(50%)未達だが、令和3年度48.6%から上昇傾向にある。

5. 病棟薬剤業務の充実および薬物治療管理の推進

- ・PBPM(プロトコルに基づく薬物治療管理)の推進と拡充
 →新規PBPM申請は1件だったが、実施件数は6,674件であった。
 令和2年度3,049件、令和3年度5,126件と比して大幅に増加、負担軽減に寄与していると考ええる。
- ・ポリファーマシー対策の推進と拡充(薬剤総合評価調整加算60件/年)
 →算定基準に対する理解を深め、145件算定(+薬剤調整加算59件)、目標を大幅超過した。
- ・病棟薬剤業務における医薬品情報室との連携強化
 - ・PMDAへの副作用報告(3件以上/月)
 →副作用報告件数は36件/年(平均3件/月)、目標を達成した。
 - ・プレアボイド報告(20件以上/月)
 →23件/月(年間276件)を報告し、目標を達成した。
- ・周術期薬剤管理加算および術後疼痛管理チーム加算算定に向けた体制整備
 →周術期薬剤管理加算は6月より算定開始
 →術後疼痛管理チームは8月に研修修了

6. 認定・専門資格取得の推進および教育体制の整備

- ・各種専門・認定薬剤師の資格取得への指導・教育
 - 各種専門・認定薬剤師資格取得のため、講習会および学会等に参加した。
 - ・薬学博士 1名
 - ・日病薬病院薬学認定薬剤師 2名
 - ・日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 1名
 - ・日本薬剤師研修センター漢方薬生薬認定薬剤師 1名
- ・認定実務実習指導薬剤師の育成（実務実習生受け入れ）
 - 1名、認定実務実習指導薬剤師の資格を取得した。
 - 近隣大学より計7名の長期実務実習生を受け入れ、病院での薬剤師業務と関係部署・職種との連携について教育を行った。
- ・厚生連薬剤師会教育担当者部会における新人教育資料及び評価法の作成
 - 厚生連薬剤師会教育担当者会議にて協議した内容をもとに資料を作成した。評価方法についてはルーブリック評価による評価シートの作成を行った。

7. 病院薬剤師連携および薬 - 薬連携の強化

- ・患者情報の提供及び共有化の拡充と推進（退院時薬剤情報連携加算50件／年）
 - 算定基準に対する理解を深め、89件算定（令和3年42件、212%）、目標を大幅に超過した。
- ・地域薬学ケア専門薬剤師制度における連携研修の充実
 - 研修内容を拡充（循環器病棟、退院時合同カンファ、薬薬連携に係る学生実習、研修報告会の開催等）のうえ、1年通じて業務に支障なく月3回の連携研修を実施した。
- ・通院治療センターにおける連携充実加算の算定推進（40件以上／月）
 - 連携充実加算を627件／年（52件／月）算定し、目標達成。算定件数は昨年比2.5倍となった。

8. DPCに向けた取り組み

- ・機能評価係数Ⅰ 後発医薬品指数の維持（後発医薬品使用割合80%以上）
 - 令和4年度の後発医薬品指数の平均は80.6%であり、目標を達成した。

9. 供給室（SPD）の管理体制の充実

- ・誤接続防止コネクタに係わる国際規格の導入
 - 9月に地域連携部門を通じて近隣医療機関への切り替えを文書で通知した。管理者会議で院内周知後に切り替えを実施した。問題なく切り替えを完了した。
- ・医薬品の管理強化（規制医薬品、高額医薬品等）
 - 症例数の少ない高額医薬品に関してはスズケンのキュービックスを利用し当日払出で対応。他の卸しは当日配送依頼で実施確認後に払出を行い管理。規制医薬品に関してはその都度卸しと医薬品情報室と連携を取り在庫の確保に努めた。
- ・医療材料の在庫管理強化（消耗品材料のコスト削減、定数見直し等）
 - コロナ禍や燃料費の高騰から非償還品の値上げが多かったが、サージカルガウンの切替やニトリル手袋の値下げ交渉をして年換算で400万円程度の費用削減ができた。
- ・不動薬品および不動材料の整理及び削除
 - 各部署に関しては年2回、在庫の回転率についてリストを作成し定数の削除・変更の依頼を行った。倉庫在庫に関しては月1回回転率を確認し在庫の削減に努めた。また、不動在庫に関しては医薬品情報室と連携を取り採用中止の検討を行った。不動薬品に関しては医薬品情報室と連携を取り6品目を

採用中止とした。

- ・公認会計士監査に対応した実地棚卸の実施

→棚卸表の出力プログラムを変更して、バラ単価3,000円以上の物品をバラ単位で数えるようにした。

9月、3月と2回実地棚卸しを行ったが特にトラブルなく実施することができた。

2 令和4年度実績

薬剤部は医薬品および医療材料の安定供給、適正な在庫管理とともに安全かつ適正に使用するために下記の事項に取り組んだ。

1. 医薬品情報提供

例年同様、院内医薬品情報誌「DI-Newsくすりの時間」と医薬品情報一元化システム「JUS-DI」の充実に努めた。適時院内メールや電子カルテTodo機能を用いて、速やかに必要な情報提供を行った。薬事委員会の事務局業務も行い、審議資料作成から議事進行補助まで鋭意実施している。昨年に引き続き、医薬品の安定供給に非常に問題のあった1年ではあったが、その影響が最小となるよう、迅速な対応に努めた。

2. 病棟業務

薬剤師の病棟配置数は5,830コマ（前年5,783コマ、前年比100.8%）、前年度と同水準の人員配置を行った。薬剤管理指導件数20,357件/年（前年20,347件/年、前年比100.1%）退院時薬剤情報管理指導料7,612件/年（前年7,521件/年、前年比101.2%）を算定、前年と同水準の介入を維持出来た。また、処方提案を1,713件（前年1,367件、前年比125.3%）、プレアボイド報告を276件（前年234件、前年比117.9%）実施、薬学的介入により薬物治療の質を向上させ、医療安全においても貢献することが出来た。

また、医薬品情報室と連携して副作用報告体制を刷新した。簡易版副作用テンプレートを導入することで副作用情報の集約/管理、PMDA報告基準に沿った副作用報告、診療部への情報提供が実施できるよう努めた。

3. 調剤業務

外来処方の投薬時にバーコード認証を導入し、渡し間違い・忘れのないように努めた。

処方箋に検査データを表示させ、投与量のチェックを強化し医薬品の適正使用に努めた。

供給不安定となった薬品に関しては、各部門および卸業者と連携を図り在庫の確保及び代替薬の確保に努めた。

4. 持参薬管理および入退院支援

入退院支援センターの介入対象診療科の拡大および持参薬外来の介入件数の増加に努め、入院前の介入件数は大幅に増加した（入院前面談件数：令和4年3月547件→令和5年3月599件）。予定入院患者の持参薬報告書作成率は約90%となり、それにより入院時の持参薬報告書作成に係る時間の短縮を図ることができた（持参薬報告業務時間：令和4年3月184.2時間→令和5年3月155.6時間）。

5. 注射調剤

部門システムを利用し調剤・監査の正確性と効率性の向上に努めた。不動在庫の有効利用により経済面での効果向上に努めた。注射薬の個人別セット業務を通して適正な注射薬品の使用推進に努めた。後発薬品が使用できない場合の先発薬品への処方変更や手技・用法の修正等のPBPMに取り組んだ。供給不安定となった薬品に関しては、各部門および卸業者と連携を図り在庫の確保及び代替薬の確保に努めた。不動薬品に関しては医薬品情報室と連携を取り6品目を採用中止とした。

6. 薬品・医療材料の管理

輸液ポンプを更新に伴い、輸液ルート関連製品の変更を行った。

新型コロナ対策での需要増や中国でのロックダウンの影響により、デスポキップやフォーリートレイなど一部の医療材料の供給が不安定になったが、適宜代替品を確保して安定供給に努めた。

原材料費や製造費、輸送費が高騰しており、医療材料の値上がりが相次いだ。安価な同等品への切替や包括契約、割戻契約などを結びコスト削減に努めた。

経腸栄養コネクタをISO対応のものに変更した。

エネルギーコストの増加による製造原価上昇のなか、診療材料償還品目の価格交渉は、回復率85.95の厳しい妥結となった。

7. 化学療法業務

連携充実加算を627件／年（昨年比2.5倍）算定し、院外薬局への抗がん剤治療に関する情報提供の推進に努めた。

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）対応アルゴリズムを作成し、院内でのirAE出現時の対応方法を統一することで抗がん剤の適正使用推進に努めた。

8. ICT（感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）への参加

病棟薬剤師との情報共有をもとに抗菌薬ラウンドや血液培養ラウンドに参加し抗菌薬適性使用の評価も行った。加えて、感染防止対策加算、感染防止対策地域連携加算の対象となるカンファレンスに参加した。これら定期的開催されるカンファレンスなどだけでなく、ICT・ASTの一員として感染対策室、微生物検査室等と随時連絡を取り合い院内の感染対策および抗菌薬適正使用に関与した。

9. 治験管理室業務

■GCP、各種倫理指針に則り、適正かつ効率的な治験、臨床研究等の実施に取り組んだ。

＜治験＞新規受託治験4件

＜臨床研究等＞新規医学系研究実施審査38件

特定臨床研究1件

症例報告審査4件

■その他

- ・厚生労働省の臨床研究倫理審査委員会報告システムに当院の治験倫理審査委員会の委員名簿、会議の記録の概要、手順書等を更新した。
- ・がん診療連携拠点病院等の整備に伴い病院ホームページを企画室と連携して作成・更新した。

10. 実務実習

長期実務実習3～4期（各11週間）、計7名の実習生を受け入れ指導にあたった。

	2期(5/23～8/7)	3期(8/22～11/6)	4期(11/21～2/12)
名古屋市立大学			1
名城大学		1	
愛知学院大学		3	2



11. 教育

新型コロナウイルス感染症のため薬剤師勉強会はWebを利用し4回開催した。

開催月	参加者	講 師	対 象
6月	53名	緩和ケア領域における輸液療法の考え方	院内外薬剤師
10月	45名	心不全における薬物療法	院内外薬剤師
12月	43名	透析について	院内外薬剤師
2月	60名	がんの栄養サポート	院内外薬剤師

7. 看護部

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 看護の質向上へ向けた取り組み

1) 信頼される看護サービスの提供

長期目標：急性期医療に対応できる看護師による質の高い看護の提供
根拠あるアセスメント（判断）を基に看護実践できる

①転倒転落事故対策を強化し、安全なケアの提供

転倒転落発生件数31件→29件（2020年10月と2022年10月データ比較）

転倒転落リスク評価に関しては、入院時は適切にされていることを確認できた。現在は状態変化時のアセスメントのタイミング、内容に監視調査中。転倒転落発生件数については著変なし。

②不必要な身体拘束をしない

適切な手続き（アセスメント）を踏まえ身体拘束の実施

身体拘束を行わなくてよくなるケアの実施

DiNQLデータ（立案時2020年10月と2022年10月データ比較）

身体拘束割合16.38%→16.81%と上昇したが、身体拘束率（のべ患者日数割合）：14.98%→14.72%、身体拘束平均日数7.27日→7.16日共に減少。必要な患者に必要な期間のみ身体拘束を施行自他と考える。

退院時ADL低下率13.14%→5.87%と大幅に減少

転棟転落発生率1.79%→2.21%と増加。（背景に75歳以上の患者率の上昇、緊急入院割合の増加等の要因も考えられる）

今後も定期的に身体拘束実施の適切な手続き（評価）と身体拘束を行わなくてよくなるケアの実施についての教育を行う。

③病気療養中の患者の認知力を低下させない

認知機能低下をさせない予防ケアの提供

褥瘡発生率（院内全体）：4月 0.78%、5月 1.09%、6月 0.58%、7月 1.05%、8月 1.2%、9月 1.45%、10月 1.2%、11月 1.56%、12月 1.69%、1月 1.39%、2月 0.99%、3月 1.26%であり、年間を通じて院内全体の発生率は減少できなかった。

転倒転落発生件数：4月46件以降は30件前後で推移し3月は29件であった。

身体拘束実施率：13.5%～17.3%で12月からは16%台であり、年度末に向けて低下傾向とならなかった。

セル看護方式で、転倒転落の危険性が高い病室に日勤帯では訪室時間の確保が可能となったが、夜勤帯は看護職員数の減少もあり身体拘束等が変化しなかった。

院内デイケアの参加基準等を決め、院内でコロナのクラスターが発生する度に開催を中止した。10月から1病棟で運用を開始し3月までの利用数は36人であった。毎回1時間程度実施し、参加中は身体拘束を解除することができた。患者の言動から楽しむ、気分転換、覚醒を促す、発語を促すことができた。

④自分の看護を自信をもって見（魅）せることができる

ラダーⅢ認定者は17名であり、保有率21%であり、目標値には到達しなかった。ラダー実践評価率は100%であった。実践評価が機種より上昇は、まだ紙運用のところもあり、実際の評価はできてい

ないが、期中で、弱い点について共有し、期末に向け実践を行っている。職場満足度調査にて看護者として自身があるは27.8%であり、前年度よりマイナス4.2であった。

個人シートで身近にモデルとなる看護師はいますかという問いに対し、機首で80%、期中で86%と上昇したが、モデルとなる看護師と目指す看護師像かは違うと思われる。

⑤患者・患者家族の思いを汲んだ看護の提供

家族からの苦情に対し4月に課長でカンファレンスを実施し、PDPで行動計画を立案し実践した。PDCAで2回評価・追加計画を立案した。年間のご意見箱への苦情は合計45件、患者の思いを汲んだ意見（謝辞）は合計32件であった。苦情のある部署には、各部署で対策や指導を実施した。

2. 労働条件・業務改善に向けた取り組み

1) 働きやすさを実感できる職場環境

①時間外勤務の減少

全勤務帯において業務に合わせたマンパワーの活用

各部署の日勤業務スケジュールの見なおし 2回/年

業務担当係長が中心となり、セル看護方式を参考に動線のムダ、配置のムダ、記録のムダ等を意識し改善に取り組んだ。結果、手術件数や心臓カテーテル検査・治療件数が増加したにも関わらず、超過勤務時間が大幅に減少した部署が出てきた。

②看護職員の確保と定着を図る

インターンシップの充実

インターンシップ参加者162名（前年比16人減）病院説明会参加者95人（前年比7人減）だった。予約者は夏だけで117人だったため、2022年夏はコロナ感染蔓延のためWeb交流会に変更した影響が考えられる。インターンシップでは内容やスケジュールの見直しを行った。プレゼン内容・方法の改善をした結果、マイナビ看護セミナーの参加数は増加し母集団の増加には繋がったと考える。

キャリア支援の充実・認定看護師の育成

離職率10.88%から令和4年度は10.41%だった。新人以外の退職理由は業務の多さに疲弊したバーンアウトが多かった。タスクシフトの拡大やさらに業務改善等を進める予定。新人の離職率が3.08%から9.86%と増加した。新人のリアリティショック軽減の意味でローテーション勤務導入は効果があったが正規配属されてからの育成支援は更なる対策が必要である。育児を理由にした退職は前年度より減少した。

③上位加算取得

夜間看護師配置加算12対1の取得

6月に実績、7月から52床以上の病棟で夜勤看護職員数を4人に増員し加算取得を開始した。急性期一般入院料算定部署の夜勤者数は42人で運用した。患者数増では夜勤者数を増員し対処した。

夜間看護補助者配置加算100対1の取得

6月より導入した。手順書の作成や教育を行い、適正な人員配置や異動を行った。今後もタスクシフトを拡大していくために教育や手順書の整備を進めていく。

④ヘルシーワークプレイスの充実（健康で安全な職場）

均等割2交代夜勤の推進（13時間以上の夜勤勤務の削減）

均等割2交代への移行は部署によっても推進出来た部署と進んでいない部署があった。

令和4年4月と令和5年1月との比較では全体で変則2交代：881回/月→840回/月、均等割2交代：522回/月→809回/月であり均等割2交代の実施者は増加した。

2. 令和4年度実績

1. 合同就職説明会

日程	名称	参加人数
7月10日	マイナビ看護セミナー	72人
2月11日	マイナビ看護セミナー	133人
3月11日	マイナビ看護セミナー	51人
合計		256人

2. 学内説明会

日程	名称	参加人数
4月8日	日本赤十字豊田看護大学（動画提供）	不明
4月22日	豊田地域看護専門学校	33人
12月17日	日本福祉大学	34人
11月26日	学芸大学（リモート）	53人
9月14日	愛知県立大学（リモート）	12人
7月14日	厚生連内部学校の交流会不明（リモート）	不明
12月23日	人間環境大学	21人
1月28日	椋山女学園大学（リモート）	5人
1月末	修文大学 動画提供	不明
12月3日	岐阜保健大学（リモート）	30人
合計		188人+ α

3. 就職説明会・施設見学会

日程	参加人数
1月7日	7人
2月18日	9人
3月11日	12人
3月18日	7人
3月21日	5人
コロナ感染拡大で夏インターンシップ中止 8月16日・18日・19日・25日・29日 9月5日・9日（リモート）	46人
1月7日（リモート）	1人
2月25日（リモート）	4人
3月25日（リモート）	4人
合計	95人

4. インターンシップ

日程	参加人数
8月コロナ感染拡大で中止	0人
12月26日～12月29日	20人
2月20日～3月24日	96人
合計	116人

5. 学生・実習生受け入れ状況

①中学生看護体験（オンライン体験も含む）

若園中学校 梅坪台中学校 高橋中学校 三好北中学校 猿投台中学校

②7/25第1回 高校生オンライン体験

高校名	参加人数
三好高校	7人
松平高校	3人
豊田東高校	22人
衣台高校	2人
豊田高校	31人
豊田北高校	13人
豊田西高校	3人
豊田南高校	15人
豊野高校	10人
合計	106人

8/3第2回 高校生オンライン体験

高校名	参加人数
猿投農林高校	2人
松平高校	5人
豊田東高校	4人
豊田西高校	3人
豊野高校	4人
合計	18人

③看護学生

学校名	日程	人数(延人数)
加茂看護専門学校 1年生	3日間	41人(123)
2年生	31日間	40人(1,240)
2年生 訪問看護	11日間	9人(99)
3年生	104日間	43人(4,472)
3年生 訪問看護	71日間	31人(2,201)
豊田地域看護専門学校 2年生 小児	9日間	10人(90)
内科	18日間	13人(252)
3年生 小児	43日間	24人(1,001)
内科	48日間	25人(1,196)
日本赤十字豊田看護大学 2年生 基礎	3日間	30人(90)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 成人	14日間	22人(455)
日本赤十字豊田看護大学 4年生 統合	3日間	2人(5)
日本福祉大学看護学部 3年生 小児	16日間	21人(336)
日本福祉大学看護学部 3年生 母性	10日間	10人(100)
日本赤十字豊田看護学部 訪問看護	15日間	8人(120)
人間環境大学 4年生 国際看護	5日間	4人(20)
名古屋学芸大学	7日間	15人(105)

6. 看護職員採用状況（令和4年4月1日採用者）

新卒看護師	既卒看護師	合計
71名	5名	76名

7. 看護職員退職状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日退職者）

平均看護師数	退職者数	離職率
656	67	10.41%
新人看護師数	退職者数	新人離職率
71	7	9.86%

8. 医療安全管理部

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. インシデントレポート集計・分析

インシデントレポート件数は総数4,552件、診療部315件13件、臨床研修部331件14件と増加してはいるが、全体数で見ると昨年度より576件減少した。（主に臨床検査室270件で55件、看護部3,121件で507件減少、地域医療福祉連携部50件で23件減少）3bレベルは43件で昨年度より27件増加（詳細薬剤8件、治療・処置14件、医療機器1件、ドレーン・チューブ5件、検査1件、療養上の世話13件、その他1件）。薬剤と治療・処置については、診療部・臨床研修部の報告の増加に比例しており、療養上の世話は主に転倒転落によることが多く看護師が関係する。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症第7.8波が押し寄せ、医療従事者への感染が拡大し、ひっ迫している医療現場に拍車をかけた。平時より煩雑な業務になり、思い込み、ルールの不遵守、コミュニケーションエラーが要因となり医療事故が発生していたと考える。看護部の転倒転落の予防対策についての取り組みを継続していくことは必要である。「ハインリッヒの法則」では、重大事故1件が発生した裏には、中等度の事故29件があり、さらにその背景には300件のニアミスなどの軽微な事故があると言われている。軽微な事象から改善を図り重大医療事故防止につなげることが必要と考えるため、多忙な業務であると思われるが、ヒヤリ・ハット、医療事故報告件数を増やせるよう医療安全管理部としての働きかけが重要である。

2. 医療安全対策地域連携加算ラウンド

新型コロナ感染を鑑み令和4年度の医療安全対策地域連携加算ラウンドはWeb開催となった。

ラウンドが実施できない為、各施設で取り組んだ対策の内容及び自病院のラウンド結果を報告した。

日時は11月24日（木）15:30～16:30

参加施設は、トヨタ記念病院、豊田西病院、豊田厚生病院

3. M&Mカンファレンス開催

6回／年 開催。各部門から参加していただいた。

患者・家族からの情報がうまく活用できずトラブルに至った事例が3事例、確認の手順が遵守されなかった事例が2事例、窒息事例について振り返りを実施し、病院としての検討が必要な事例もあった。また、セーフティニュースを活用した周知活動は継続していく必要があると考える。来年度は毎月開催できるようにしていく。

4. 啓発活動の実施

Safety Plusの研修システムを導入し、今年度も全体研修はeラーニング研修とした。参加率は100%、新システムを導入し、受講者はWebであるためコロナ禍でも自宅などで実施することができ、動画で視聴しやすく、内容がどの職種にもわかりやすかったこと、内容が繰り返されるため印象に残りやすかったと、感想も前向きなものが多かった。感染動向を踏まえ外部講師の全体研修や医療事故ワークショップの内容を検討していきたい。医療安全フォーラムも、Safety Plusを活用した発表を始めて試みた。どこでも見ることができることがメリットではあるが、見やすさに問題が残った。他部署の報告から、勉強になったとの意見や事例の分析能力のレベルUPも見られ、今後も医療安全文化の醸成に向けフォーラムを継続して活動していく。

専任会議では定期巡回パトロールのテーマを患者誤認防止とし実施した。また、RRSについての報告の定例化、報告書管理体制加算の準備、入院申込書の見直し、事例共有などを実施した。

5. 医療事故対応（事例検討会）の実施

・ 11回事例検討を実施

6. 医療事故調査制度にともなう死亡患者の確認

医療事故調査制度の対象事例はなし

7. マニュアルの整備

第1章・2章・4章 改定後の差し替え

第6章 患者誤認防止・行動制限用具 修正。院内急変対応・作業中断カード 追加

第7章 医療安全対策 各部門編（リハビリテーション室・栄養管理室）修正

2. 令和4年度実績

1. インシデント報告件数（令和4年度）

所属部署別	※4/1 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	155	21	24	27	23	31	29	30	24	20	30	33	23	315
臨床研修部	27	16	16	32	22	31	53	31	28	31	28	20	23	331
診療放射線室	46	3	11	4	8	7	8	8	4	5	7	10	5	80
臨床検査室	65	25	32	26	22	33	15	18	22	23	27	14	13	270
リハビリテーション室	38	1	3	2	5	6	2	1	3	2	7	1	4	37
臨床工学室	19	5	3	1	3	2	9	2	2	4	1	0	1	33
栄養管理室	80	14	12	8	11	14	10	13	13	14	6	6	9	130
薬剤部	62	6	2	6	8	8	3	3	3	3	7	11	5	65
看護部	779	281	273	291	310	246	247	261	260	259	237	251	205	3,121
事務部	179	9	3	6	3	2	2	3	3	5	3	4	3	46
地域医療福祉連携部	52	6	6	4	1	5	6	2	3	8	3	2	4	50
保険事業部	36	9	4	3	2	0	2	2	3	6	0	1	3	35
その他	22	2	1	0	1	7	4	5	3	8	0	3	5	39
合計	1,560	398	390	410	419	392	390	379	371	388	356	356	303	4,552

内容分類別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
薬剤	124	137	130	135	101	116	119	123	97	115	132	106	1,435	
輸血	2	5	6	3	1	1	1	0	2	1	0	1	23	
治療・処置	29	38	55	28	49	48	46	47	47	48	32	31	498	
医療機器等	14	20	6	18	15	15	7	9	8	9	8	11	140	
ドレーン・チューブ	36	22	30	37	29	41	39	33	31	29	23	18	368	
検査	58	70	64	66	70	48	44	49	71	50	51	41	682	
療養上の世話 (転倒・転落)	89 (49)	51 (28)	69 (43)	77 (37)	67 (37)	61 (33)	79 (38)	57 (26)	78 (40)	59 (39)	54 (32)	59 (32)	796 (434)	
その他	文書・書類	18	19	16	20	24	16	20	11	16	14	21	11	206
	情報管理	25	22	27	27	26	34	18	27	37	22	25	19	309
	その他	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	2	1	7
	意見・クレーム・暴言暴力等	7	6	7	8	7	10	6	14	1	9	8	5	88
合計	398	390	410	419	392	390	379	371	388	356	356	303	4,552	

2. M&Mカンファレンス開催件数・参加人数

月・日	参加人数	月・日	参加人数
5月26日	17名	12月1日	16名
10月20日	20名	1月26日	20名

3. 教育活動内容

1. 研修企画：実践

4月5日	新入職者研修	8月31日	薬剤部研修
4月7日	看護部新人研修	10月3日	中途採用職員研修
4月13日	研修医研修	11月15日、29日	看護補助者研修
6月30日 7月4日	ラダーⅠ研修	11月28日	薬剤部研修
7月7日	ラダーⅡ研修	12月8日、19日	ラダーⅢ研修

2. 第33回 34回 全体研修開催

内容：SafetyPlus医療安全研修 eラーニングを用いた自己学習

受講コンテンツ：第33回全体研修会 必修編「医療安全3つの柱」

第34回全体研修会 基本編「未然に防ぐテクニック」・「インシデントレポート」

期間：第33回全体研修会 令和4年7月25日（月）～令和4年8月7日（日）

第34回全体研修会 令和4年8月8日（月）～令和4年9月11日（日）

参加：第33回 1,735名（100%）

第34回 1,729名（100%）

3. 医療事故ワークショップ

第29回 縮小版 医療事故ワークショップ

医療安全管理者・医療安全専任者で間違った消毒液で目の洗浄をした事例について、何が起きたか・なぜ起きたか・どうすべきであったかを“ImSAFER”手法にて検証した。

医療事故ワークショップは、コロナ禍であったことから感染拡大を鑑み中止対応をしてきたが、小規模でも開催することができよかった。また、今までは、時間外で実施していたが、時間内での取り組みを検討し実施できたこともよかった。

4. 第13回 医療安全フォーラム

目標：各部署が自部署事例の分析を行い、対策を見出し、改善に取り組むことが出来る

発表：取り組みは全部署であるが、発表は令和4年度担当部署

方法：発表内容はSafetyPlusを利用し閲覧およびアンケート実施にて参加とした。

期間：令和5年1月10日（火）～令和5年2月10日（金）

参加：1,187名（参加率88.5%）

※興味をひいた取り組み内容の部署

1位	リハビリテーション室	病棟靴配置の取り組み～安全に歩行訓練を行うために～	471票
2位	医療安全管理室	～患者誤認防止策の充実～	445票
3位	HCU病棟	誤薬 ^{ゼロ} への挑戦	346票

5. 院内パトロール実施

6月17日	時刻確認パトロール
9月16日	患者確認パトロール
10月21日	リストバンド装着確認パトロール

6. 医療安全推進週間（11月20日～11月26日）

全職員の名札に黄色リボンを付け医療安全推進週間の意識付けを行う

目的：「患者の安全を守るための共同行動（PSA）」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取り組みの推進を図り、またこれらの取り組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを

目的としている（厚生省ホームページより抜粋）

対象：全患者、全職員

内容：患者向け⇒臨床検査室・医療安全管理室からパネル出展

1階外来通路（医療安全推進週間期間中）

職員向け⇒11月24日、25日 展示

○認定看護師

- ・認知症看護認定看護師 「見る話す立つ」～認知症ケアメソッドユマニチュード～
- ・緩和ケア認定看護師 11月30日は「人生会議の日」～患者の思いや希望を繋いでいきませんか～
- ・摂食・嚥下障害看護認定看護師 誤嚥・窒息事故防止への取り組み

○各部署

- ・臨床工学室 SMG（Safety Machine Guidance）・人工呼吸器・輸液ポンプ
- ・臨床検査室 患者誤認を確実に！
- ・感染制御部 正しく使って身を守ろう！～N95マスク～
- ・救命救急センター病棟委員会 RRSいつ呼ぶの今でしょ！
- ・医療安全管理室 セーフティニュースについて
- ・JMS業者展示 傾聴栄養関連 新・コネクタ製品について

参加：814名

7. 定期巡回パトロール

- ・酸素ボンベの管理状況確認 4月 令和5年2月
- ・患者誤認防止パトロール 5月 7月 9月(3委員会合同) 11月(2回) 12月 令和5年1月 3月
- ・時刻パトロール 6月
- ・8月 新型コロナウイルス感染拡大を鑑み中止
- ・リストバンド装着パトロール(全入院患者) 10月
- ・浴室 ゴムマットパトロール

掲示物発行：医療安全情報（医療事故情報収集等事業） セーフティニュース、看護部お便り 1回／月

9. 感染制御部

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 新型コロナウイルス感染症対応

①感染症病棟・一般病床COVID-19エリア

行政の要請を受け、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応病床を設置、感染症病棟と一般病棟にゾーニングを実施し病床を確保している。愛知県のフェーズの変更や感染者数の増減に伴い、確保病床のエリア拡大や縮小など臨機応変に対応した。

②発熱者等対応外来

救命救急センターの一角に発熱者等対応外来を設置し、COVID-19が疑われる患者の対応を実施している。動線分離のため、ゾーニングの徹底に加え、発熱対応の時間を限定し、患者数増加に伴う混乱を最小限にできるよう工夫して対応した。

③感染対策の徹底

全職員に対し、手指衛生の徹底や個人防護具の着脱が確実に実践できるよう、手順書などの整備を実施した。また、適宜改訂を行い周知徹底した。

④院内感染防止の取り組み

病院長直下の新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置、各部門で情報共有し、連携を図りながら、院内感染の拡大が起きないように院内の環境を整備した。

⑤院内クラスターへの介入

接触者調査を実施し、濃厚接触者の把握、ゾーニングの実施、PCR等の検査を積極的に実施することで、早期に収束できるよう介入を行った。

⑥管轄保健所との連携

管轄保健所からの受診要請を受け入れるため、帰国者接触者外来を設置し対応した。帰国者接触者外来では管轄保健所と連携を図りながら、COVID-19の診療がスムーズに行えるよう、院内の体制を整備した。また、COVID-19入院患者の状況報告も毎日実施した。

⑦地域医療機関との連携

クラスターが発生した医療機関・介護施設へ感染管理認定看護師が訪問し、感染対策（ゾーニング、個人防護具など）について実践指導介入、支援を行った（令和4年度実績：9施設）。

2. リンクナース活動の充実

感染対策看護部会（リンクナース会）では、院内パトロールチーム、標準予防策チーム、血液体液曝露チームに分かれ、グループ活動を展開した。院内パトロールチェックリストの見直し・改訂を行い、新たなチェックリストでパトロールを実施し、各部署にフィードバックした。また、擦式アルコール製剤の消費量調査を継続して実施、二重手袋を廃止する取り組みを実施した。擦式アルコール製剤の1患者当たりの使用回数は、前年度と比較し横ばいであった。個人防護具の着脱手順の動画を作成し、看護職員が視聴することで、正しい手順で着脱できる職員の割合の増加につながった。今後も継続して取り組んでいく。

看護部新人研修では、リンクナースが中心となって教育活動を展開した。手指衛生の手技、個人防護具の着脱方法、廃棄物の処理方法、滅菌物の取扱いなどを実践指導し、新人看護師が現場に配属された後すぐに感染対策を実践できるような研修内容となった。

2. 令和4年度実績

1. 教育活動

開催月日	研修会名
令和4年4月5日	新入職員研修（全職種対象）「院内感染対策の実際」

4月8日	研修医オリエンテーション 「感染対策の基本と新型コロナウイルス感染症対応の実際」
4月11日	看護部新人研修「感染対策の概要」 「針刺し、血液・体液曝露防止対策の実施と事故後の対応」他
4月13日	研修医オリエンテーション「針刺し・粘膜曝露について」
4月6日	新人薬剤師研修「標準予防策・経路別予防策（薬剤師向け）」
令和4年5月16日	看護部ラダーⅠ研修「標準予防策・感染経路別予防策」
令和4年6月2日	看護部ラダーⅡ研修「デバイス関連感染・手術部位感染」 「感染対策上問題となる微生物とその対策」他
令和4年7月1日	ボランティア研修「感染対策の基本～うつさない、かからない対策～」
令和4年10月3日 ～10月28日	第24回院内全体講演会（Web開催） 全職員対象「感染対策の概論①」 医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師対象「抗菌薬を大切にしよう！①」
令和4年11月4日	看護助手研修「感染対策の基本」
令和5年2月13日 ～3月10日	第14回豊田感染症フォーラム（Web開催） 全職員対象「感染対策の概論②」 医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師対象「抗菌薬を大切にしよう！②」

2. 各種サーベイランス

JANIS（厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業）参加状況

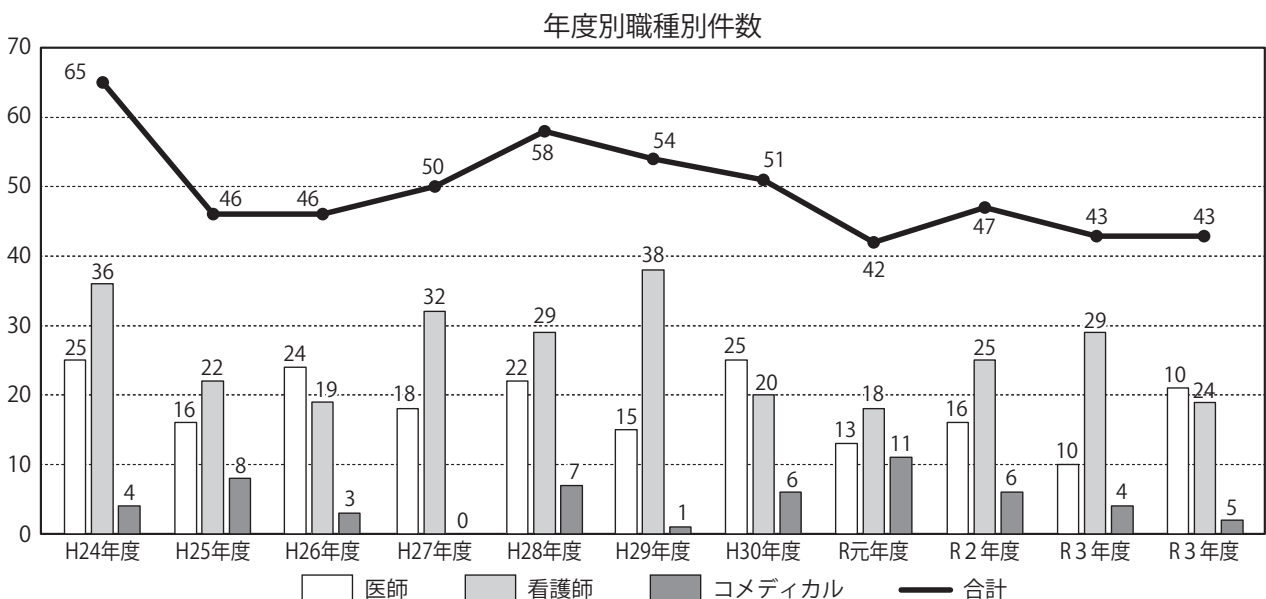
- ・検査部門サーベイランス
- ・手術部位感染（SSI）部門サーベイランス（COLO・REC）
- ・集中治療室（ICU）部門サーベイランス

デバイスサーベイランス実施状況

- ・中心静脈カテーテル関連血流感染（CLABSI）
- ・尿道留置カテーテル関連尿路感染（CAUTI）
- ・人工呼吸器関連肺炎（VAP）

3. 針刺し・切創・粘膜曝露対策

針刺し・切創・粘膜曝露についてのデータ収集を継続して実施している。令和4年度は、43件/年（100稼働病床あたりの針刺し件数6.6）の事例が発生し、前年度（43件/年）と同じ件数であったが、100稼働病床あたりの針刺し件数では7.0→6.6へ減少した。全国平均（100稼働病床あたりの針刺し件数6.6）と比較しても、ほぼ同様のデータであった。



4. 地域連携

〈感染対策向上加算カンファレンス・豊田地域感染対策ネットワーク会議 (ToRIC) 〉

開催月日	内 容	主 催
令和4年4月20日	昨年度の感染症の総括と今年度の活動について	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
6月15日	感染対策に関する情報共有について (インフルエンザサーベイランス) 講演会「標準予防策と針刺し事故対策」	トヨタ記念病院 (オンライン開催)
8月17日	参加施設の活動報告 「新型コロナウイルスの最近の動向」 感染対策向上加算 J-SIPHEについて	トヨタ記念病院 (オンライン開催)
10月19日	参加施設の活動報告 「新型コロナウイルス感染症の対応」 豊田厚生病院のAS活動	豊田厚生病院 (オンライン開催)
12月21日	参加施設の活動報告「血液培養検査の迅速報告に向けた取り組み」 参加施設の活動報告「閉鎖病棟でのコロナ感染症の発生を経験して」	豊田厚生病院 (オンライン開催)
令和5年1月26日	COVID-19 第8波の状況報告	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
2月15日	新興感染症の発生等を想定した防護具着脱訓練	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
3月1日	抗菌薬・消毒薬の使用状況報告	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)
3月23日	行政と医療機関の連携のしかた 「サル痘(疑い例)発生時の対応」 「稀な感染症に対する連携」 COVID-19の5類移行に伴う情報共有	トヨタ記念・豊田厚生共同開催 (オンライン開催)

〈感染対策向上加算ラウンド〉

- ・加算1 相互ラウンド：豊田厚生病院→トヨタ記念病院 (10月21日)
トヨタ記念病院→豊田厚生病院 (10月28日)
- ・加算2/3 ラウンド：名豊病院 (8月23日)、豊田西病院 (3月8日)、
豊田地域医療センター (3月8日)、足助病院 (3月29日)

5. ICTラウンド (毎週金曜日)

毎回テーマを絞って、病棟・外来系のラウンドを実施。

- 4月…環境整備 (ミキシング台の環境、滅菌物の管理、薬剤管理等)
- 5月…環境整備 (ゾーニング、ゴミの分別等)
- 6月…デバイス関連感染 (尿道留置カテーテルの管理、末梢静脈カテーテルの管理等)
- 7月…デバイス関連感染 (尿道留置カテーテルの管理、吸引時の防護具着脱等)
- 8月…手指衛生 (アルコール手指衛生・培養)
- 9月…手指衛生 (医師・薬剤師のアルコール手指衛生・培養)
- 10月…環境整備 (滅菌物の管理、薬剤管理等)
- 11月…環境整備 (嘔吐物処理方法、ミキシング台の環境等)
- 12月…環境整備 (ゴミの分別、パソコンのキーボード培養)
- 1月…環境整備 (ゴミの分別、ゾーニング)
- 2月…個人防護具 (防護具着脱手順)
- 3月…手指衛生 (流水と石けんでの手洗い)

6. 血液培養ラウンド（毎週水曜日）・抗菌薬ラウンド（毎週木曜日）

・血液培養ラウンド

血液培養陽性：1,098例に介入 うち血流感染：32例

・抗菌薬ラウンド（AST）

対象症例数：1,250例 うちコメント症例数：68例

7. ICTニュースの発行

6月…「巷で話題のサル痘とは…」

7月…「尿道留置カテーテル感染が増加中！」

10. 地域医療連携課（地域医療連携係）

急性期病院として期待される要望事項の把握に努め、地域医療機関との交流を密にし、地域医療連携がスムーズに行えるように受け入れ体制を充実させる。

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 地域医療機関との連携強化

- ① 地域医療機関への表敬訪問の実施（50件）
 - ・当院独自の「脊椎圧迫骨折術後の骨粗鬆症地域連携パス」「心不全地域連携パス」の連携先医療機関の新規拡大のため、副院長、各代表部長と医療機関への訪問を行った。また、7月より開始した「TAVI」のPR目的の訪問も行った。
- ② 連携医療機関の当院広報誌への情報掲載
 - ・年間4回4医療機関ごと登録医、連携医合わせ計16医療機関を掲載した。
- ③ 6大がん地域連携パス受け入れ医療機関拡大
 - ・開業医訪問の際、新規届出および追加届出依頼を行うとともに、届出未医療機関との連携パスを希望する患者が発生した場合、新規届出依頼及びパスの概要説明を行った。（令和4年度実績409件）

2. 勉強会・交流会の開催等

- ① 地域連携勉強会の開催
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ② 豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催
 - ・令和4年4月20日（水）（令和4年度第1回）webおよび書面開催
 - ・令和4年7月20日（水）（令和4年度第2回）webおよび書面開催
 - ・令和4年10月19日（水）（令和4年度第3回）webおよび書面開催
 - ・令和5年1月18日（水）（令和4年度第4回）webおよび書面開催
- ③ 第24回 豊田厚生地域医療連携交流会開催
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ④ 令和4年度 豊田加茂地域医療連携交流会
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ⑤ 乳腺勉強会
 - ・令和5年2月22日（水）実開催 参加者73名
- ⑥ 豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC
 - ・令和5年3月8日（水）実開催 参加者80名

2. 令和4年度実績（地域医療支援病院運営委員会資料より抜粋）

①登録医数・登録医療機関数（令和4年度末）

	登録医数	登録医療機関数
医 科	272	213
歯 科	166	151
合 計	438	364

②紹介関連実績 ※地域医療支援病院紹介率

	地域医療連携係 取扱件数	紹介率※
医 科	29,068	73.4%
歯 科	2,461	

③逆紹介関連実績 ※地域医療支援病院紹介率

	当院文書作成件数	紹介率※
医 科	24,783	94.9%
歯 科	1,899	

④紹介の地域医療連携課経由の有無

連携課経由	24,012
連携課経由外	7,064
延紹介患者数	31,076
経 由 割 合	77.3%

⑤診察紹介患者の入院実績

診 察 紹 介	24,687
入 院（再掲）	6,649
入 院 割 合	26.9%

⑥科別紹介関連実績

診 療 科	計	内 訳	
		外 来	入 院
内 科	1,160	863	297
脳神経内科	2,134	1,870	264
呼吸器内科	1,455	1,077	378
消化器内科	2,971	2,191	780
肝臓内科	261	223	38
循環器内科	4,168	3,309	859
内分泌代謝内科	728	604	124
腎臓内科	676	555	121
膠原病内科	105	102	3
血液内科	372	306	66
総合内科	602	440	162
精神科	252	252	0
小児科	977	744	233
外科	952	582	370
血管外科	705	657	48
乳腺外科	367	298	69
小児外科	0	0	0
消化器外科	176	35	141
整形外科	1,829	1,452	377
脊椎外科	578	401	177
形成外科	833	710	123
脳神経外科	562	427	135
呼吸器外科	164	132	32
心臓外科	263	242	21
皮膚科	948	842	106
泌尿器科	1,330	997	333
産婦人科	968	681	287
眼科	849	576	273
耳鼻咽喉科	1,289	1,052	237
放射線科	869	868	1
麻酔科	23	18	5
歯科口腔外科	2,510	1,921	589
合 計	31,076	24,687	6,649

⑦科別逆紹介関連実績

診療科	計	内 訳		
		紹介元へ	紹介元以外へ	当院患者を紹介
内 科	701	442	14	245
脳神経内科	2,444	1,691	81	672
呼吸器内科	921	500	11	410
消化器内科	2,549	2,108	96	345
肝臓内科	177	145	26	6
循環器内科	5,368	4,665	89	614
内分泌代謝内科	1,297	348	176	773
腎臓内科	805	461	39	305
膠原病内科	36	12	0	24
血液内科	394	205	0	189
総合内科	557	211	2	344
精神科	221	61	23	137
小児科	408	117	3	288
外 科	2,091	1,836	58	197
血管外科	360	311	26	23
乳腺外科	87	54	14	19
小児外科	0	0	0	0
消化器外科	56	29	2	25
整形外科	1,756	215	25	1,516
脊椎外科	267	132	11	124
形成外科	456	384	9	63
脳神経外科	445	143	6	296
呼吸器外科	41	5	0	36
心臓外科	369	292	12	65
皮膚科	465	269	21	175
泌尿器科	383	128	3	252
産婦人科	265	77	16	172
眼 科	599	400	38	161
耳鼻咽喉科	668	641	1	26
放射線科	761	747	8	6
麻酔科	17	5	0	12
歯科口腔外科	1,898	1,796	2	100
合 計	26,682	18,430	812	7,620

⑧地域別紹介件数

豊 田 市	22,488
みよし市	3,864
そ の 他	4,724
合 計	31,076

⑨インターネット予約システム利用状況

地域医療連携課経由	24,012
インターネット予約（再掲）	9,459
インターネット予約割合	39.4%

⑩高度医療機器利用実績

内容	計	内 訳	件 数
放射線関係	1,520	CT	795
		MRI	603
		RI	3
		PET-CT	4
		骨密度	113
		上部消化管透視	0
		下部消化管透視	2
内視鏡・生理検査関係	1,295	上部内視鏡	136
		下部内視鏡	140
		腹部超音波	231
		心臓超音波	344
		甲状腺超音波	122
		頸動脈超音波	111
		その他超音波	1
		脳波	2
		その他	208
合 計			2,815

※その他の超音波は下肢血管

※その他はホルター心電図・トレッドミル・神経伝導検査・肺機能検査など

⑪開放病床(25床)利用実績

紹介患者延利用日数	1,765
利 用 率	19.3%

11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 部署内の協力・応援体制の強化に関する取り組みと成果

①専従看護師のペア制の応援体制

- ・患者・家族の意思を汲んだ退院調整を実施するために、専従看護師がペアになり1回／月の定例で事例の振り返りを行うよう取り組んだ。ホワイトボードに実施日と時間を提示し、確実に事例検討の実施を行った。振り返りを通じて患者の情報共有をすることで応援体制にも繋がった。

2. 退院支援の質向上に関する取り組みと成果

①スタッフが退院支援を行うための必要な正しい知識の習得

- ・スタッフペア制で勉強会を企画、開催する形式で実施

7／21 退院困難な要因の目的

9／2 早期面談の目的と必要事項

9／9 退院支援カンファレンスの目的

10／6 退院支援計画書の運用

②病棟新人看護師への退院支援勉強会を開催

- ・病棟新人看護師61名に対して「退院支援のしくみ」の勉強会を実施した。
- ・勉強会のアンケート結果では「退院支援のしくみについて」、「退院支援で病棟看護師が行うべきことについて」において、100%の病棟新人看護師が「大変理解できた、理解できた」と回答した。また、自由記載では「事例と一緒に考えてみたい」、「退院支援における記録の記載方法について学んだ」、「退院支援に他職種が関わっていることを学んだ」などの意見があり、病棟新人看護師の退院支援への意識および知識向上の成果に繋がった。
- ・スタッフが主体となり勉強会を企画、開催する上で、診療報酬 診療点数早見表による診療報酬の知識の必要性を修学した。

③定期的なケーススタディの実施

- ・年5回のケーススタディを実施。病棟専任・専従のそれぞれの役割の視点から、患者の思いを汲んだ退院支援についてディスカッションし合い、実践事例から退院支援の役割期待を深めた。

④自宅退院における介護指導の資料や医療機器貸与書類の作成

- ・自宅退院指導における吸引指導（気管切開の吸引、口腔内吸引）と経管栄養のパフレットが完成した。

3. 地域の関係機関との連携強化

【豊田市市役所】

- ・豊田市訪問看護育成センターの講師 1回／年

4. 地域クリニカルパス推進

【脳卒中地域連携パス運用会議】年3回開催

令和4年8月18日 「2022年度地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

令和4年11月10日 「地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

令和5年3月16日 「地域連携診療計画の評価と見直しについて」Web開催

【大腿骨頸部骨折地域連携パス運用会議】年3回開催

令和4年6月30日 「新規参加病院承認」「トヨタ記念病院の骨粗鬆症リエゾンチームの活動について」Web開催

令和4年10月13日 「二次骨折予防管理料の継続について」 Web開催

令和5年3月2日 「急性期病院実績報告」「二次骨折予防管理料1について」 Web開催

5. 在宅支援コーディネーターとしての質向上とキャリアアップ

「第4回日本在宅医療連合大会Zoom開催」 1名参加

「ハラスメントのない職場づくりZoom開催」 1名参加

「令和4年度 ケアマネ意見交換会Zoom開催」 参加者4名

「令和4年度愛知県介護支援専門員実務研修」 1名受講

「高齢者福祉研究会Zoom開催」 1名参加

「第50回看護師会自主研修会」 1名参加

「令和4年度退院調整看護師養成研修」 1名受講

「令和4年度退院調整看護師養成研修」 講師

「令和4年度訪問看護職員養成講習会」 講師

「加茂看護専門学校 授業」 講師

「第8回豊田厚生病院がん看護基礎研修会」 講師

「退院支援における医療機関との連携に関するセミナー」 講師

2. 令和4年度の実績

退院調整看護師4名、MSW1名で、新規883件（前年度比101.4%）の退院調整を行った。疾患分類で見ると悪性新生物が434件（前年度比107.6%）49.1%を占め、がん患者の在宅療養の調整件数が年々増えている。ドレーン挿入、輸液による医療用麻薬投与、人工呼吸器装着患者など医療依存度が高い状態での自宅退院調整を実施するケースも増えているため、退院時共同指導、多機関共同指導の重要性を感じており、患者・家族の希望を中心に据えた退院支援の質の向上の取り組みを継続した。コロナ禍の影響による地域のかかりつけ医の参加が困難な影響もあり多機関共同指導加算は52件（前年度比69.3%）と減少したが、退院時共同指導の件数は134件（前年度比141.0%）と前年度をさらに上回る成果を上げた。

病棟専任看護師7名で退院支援を実施する上で、当院は在院日数が10～14日と短いという特徴があり、入院当日に退院支援対象者のスクリーニングの実施を継続した。介護支援等連携算定件数は165件（前年度比83.7%）と減少した一方、入退院支援加算1の算定件数は8,468件（前年度比104.1%）と増加する成果を上げた。令和4年度の診療報酬改定では、入退院支援加算1の算定点数が600点から700点と診療報酬が上がったため、収益に貢献する成果を上げた。

①退院調整対応件数

	令和4年度
新規件数	883件
継続延べ件数	252件
合計	4,231件

②疾患分類

	令和4年度
新生物	434件
神経系	95件
循環器系	79件
呼吸器系	67件
消化器系	58件
その他	150件

③退院時転帰先

		令和4年度
在	宅	466件
転	院	65件
施	設	8件
死	亡	87件
合 計		626件

※外来患者の対応件数を除く

④退院支援計画書・介護支援連携

		令和4年度
入退院支援加算1		8,468件
地域連携診療計画加算		件
介護支援等連携		165件
多機関共同指導加算		52件

⑤地域連携バス件数

		令和4年度
大腿骨頸部骨折		143件
脳 卒 中		199件
胃 が ん		61件
胃がん（ESD）		8件
大 腸 が ん		134件
乳 が ん		129件
肝 臓 が ん		1件
肺 が ん		41件
前立腺がん		21件
在宅緩和ケア		16件
認 知 症		17件
BKP術後骨粗しょう症		5件
C K D		0件
心 不 全		50件
脳卒中2次バス		19件
合 計		844件



12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）

令和4年度は、相談件数が飛躍的に増加した令和3年度をさらに上回る相談件数であった。

対前年比に見る相談件数は実人数で107.2%、総対応件数では107.0%と、過去最大の伸び率だった令和3年度のデータから見てさらに7%増となっている。新規依頼件数でも107.6%（2,874件）と令和3年度よりさらに200件程度増えている。貧困による相談など、コロナ禍の影響も考えられるが、根本的にソーシャルワーカーの介入を必要とする患者が増えていると考えられる。以前から指摘されている8050問題や身寄り無し患者など、患者を取り巻く社会背景が複雑化していることで入院から退院までに支援が必要な事柄が増えている影響と考えられる。

一番件数の多い退院相談では、コロナ対策の面会制限により、患者の状態を上手く把握できていない家族が退院指示で急に困る例も多く、患者家族への情報提供の仕方に苦慮しながらの対応となった。

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 後方病院や在宅関係機関との連携強化

- ・後方医療機関や施設とは定期的に話し合いを行い、よりスムーズな転院や施設入所ができるように継続的に運用の見直しを行っている。
- ・コロナ蔓延による転院延期については、情報交換を密にしていたため、隔離解除後はかなりスムーズに転院できている。しかし、当院だけではなく受け入れ先のクラスターの影響もあり、在院日数に関しては以前よりも伸びている。
- ・行政関係の会議では、豊田市の地域包括ケアシステムの基盤整備として成年後見支援センターの運用見直しや市民後見人の養成などへの継続的な協力を行っている。また、身寄りのない単身者の問題については、全国に先駆けて豊田市がモデル事業に取り組んだこともあり、具体的に展開できるように現場目線での話し合いを続けている。

2. キャリアアップへの取り組み

- ・両立支援コーディネーターの取得、がん相談支援センター相談員基礎研修会、精神保健福祉士協会研修会など、スタッフの状況に合わせて一步上の資格等の取得や研修への参加に取り組んだ。がん相談支援センター相談員基礎研修会は、基礎研修Ⅲの受講、及び基礎研修Ⅰ・Ⅱの受講にそれぞれ1名が取り組んでいる。
- ・精神保健福祉士協会については、今まで資格を持っている職員が入会していなかった。しかし、精神科の依頼を主として担当するようになり、精神保健福祉士協会にも入会して研修も参加するようになり、その内容を部署内で共有できるようになったことで、部署全体のレベルアップにも繋がっている。

3. 地域医療福祉部門内への協力

- ・関連部門になる居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションの加算要件を満たすため、退院支援部門会を通して情報の共有を行い、関連部門との連携を密にした。その結果として、令和3年度に比べてかなり早い段階で加算要件を満たすことが出来た。

4. がん相談の体制充実

- ・両立支援の算定を増やすため対象診療科を増やしたが、算定実績はゼロであった。対象診療科でない利用者にも目を向けてニーズを確認したが、就労継続に関する相談が少ない状況であった。医療費支払いや傷病手当金の相談はあるが、就労継続に関する相談は年間で9名だった。
- ・緩和ケア病棟の受け入れ態勢の見直しに着手を始め、令和5年度の検討課題としている。

2. 令和4年度実績

1. 援助内容別対応件数

援助内容	令和4年度		令和3年度	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
1. 心理・社会的処遇	449	1.4%	388	1.2%
2. 治療と療養生活	632	2.0%	585	2.0%
3. 家族関係・在宅生活	412	1.3%	329	1.1%
4. 受診・入院	660	2.1%	617	2.1%
5. 退院・転院	26,363	82.3%	24,972	83.3%
6. 医療費・生活費・経済	1,292	4.0%	1,177	3.9%
7. 手続き・診断書・保険	2,008	6.3%	1,726	5.8%
8. 職業等社会生活	40	0.1%	11	0.04%
9. その他	194	0.6%	152	0.5%
合計	32,050	100.0%	29,957	100.0%

2. がん相談支援センター 援助内容別対応件数

援助内容	令和4年度		令和3年度	
	件数(件)	構成比(%)	件数(件)	構成比(%)
1. 治療・療養生活等	3,772	83.4%	2,869	77.5%
2. セカンドオピニオン	22	0.5%	17	0.5%
3. 治療実績・受診・入院・退院・医療機関紹介	401	8.9%	517	14.0%
4. 医療費・生活費・社会保障制度	215	4.8%	192	5.2%
5. 不安・精神的苦痛・告知・コミュニケーション	57	1.3%	47	1.3%
6. その他	54	1.2%	59	1.6%
合計	4,521	100.0%	3,701	100.0%

3. 関係機関との会議等への参加状況

豊田市要保護児童・DV対策協議会、愛知県児童虐待対応医療機関連絡会、豊田加茂児童虐待等関係機関連絡調整会議、地域連携パス会議（脳卒中・大腿骨骨折・在宅緩和ケア）、豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議【書面開催】、豊田市成年後見・法福連携推進会議、豊田市身寄り無し独居者検討部会、難病ネットワーク三河ブロック連絡員会議、愛知県難病医療協議会・連絡員合同会議、難病地域対策協議会（豊田保健所）、難病地域対策協議会（衣浦東部保健所）、保健所・難病医療ネットワーク連携会議、認知症に関する交流会、認知症医療連携協議会、豊田市母子医療保健福祉ネットワーク会議、豊田市精神障がい者地域支援協議会、EM-PASS情報交換会、救急隊と医療・福祉合同研修、愛知県がん診療連携協議会相談支援部会、退院調整ワーキンググループ（豊田加茂医師会）等

4. 地域貢献

- ・愛知県医療通訳派遣システム養成講座 講師派遣
- ・名古屋刑務所視察委員会 委員派遣
- ・豊田市成年後見センター市民後見人養成講座 講師派遣
- ・豊田市訪問看護育成センター 講師派遣
- ・愛知県医療ソーシャルワーカー協会新任者養成委員会 委員及び講師派遣
- ・愛知県医療ソーシャルワーカー協会学生研修委員会 委員派遣
- ・実習生対応（他職種含む）等



5. 患者会開催状況（事務局を医療福祉相談課が対応しているもの）

①オストミー友の会（人工膀胱・人工肛門患者会）— 事務局 医療福祉相談課

・第37回 オストミー友の会

コロナウイルスの流行により、開催中止

②ひまわり会（在宅酸素療法患者会）— 事務局 医療福祉相談課

・第44回 ひまわり会

コロナウイルスの流行により、開催中止

代替として会員に日常生活の工夫のパンフレットやマスク、除菌ティッシュを配布

13. 豊田厚生訪問看護ステーション

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

- (1) 豊田市内の在宅医療・福祉連携推進計画へ参加し、地域の多職種連携強化の取り組み、訪問看護師育成と訪問看護ステーションの普及啓発、人材育成
 - ①豊田加茂訪問看護ステーション協議会への参加

隔月1回の部会はZoomで開催し、小集団活動として多職種連携チームの活動へ参加した。市内の多職種意見交換会に参加し、連携における課題抽出のためのアンケートを実施した。結果について、多職種に対し周知し、今後の連携強化へ繋げる活動ができた。
 - ②愛知県訪問看護ステーション協議会主催「訪問看護管理者研修」の支援

管理者研修参加者に対して、GAP分析から自部署での取り組み対策の作成までの年間フォローを実施した。事業所での1日実習受け入れとアドバイス、自部署での取り組み対策立案まで年間を通して研修の支援を実施した。
 - ③豊田厚生病院地域医療福祉連携課主催「看護技術研修会」講師

豊田市・みよし市のクリニック及び病院の看護師等に対し、Zoomにて6月と7月に2回開催。地域包括ケアシステム構築における訪問看護師の役割と、訪問業務について伝達講習を実施した。アンケートから、訪問看護師の役割理解や自施設での活用に繋がりたいという結果が得られた。
- (2) 訪問看護の質及び実践能力の向上に向けた取り組み
 - ①ナーシングスキルを活用した安全な看護技術の習得

「尿管留置カテーテルの挿入」「誤薬の予防」「摘便」「浣腸」等の技術項目について視聴とテストを実施した。院内の尿管留置カテーテル技術チェックは全スタッフが合格した。
 - ②在宅における内服管理方法の統一

個別性の高い在宅での内服管理に対し、リーダー会でPDP分析を展開し、確認事項を目視確認できる「内服薬の配薬管理方法シート」を作成、訪問時の配薬確認の統一と順守を徹底した。前年度と比較し、配薬に関するインシデント発生件数は減少した。
 - ③訪問看護業務における 訪問前～訪問時～訪問後の基本姿勢と業務遂行、時間管理能力習得

利用者のフィジカルアセスメント判断や対応、指導内容、時間管理、記録の方法や内容等のチェックリスト・OJTシート作成し、パートナーで互いの訪問に同行、アドバイスを交わした。全体での意見交換を実施し、自己の行動の振り返りや、アサーティブなアドバイス等の効果があった。
- (3) 安定した業務の維持
 - ①ICT化に向けた準備

タブレット端末での看護記録・会計ソフトへの変更に向け、紙カルテの記録用紙（主にデータベース）を修正し記録業務の負担軽減対策を実施。また、加算項目を正確に算定できる記録紙に改善した。WINCAREの電子カルテソフトの説明会を2月に実施、3月から実稼働に向けた操作訓練を開始し、令和5年4月から本稼働予定である。
 - ②災害時及び感染拡大時のBPC作成

9/3愛知県訪問看護ステーション協議会主催災害看護研修会「BCPの概要理解と災害訓練について」に参加。地域総合支援室において統一したものを作成中。
 - ③ターミナルケア加算算定数20件以上と機能強化型訪問看護療養費1の加算維持

院内在宅支援コーディネータ及び地域のクリニックや介護支援事業所からの紹介を積極的に受け入れ、ターミナルケア加算算定数は24件、目標は達成した。
 - ④計画的有休の公平な取得

全スタッフが、有休を計画的に消化できた。休日や夜間の緊急訪問後の勤務は、スタッフの疲労や疲弊に対し時間休暇を使い、対策した。



2. 令和4年度実績

1年を通してスタッフ及び家族のCOVID-19感染による休暇が続き、訪問件数減少への影響が大きかった。訪問看護利用者数は年間でマイナス91人、前年度比94%、延べ訪問件数はマイナス519件で、前年度比94%であった。1人1日当たり平均訪問件数は年間平均3.0件で前年度を下回った。訪問看護収益でもマイナス5,275千円で、前年度比91%であった。利用者の月単価は、介護+845円/月、医療-8,367円/月であり、前年度のターミナルケア件数30件に比較し今年度は24件と減少しており、重症度の高い利用者への頻回な訪問やターミナルケア加算算定数が医療保険の単価の減少に影響していると分析する。機能強化型訪問看護療養費1の算定要件であるターミナルケア加算算定数20件は達成した。

利用者の新規依頼は61%が院内の在宅支援コーディネーターで最も多かった。院内のケアマネジャーや包括支援相談員からの紹介は少ないため、増加に向け対策していく。

(1) 訪問実績

	年間利用者数 (延べ人数)	年間訪問件数 (延べ件数)	訪問看護【収益】 (千円)	ターミナルケア加算算定数
医療保険	529	3,143	40,589	13
介護保険	900	4,546	47,196	11
計	1,429	7,689	87,785	24

(2) 利用者月単価

	介護保険	医療保険	全体
令和4年度	52,566	70,797	56,216

(3) 新規依頼の紹介元

紹介元		介護	医療	計
院内	在宅支援コーディネーター	11	34	45
	居宅介護支援事業所	0	10	10
	地域包括支援センター	2	1	3
	医療福祉相談課	0	0	0
	医師	0	0	0
	小計	13	36	49
院外	他施設より (他病院・診療所等)	3	3	6
	居宅介護支援事業所	8	7	15
	地域包括支援センター	3	0	3
	小計	14	10	24
合計		27	46	73

(4) 自宅にて他界した件数とターミナルケア加算算定割合

	自宅にて他界した件数	自宅他界のうちターミナルケア加算算定件数	算定割合
令和4年度	25	24	96%

※ターミナルケア加算算定不可

	件数	理由
令和4年度	1	訪問日数不足 (退院同日死亡)

(5) 学生・実習生受け入れ状況

学校名	人数
加茂看護専門学校	8クール 40名
日本赤十字豊田看護大学	2クール 8名
愛知県看護協会管理者研修	2名1日

14. 居宅介護支援事業所（豊田厚生介護保険センター）

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 地域包括支援センターと連携強化し、新規ケースの同行訪問が出来る

- (1) 併設の地域包括支援センターと居宅介護支援事業所と意見交換
 - ・共有したい情報提供内容・利用者の意向を踏まえたケアマネ希望件数・ケースの優先順位等
 - ・居宅介護支援事業所で対応できる新規件数の提示
- (2) 新規ケース依頼時に地域包括支援センターとの同行訪問日調整
 - ・新規ケース58件、その内地域包括支援センターからの依頼30件あり
 - ・新規ケース30件中26件同行訪問（87%と前年度より増加）
- (3) 事例の振り返りを行う
 - ・連携したケースの良かった点（書面以外の家族関係や生活環境・介護者の理解力・なじみのない地域のサービス状況・利用者他界後ひとり暮らし登録について紹介しやすいなど）と問題点を共有

2. 居宅介護支援事業所の特定事業所医療介護連携加算の算定が維持できる

- ・令和4年3月1日～令和5年2月28日まで間、在宅看取り20件、その内がん末期ターミナルケアマネジメント加算件数14件算定（令和3年介護保険法改正あり、特定事業所加算Ⅳが特定事業所医療介護連携加算として名称変更、要件は同じ、がん末期ターミナルケアマネジメント加算5件以上必要、令和5年度も算定可能となった。他の要件も満たしている。）
- ・退院退所加算93回算定（要件は、35回以上）
- ・週1回ケアマネ会議を開催し、新規ケースや問題ケースなどの情報を共有
- ・時間外携帯当番を365日対応
- ・運営基準減算に該当しないように適正にケアマネジメント業務を実施
- ・短期間で終了するケースや状態悪化にてプラン発生につながらないケースが多いため、今後も新規ケースの継続対応が必要
- ・特定事業所加算基準の遵守状況に関する所定の記録を毎月末まで作成し、5年間保存

3. ケアマネ実務研修実習指導

- ・コロナ感染対策しながら1名実習受入れ対応（特定事業所加算Ⅲの要件の1つである）

2. 令和4年度実績

1. ケアプラン作成

令和4年度	
件数	収益
1,334	24,185,980

- ・特定事業所加算Ⅲ（300単位）・特定事業所医療介護連携加算（125単位）算定継続中
- ・活動実績は、ケアプラン件数は前年度比98%、収益は前年度比98%、新介護支援ソフト移行期間中に新規ケース対応一時制限していたことと入院等にてケアプラン発生しなかったケースがいたためと予測
- ・急性期病院の中にある居宅介護支援事業所のため、主に医療依存度の高いケースやがん末期のケースが安心して自宅療養できるように受け持ち対応している。医療依存度の高い場合やがん末期ケースの場合、状態変化しやすいケースが多い。急変にて相談対応は行ってもプランにならないケースが70件、死亡者41件、介護負担などから施設入所など中止（終了）者24件あった
- ・がん末期ケースでターミナルケアマネジメント加算算定件数14件（加算要件として5件以上必要）
- ・入院時医療連携加算3日以内67件、7日以内5件算定

2. 要介護別件数

要介護度別	令和4年度
要介護1	429
要介護2	410
要介護3	246
要介護4	110
要介護5	139
計	1,334

3. その他

(1) 新規・終了など

	令和4年度件数
新規利用契約者	58
中止者（入所等）	24
死亡者	41
利用者（電話相談・訪問対応以外）	1,780
他事業所へのケース紹介（再掲）	0

(2) 院外ケアマネから主治医連絡・入院時情報提供書対応件数（地域医療連携課事務担当）

主治医連絡票（平成21年度から対応開始）対応件数	516
介護保険医療連携用情報提供書対応件数	690

- (3) 令和3年12月～地域総合支援室事務員2人兼務体制とし、令和4年度に居宅介護支援事業所として受け持ち利用者数を拡大できるように試行、令和4年6月居宅介護支援事業所変更届提出
- (4) 昨年は感染に関するBCP（事業継続計画）を作成したため、令和4年度中に災害に関するBCPを作成
- (5) ICT導入に向けて、令和5年3月新介護支援ソフト・ノートパソコン導入
新介護支援ソフトに移行期間中は新規ケースを一時受け入れ制限

15. 豊田厚生地域包括支援センター

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

*活動目標は3年ごとに“3年後を見据えた長期的な目標”を立案。令和4年度は3年のうちの2年目であった。

【活動目標】

- ・地域の理解や協力により、認知症の方が地域で活躍できる場を増やすことができる。
- ・生きがいを見つけ、自身の健康に目を向ける高齢者が増える。
- ・多様な機関や地域支援者が連携して、複合課題を抱える世帯や支援が必要な高齢者を支える地域支援ネットワークの構築ができる。

1. 地域の方々が認知症について考える機会を作り、認知症の方が安心して外に出られる場を増やす。

(重点事項)

- ① 季刊誌を活用して地域住民に認知症サポーター養成講座の受講勧奨を行う
- ② 認知症サポーター登録の勧奨を行う
- ③ すべてのささえあいネット登録機関を訪問
- ④ まごころフェスタにおいて全世代に啓発、情報発信を行う
- ⑤ 若年性認知症本人家族会「スマイル」の継続支援
- ⑥ 認知症カフェ「スイカフェ」を共催
- ⑦ 福祉フェスティバルで認知症の方の出かけ先を紹介する

(成果) すべて予定通り実施

- ① 季刊誌の春号で認知症サポーター養成講座の受講勧奨を行ない、自治区単位での認知症サポーター養成講座開催につながった。
- ② 季刊誌の夏号で認知症サポーター登録の案内を掲載した。
- ③ 夏、冬の年2回ささえあいネット登録機関を訪問し、認知症サポーター養成講座の受講勧奨をした。
- ④ 認知症啓発、ヤングケアラーについての掲示を行った。
- ⑤ 本人らが希望したお出かけの機会を多く作るよう心掛けた。
- ⑥ 「認知症世界の歩き方ダイアログ」を実施し、カードゲームを通して、認知症の人の気持ちを理解するきっかけづくりができた。
- ⑦ オーラルフレイルについての掲示を行い、口腔嚥下訓練ができる出先の紹介をし利用につながった。

2. 地域の高齢者の実態把握を行う、必要な支援につなげるとともに、将来に向けて自身の健康に目をむける高齢者が増えるよう働きかける。

(重点事項)

- ① 民生委員の「ひまわり活動」に同行する等、一人暮らし登録者の生活状況の把握を行う
- ② 自治区長や民生委員等が「支援が必要」と考える高齢者を確認し実態把握を行う
- ③ 高齢者クラブ、サロンの代表者、浄水交流館にはたらきかけ、気になる高齢者を確認し実態把握を行う
- ④ 介護者のつどいで緩和ケア認定看護師によるACPに関する講演を行う
- ⑤ 健康増進、介護予防に関する講座を企画、開催
- ⑥ 介護予防ケアマネジメントを実施している高齢者のみの世帯を対象に「わたしのノート」を配布
- ⑦ 「健診未受診・医療保険未使用」の80～84歳の方の実態把握を行い、必要な支援につなげる

(成果) すべて予定通り実施

- ① 民生委員の「ひまわり活動」に同行、電話等での実態把握を全件実施し、困り事の聴き取り、必要な支援へつなげるなどの対応ができた。
- ② 自治区長や民生委員より気になる高齢者の情報提供をいただき、実態把握を行った。
- ③ 高齢者クラブやサロンの代表者や参加者へ「気になる高齢者に気づく視点（地域包括支援センター運営マニュアル）」を配布し、支援が必要な方の情報提供の機会が増えた。
- ④ 緩和ケア認定看護師とともに、馴染みやすいオリジナルのカードを作成し、もしバナゲームを行ない、もしもの時に大切にしたいことを考えるきっかけづくりができた。
- ⑤ 圧迫骨折予防の講座を行い、地域住民の健康への意識を高めることができた。
- ⑥ 高齢者のみの世帯へ配布し、作成に向けた支援を行った。
- ⑦ 民生委員とともに訪問等による実態把握を行い、受診や介護保険の利用につながった。

3. 医療・福祉の専門職や関係機関、地域支援者が連携して、個別支援から地域課題を共有、地域で高齢者を支える地域支援ネットワークの構築に向けた意識づけ、組織づくりを働きかける。

(重点事項)

- ① ケアマネ意見交換会を病院と共催
- ② 事例検討会を開催
- ③ 地区内の居宅へ困難事例の聴き取りをし助言を行う
- ④ 介護支援専門員支援検討委員の活動において、よりよい連携につながる研修を開催
- ⑤ ささえあいネット登録機関へ、みまもりほっとパーキング事業への協力をはたらきかける
- ⑥ 明らかになった地域課題に対して、地域ケア個別会議等で地域の関係者やCSWと連携して対策の検討を行う
- ⑦ 集いの場へのコーディネート事業に協力する

(成果) すべて予定通り実施

- ① 12月16日に病院と共催。集合開催からハイブリッドに変更したものの、少人数でのグループワークが行えるよう工夫した。
- ② 居宅訪問等で聴き取りした内容を反映し、11月14日に開催した。
- ③ 地区内の居宅を訪問し、顔の見える関係づくりを継続的に実施。新規相談や居宅へ移行した徘徊や虐待ケースの報告など随時連絡が入るようになっている。
- ④ 7月26日に西部ブロック介護支援専門員支援検討委員の活動において、研修会を開催した。
- ⑤ ささえあいネット登録機関を訪問し、みまもりほっとパーキング事業への協力をはたらきかけた。
- ⑥ 閉じこもりがちな高齢者も気軽に集える場として集会所を活用できるよう、地域住民やCSW、包括で話し合いを行い、プレ会の開催を経て4月から本格実施の運びとなった。
- ⑦ 閉じこもりがちな高齢者3名を集いの場へつなげることができた。

2. 令和4年度実績

1. 相談に対する対応件数(件) ※ほのぼの(地域包括支援センター支援システム)実績

電話	訪問	来所	その他	合計(件)
6,373	1,205	764	381	8,723

2. 介護予防支援実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
870	4,204,141	119.0%

3. 介護予防ケアマネジメント実績

件数(件)	収入(円)	前年度比
503	2,381,709	97.0%

4. 会議・研修等参加実績 合計111回

会議・研修名等(一部)・回数	
民生委員児童委員地区協議会	10回
サービス連絡調整会議	20回
地域包括支援センター連絡会議	12回
ケース検討会議(スクリーニング会議、コア会議含む)	2回
認知症初期集中支援チーム員会議	7回

5. 人材育成等計画の実績

事業区分	実施の有無
①センター職員の資質向上のための研修機会の確保	○
②センター職員と法人担当者との業務上の意見交換	○
③包括的支援事業に専念できる環境の整備	○
④3職種確保のための対応策	○
⑤そのほか法人独自の取組(任意)	○

16. 保健事業部 健康管理室

1. 令和4年度に実施した重点事項とその成果

1. 健診受診者増の対応

受診者がより快適でもっと多く受診していただける様に、以下の事を実施しました。

- ①受付で受診者の待ち時間解消を目指し、予約時間の細分化（15分間隔）、案内票に来院予定時刻の記載を行い待ち時間の解消。
- ②受診枠がなく予約をお断りしている対策として12月よりロッカー数の配分が変更（女子ロッカー室から男子ロッカー室に3台移設）。
- ③12月より、豊田市のふるさと納税にPET/CT検査・人間ドック・生活習慣病予防検診を掲載。
- ④次年度採用に向けプレミアム脳ドック（AI解析脳年齢を追加）の準備し総合PET健診にもプレミアム脳ドックを追加と、胃内視鏡検査の増枠（1日10件）。

2. 広報の充実

コロナ禍における健診受診者減少に伴う不利益について、「コロナ禍がもたらしたがん治療への影響」をテーマに呼吸器外科岡阪Drにカモメイト・ホームページに掲載し、話題となり毎日新聞にも取材・掲載されました。また、当院SNSに乳がん検診の情報をアップし新しい乳がん検診のチラシを院内パンフレットスタントに設置と新し広報活動を行いました。

3. 二次検診（精査）の予約開始

受診者の要望が多かった二次検診（精査）を病院全体で検討を進め、12月よりPET検診受診者は後日結果説明時にコンサルテーションによる外来予約を開始しました。

3月よりがん検診（胃・肺・大腸・乳・子宮・前立腺）受診者は、健康管理室と病院予約センターにて電話予約を開始しました。これにより当院に二次検診で受診される患者が増加すると見込まれます。

2. 令和4年度の実績

令和4年度の受診者総数は20,394名（職員健診含む）、総収入57,306千円、予算は570,342千円に対して予算対比 2,717千円増 100.5%と予算を上回った。令和4年度の稼働日は266日で1日当たり平均の受診者数は76.7名（職員健診含む）、また一日当たりの平均収入は2,154千円で、令和4年度の一人当たりの平均単価が28,099円であった。各種健診別の受診者の増加率はドック106.8%、企業健診等104.7%、全国協会健保96.6%、豊田市国保特定健診105.1%、豊田市がん検診104.0%でした。全体的には、コロナウイルス蔓延前の水準を上回るまで回復してきました。

1. 令和4年度のがん検診の精査率

令和5年4月1日現在

	総受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
胃がん	10,124	739	7.3%	536	72.5%	12	0.12%
肺がん	16,963	350	2.1%	222	63.4%	1	0.01%
大腸がん	12,344	749	6.0%	492	65.7%	22	0.19%
前立腺がん	1,982	123	6.2%	60	48.8%	5	0.25%
子宮がん	4,249	89	3.7%	64	71.9%	0	0.00%
乳がん	5,355	173	2.8%	158	91.3%	15	0.28%

※胃がん検診にて、食物残渣多量、描出不良、撮影不可等の理由にて検査未実施者は総数に含まず

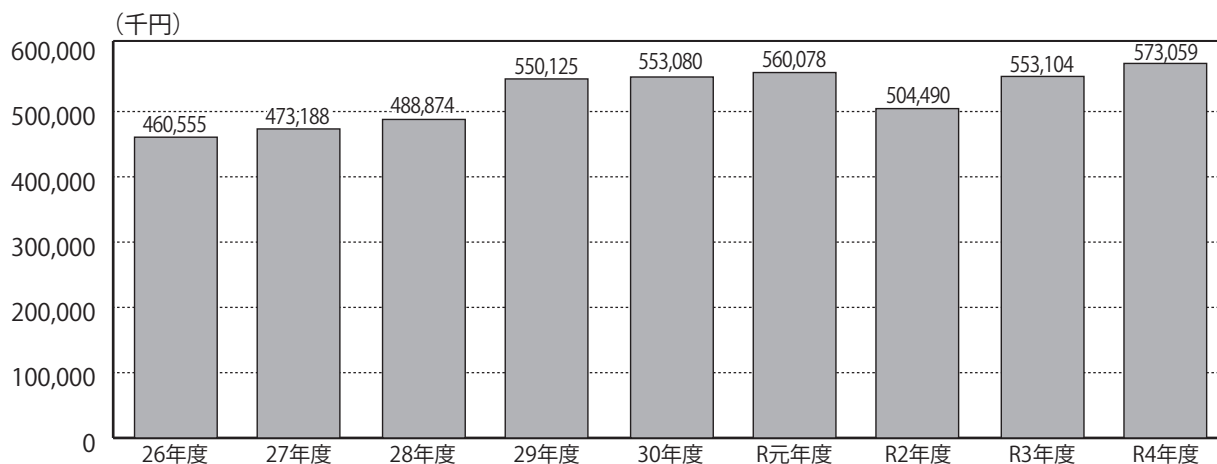
※各精検受診者数については、上記日までに当センターに報告されたもののみとする

※精査率は1年遅れで集計

2. 健康管理室利用者数

	令和4年度
人間ドック	3,948
JA組合員人間ドック	78
脳ドック	1,139
PET検診	125
肺ドック	317
レディースドック	354
甲状腺ドック	80
もの忘れドック	0
豊田市国保特定健診	4,503
特定健診（集合契約A）	514
保健指導（動機付け）協会健保含む	218
保健指導（積極的）協会健保含む	229
全国協会健保 一般	1,943
〃 付加・差額	329
〃 乳・子宮がん	597
〃 肝炎	11
企業健診・身体検査	3,389
被爆健診	78
職員健診	2,805
保健指導（動機付け）	32
保健指導（積極的）	9
豊田市がん検診 胃がん	3,478
〃 大腸がん	4,887
〃 肺がん	3,815
〃 子宮がん	1,358
〃 乳がん	1,939
〃 前立腺がん	899
〃 肝炎	377
〃 総合健診	240
〃 乳がん検診（無料券）	45
〃 子宮がん検診（無料券）	7
受診者数（職員健診含む）	120,394
収 益（円）	573,059,621

3. 健康管理室収益推移



Ⅲ 職員活動

1. 研究業績

呼吸器内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	間質性肺疾患関連肺高血圧症におけるMacitentanの使用経験	○佐藤智則、山野泰彦、横山俊樹、松田俊明、片岡健介、木村智樹、近藤康博	第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会	7月3日
2	3群高血圧症におけるemPHasis-10質問票の信頼性、内的妥当性の検討	○佐藤智則、山野泰彦、横山俊樹、松田俊明、片岡健介、木村智樹、近藤康博	第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会	7月3日

循環器内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	悪性リンパ腫に対する治療効果を経胸壁心臓超音波にて経時的に評価しえた1剖検例	○大橋大器、堀 仁美、近藤喜代太、山内良太、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、窪田龍二、兼子鎮二、篠田政典	第95回日本超音波医学会学術集会	5月21日
2	急性期にPerfusion balloonで血行再建を行いoozing ruptureを合併した左回旋枝の心筋梗塞の一例	○井関彰太、近藤喜代太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第46回東海北陸地方会	5月27日
3	エビデンスに基づいた これからの抗血栓療法	○窪田龍二	日本心血管インターベンション治療学会 第46回東海北陸地方会	5月27日
4	Orbital Atherectomy Systemで生じたperforationをcoronary covered stentでbail outした1例	○長井 伸、岩田恵輔、井関彰太、櫻井礼子、堀 仁美、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第46回東海北陸地方会	5月27日
5	胸痛の原因として好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)を鑑別し、心筋生検で診断した一例	○岩田恵輔、羽賀智明、井関彰太、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第159回日本循環器学会 東海地方会	6月4日
6	Fractionated Signal Areas in the Atrial Muscle (FAAM) ablation after pulmonary vein isolation may be effective for refractory atrial fibrillation.	○井関彰太、金子鎮二、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第68回日本不整脈心電学会学術大会	6月8日
7	Experience of Left Bundle Branch Area Pacing Using 2 Types of the Pacemaker, Medtronic.Inc and BIOTRONIK.Inc	○近藤喜代太、金子鎮二、長井 伸、堀 仁美、山内良太、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第68回日本不整脈心電学会学術大会	6月9日
8	How to treat Marshall re-entry atrial tachycardia	○岩田恵輔、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、藤田雅也、豊 陽祐、羽賀智明、山内良太、近藤喜代太、堀 仁美、長井 伸、井関彰太、篠田政典	第68回日本不整脈心電学会学術大会	6月10日

9	A case of RCA CTO. Reconsidering the choice of classic CART with reverse CART unsuccessful case.	○長井 伸、窪田龍二、岩田恵輔、井関彰太、櫻井礼子、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	第30回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	7月21日
10	標的血管の屈曲角度はOrbital atherectomy systemによる中膜損傷の予測因子となり得る	○羽賀智明	第30回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	7月21日
11	Clinical characteristics of very elderly patients who underwent PCI	○豊 陽祐、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第30回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	7月21日
12	10年ぶりに再発し、VA-ECMOにて救命しえた劇症型心筋炎の一例	○岩田恵輔、羽賀智明、井関彰太、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本循環器学会 第160回東海・第145回北陸合同地方会	10月15日
13	心膜炎治療後にガス産生を伴う心嚢内膿瘍を形成し、胸腔鏡下心膜開窓術を施行した一例	○井関彰太、金子鎮二、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、近藤喜代太、中込敏文、堀 仁美、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	日本循環器学会 第160回東海・第145回北陸合同地方会	10月16日
14	Rotablator使用後に冠動脈解離を生じた左回旋枝石灰化病変の1例	○窪田龍二、岩田恵輔、井関彰太、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	J-CalC 2023	1月20日
15	A case of two staged PCI for severe calcified RCA lesion	○羽賀智明	J-CalC 2023	1月20日
16	左脚領域ペーシングと比較し心房細動発生を抑制する可能性	○近藤喜代太、金子鎮二、藤田雅也、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第15回植込みデバイス関連冬季大会	2月24日
17	Comparison of BOX Isolation Infusion Volume for Atrial Fibrillation between Tactiflex and Tacticath.	○岩田恵輔、金子鎮二、井関彰太、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第87回日本循環器学会学術集会	3月12日
18	FAAM Ablation after Pulmonary Vein Isolation was Effective to a Certain Degree for Refractory Atrial Fibrillation.	○井関彰太、金子鎮二、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第87回日本循環器学会学術集会	3月12日
19	Worsening Renal Function after Introduction of Angiotensin Receptor Nephilysin Inhibitor in Heart Failure	○近藤喜代太、窪田龍二、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井 伸、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	第87回日本循環器学会学術集会	3月12日



消化器内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	Real-world effectiveness of ustekinumab for patients with ulcerative colitis: a systematic review and meta-analysis.	Uchida G, Nakamura M, Yamamura T, Tsuzuki T, Kawashima H	Nagoya J Med Sci.2023 85(3)	誌上発表
2	診断に難渋した未分化大細胞リンパ腫の1例	○石川大貴、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩、原田靖彦、平賀潤二、鏡味良豊	第247回日本内科学会東海地方会	6月26日
3	黒色便を契機に見つかった胃Burkittリンパ腫の一例	○石川大貴、木村侑樹、近藤大也、稲掛優介、玉腰丈博、豊島創、内田元太、高士ひとみ、竹内淳史、森田清、都築智之	第65回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	12月3日
4	CT colonography(CTC)における拡張不良所見の発生要因とその対応に関する検討	○平岩厚佑、稲掛優介、近藤大也、玉腰丈博、豊島創、竹内淳史、森田清、高士ひとみ、都築智之	第30回日本消化器関連学会週間(JDDW2022)	10月27日

脳神経内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	Numerous spindle-shaped lymphoma in lymphomatosis cerebri - an autopsy case report	Yu Mori, Minoru Tomita, Naoki Hattori, Nobuko Ujihira, Michihiko Narita, Mari Yoshida	Neuropathology	誌上発表
2	A case of sensory ataxic Guillain-Barré syndrome with immunoglobulin G anti-GM1 antibodies following the first dose of mRNA COVID-19 vaccine BNT162b2 (Pfizer)	T Fukushima, M Tomita, S Ikeda, N Hattori	QJM 115(1) P 25-27	誌上発表
3	ステロイドで急性期病勢進行が抑止できないEGPAによる末梢神経障害	服部直樹	Brain and Nerve Vol. 74, no.5 P531-536	誌上発表
4	A Case of Demyelinating Neuropathy with Markedly Elevated Serum IgG 4 Levels and Anti-Contactin 1 IgG4 Antibody	T Fukushima, S Ikeda, M Tomita, N Hattori	Intern Med DOI:10.2169/internal medicine. 9286-21	誌上発表
5	mRNA COVIT19ワクチン初回接種後に発症した抗GM1抗体陽性のギランバレー症候群の一例	○福島大喜、富田稔、池田昇平、服部直樹	第33回日本抹消神経学会学術集会	9月9日
6	高齢発症で亜急性の経過を示した抗contactin-1抗体陽性ニューロパチーの1例	○佐藤萌美、糸見百合子、武重万里子、福島大喜、池田昇平、富田稔、服部直樹	第33回日本抹消神経学会学術集会	9月10日
7	短期間に脳梗塞/TIAを繰り返したJAK2変異陽性本態性血小板血症の1例	○糸見百合子、服部直樹、富田稔、池田昇平、佐藤萌美、武重万里子	第40回日本神経治療学会学術集会	11月2日
8	筋病理で炎症細胞浸潤を認め、ステロイド治療が著効した抗HMGR抗体陽性炎症性ミオパチーの1例	○佐藤萌美、武重万里子、糸見百合子、池田昇平、富田稔、服部直樹	第40回日本神経治療学会	11月4日
9	突然の重度意識障害で発症し両側大脳・脳幹・小脳に多発脱髄病変を呈したアストロサイトパチーの1剖検例	○武重万里子、池田昇平、糸見百合子、佐藤萌美、福島大喜、池田昇平、富田稔、服部直樹、吉田眞理、岩崎靖	第164回日本神経学会東海北陸地方会	11月12日

10	クレーゼを呈した重症筋無力症5例の臨床検討	○佐藤萌美	第165回日本神経学会 東海地方会	3月11日
----	-----------------------	-------	----------------------	-------

内分泌・代謝内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	インスリン中止後も繰り返す低血糖や低体温を契機に鞍上部腫瘍を診断された一例	○戸松瑛介、大垣内琢也、関本ちひろ、竹中徳子、増田 富、澤井喜邦	第22回日本内分泌学会 東海支部学術集会	10月8日
2	帝王切開術の周術期絶食を機に中枢性尿崩症が発覚した1例	○増田 富、関本ちひろ、竹中徳子、戸松瑛介、澤井喜邦	第32回臨床内分泌代謝 update	11月11日

腎臓内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	COVID-19に合併した急性動脈血栓症に対する血行再建後、筋腎代謝症候群を発症した一症例	○斉藤絢恵、水野幸奈、石川稜恭、堀 貴洋、吉岡知輝、倉田久嗣	第67回日本透析医学会 額学術集会	7月3日
2	経皮的腎生検にて腸管損傷が疑われた1例	○倉田久嗣、石川稜恭、斉藤絢恵、堀 貴洋、神田亜希子、吉岡知輝、伊藤岳司	第52回日本腎臓学会西 部学術大会	11月18日
3	血漿交換・ステロイド療法にも関わらず、急激な経過で多臓器不全を来した血栓性血小板減少性紫斑病の一例	○吉岡知輝、斉藤絢恵、堀 貴洋、神田亜希子、伊藤岳司、倉田久嗣	第52回日本腎臓学会西 部学術大会	11月19日

血液内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	Prognostic impact of body mass index decrease during first chemotherapy in patients with advanced follicular lymphoma	○Makoto Ito, Yasuhiko Harada, Yoshitoyo Kagami, Junji Hiraga.	Internal Medicine. 61: 2111-2116, 2022	誌上发表
2	当院における治療関連骨髄性腫瘍3例の検討	○飯田しおり、平賀潤二、原田靖彦、鏡味良豊	第11回日本血液学会東 海地方会	6月19日
3	Warburg効果で高度乳酸アシドーシスを来した悪性リンパ腫の1剖検例	○山田崇義、原田靖彦、鏡味良豊、平賀潤二	第11回日本血液学会東 海地方会	6月19日
4	高度貧血に対する輸血後に遅発性溶血を発症した1例	○平賀潤二、原田靖彦、鏡味良豊、石川大貴	第247回日本内科学会 東海地方会	6月26日
5	セフェピム脳症により急激に意識障害を来した1例	○常 裕輔、原田靖彦、飯田しおり、鏡味良豊、平賀潤二	第247回日本内科学会 東海地方会	6月26日
6	メトトレキセート関連リンパ増殖性疾患と考えられた骨原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例	○大垣内琢也、平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦、大橋 渉、渡口賢隆	第248回日本内科学会 東海地方会	10月9日
7	自己免疫性溶血性貧血の輸血治療の安全性と有用性の検討	○平賀潤二、原田靖彦、鏡味良豊	第84回日本血液学会学 術集会	10月15日
8	COVID-19の長期感染が示唆された造血器悪性腫瘍患者の2例	○鈴木杏奈、原田靖彦、寺島浩史、平賀潤二	第249回日本内科学会 東海地方会	2月19日



9	濾胞性リンパ腫に対する化学療法後低ガンマグロブリン血症と補充療法	○平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦、佐藤友香、小見山貴代美、熊谷美希、木村有里	第80回日本輸血細胞学会東海支部例会	2月25日
10	輸血に難渋した寒冷凝集素症合併難治性慢性リンパ性白血病	○平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦、熊谷美希、藤上卓馬、酒巻尚子	第20回日本臨床腫瘍学会総会	3月16日
11	多発性骨髄腫、甲状腺乳頭癌、肝細胞癌の多重癌において、段階的治療戦略によって得られた生存期間の延長	○原田靖彦、寺島浩史、平賀潤二	第20回日本臨床腫瘍学会総会	3月16日

総合内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	食欲不振を主訴に総合内科入院となった患者の検討	○西本泰浩、加藤誓子、渡口賢隆	第119回日本内科学会講演会	4月17日
2	一過性意識消失で救急搬送された患者の危険なサインを見落とさないためのマニュアル作成	○西本泰浩	第50回日本救急医学会総会学術集会	10月19日～21日
3	診断に難渋した未分化大細胞リンパ腫の1例	○石川大貴、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩、原田靖彦、平賀潤二、鏡味良豊	第247回日本内科学会東海地方会	6月26日
4	敗血症と鑑別を要した原発性副腎不全、仮面尿崩症の1例	○石田航大、関本ちひろ、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩	第247回日本内科学会東海地方会	6月26日
5	Enterococcus faeciumによる歯突起骨髄炎の1例	○森 重智、関本ちひろ、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩、川端厚	第247回日本内科学会東海地方会	6月26日
6	メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患と考えられた骨原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例	○大垣内琢也、平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦、大橋 渉、渡口賢隆	第248回日本内科学会東海地方会	10月9日
7	慢性リチウム中毒の治療中に高Na血症を呈し中枢性尿崩症の診断に至った1例	○伊藤怜花、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩、関本ちひろ	第248回日本内科学会東海地方会	10月9日
8	多発蜂刺傷アナフィラキシーショックに合併した脳梗塞、顔面神経麻痺を含む多発臓器障害の1例	○牧野良祐、渡口賢隆、伊藤怜花、加藤誓子、西本泰浩	第249回日本内科学会東海地方会	2月19日
9	頸部への物理的衝撃が契機となった若年性Crowned dens Syndromeの1例	○鈴木日向、渡口賢隆、伊藤怜花、加藤誓子、西本泰浩	第249回日本内科学会東海地方会	2月19日
10	メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患を発症した1剖検例	○野本大二郎、伊藤怜花、渡口賢隆、原田靖彦、加藤誓子、西本泰浩	第249回日本内科学会東海地方会	2月19日

緩和ケア内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	肺がん斜台骨転移（clivopetrosal syndrome）により複視を来し、症状出現後早期の放射線治療によって複視の改善が得られた1例	○村松雅人、林かずみ、西村大作、近藤 有、塩崎沙耶、植松夏子、櫻井悠介、竹下祥敬、安居 円、蕨野久美子	第27回日本緩和医療学会学術大会	7月2日

著書論文・学会発表

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	神経障害性疼痛と緩和支援医療～シームレスな地域連携を考える～	村松雅人	第27回豊田がんフォーラム	3月24日

内科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	下垂体腫瘍術後に異所性後葉を伴う視床下部下垂体路障害を認めた1例	○大垣内琢也、戸松瑛介、関本ちひろ、竹中徳子、増田 富、澤井喜邦	第22回日本内分泌学会東海支部学術集会	10月8日
2	メトトレキサート関連リンパ増殖疾患と考えられた骨原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1例	○大垣内琢也、平賀潤二、寺島浩史、原田靖彦、大橋 歩、渡口賢隆	日本内科学会第248回東海地方会	10月9日
3	LMT病変におけるSTENT脱落をBailOutした1例	○桐谷元樹、羽賀智明、小林優大、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井伸、近藤喜代太、中込敏文、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第47回東海北陸地方会	10月21日

臨床研修科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	セフェピム脳症による急激な意識障害を来した1例	○常 裕輔、原田靖彦、飯田しおり、鏡味良豊、平賀潤二	第247回日本内科学会東海地方会	6月26日
2	強皮症腎クリーゼに脳幹主体のposterior reversible encephalopathy syndrome(PRES)を合併した1例	○市川 慶、糸見百合子、佐藤萌美、武重万里子、福島大喜、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第163回日本神経学会東海北陸地方会、名古屋	7月9日
3	スエヒロタケSchizophllum communeによる髄膜炎の1例	○福島大喜、富田 稔、池田昇平、古賀育子、亀井克彦、服部直樹	第163回日本神経学会東海北陸地方会、名古屋	7月9日
4	発熱性好中球減少症治療中に合併したCefepime脳症の2例	○桐谷元樹、糸見百合子、佐藤萌美、武重万里子、福島大喜、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第163回日本神経学会東海北陸地方会、名古屋	7月9日
5	mRNA COVID-19ワクチン初回接種後に発症した抗GM1抗体陽性のギランバレー症候群の1例	○福島大喜、富田 稔、池田昇平、服部直樹	第33回日本末梢神経学会学術集会	9月9日
6	急性冠症候群を繰り返した冠動脈拡張症の1例	○小林優大、窪田龍二、桐谷元樹、大垣内琢也、井関彰太、岩田恵輔、櫻井礼子、長井伸、堀 仁美、近藤喜代太、中込敏文、羽賀智明、豊 陽祐、藤田雅也、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	日本心血管インターベンション治療学会 第47回東海北陸地方会	10月21日
7	COVID-19契機のclinically mild encephalitis/encephal with a reversible splenial lesion(MERS)の1例	○安藤祐人、福島大喜、佐藤萌美、武重万里子、糸見百合子、池田昇平、富田 稔、服部直樹	第164回日本神経学会東海北陸地方会	11月12日
8	セレン欠乏症による両側の栄養欠乏性視神経症をきたした1例	○足立涼輔、池田昇平、糸見百合子、佐藤萌美、武重万里子、福島大喜、富田 稔、服部直樹	第164回日本神経学会東海北陸地方会	11月12日
9	突然の重度意識障害で発症し両側大脳・脳幹・小脳に多発脱髄病変を呈したアストロサイトパチーの1剖検例	武重万里子	第164回日本神経学会東海北陸地方会、金沢	11月12日
10	メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患を発症した1剖検例	○野本大二郎、伊藤怜花、渡口賢隆、原田靖彦、加藤誓子、西本泰浩	第249回日本内科学会東海地方会	2月19日
11	多発蜂刺傷アナフィラキシーショックに合併した脳梗塞、顔面神経麻痺を含む多臓器障害の1例	○牧野良祐、渡口賢隆、伊藤怜花、加藤誓子、西本泰浩	第249回日本内科学会東海地方会	2月19日



12	出血性ショックに対して胃全摘と肝左葉切除で救命した局所進行胃癌の1例	○岩田侑也、久留宮康浩、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之	第59回日本腹部救急医学会総会	3月9日
13	皮質型と視床型の両者の臨床的特徴を認めたMM2皮質+視床型孤発性クローンツェルト・ヤコブ病の1剖検例	○山田崇義	第165回日本神経学会東海北陸地方会	3月11日
14	硬膜生検にて血管炎を示唆する所見を認めたMPO-ANCA関連肥厚性硬膜炎の1例	○山岸昂太郎	第165回日本神経学会東海北陸地方会	3月11日

小児科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	胆嚢捻転症の術前診断が可能であった13歳男児例	○榎本さやか、梶田光春、高橋ゆま、武田将典、生駒雅信、緒方諒仁、久留宮康浩	小児科臨床	誌上発表
2	COVID-19の経過中に腹痛・嘔吐のため受診した2例	○榎本さやか、白川雄一、大森菜令、武田将典、生駒雅信、梶田光春	第72回豊田加茂小児科医会例会	7月16日
3	発熱、腰痛を主訴に受診した14歳男児（化膿性椎体炎）	○白川雄一、榎本さやか、大森菜令、武田将典、生駒雅信、梶田光春	第72回豊田加茂小児科医会例会	7月16日
4	3-4か月健診で体重増加不良を認めた1例	○生駒雅信	第73回豊田加茂小児科医会例会	2月4日
5	少し興味深い画像所見を示した症例	○梶田光春、大森菜令、武田将典、生駒雅信	第73回豊田加茂小児科医会例会	2月4日

放射線科

著書論文・学会発表

	演題	発表者	共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	※イメージインタープリテーションセッション 2-2回答者	○櫻井悠介		第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会（第35回頭頸部放射線研究会）	9月3日

外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	LSC(RSC)に役立つ、消化器外科医から見た自律神経温存のための外科解剖	○加藤健宏	第15回日本骨盤臓器脱手術学会	4月10日
2	大腸癌肝転移、同時性と異時性の差異についての臨床病理学的検討	○久留宮康浩	第122回日本外科学会定期学術集会	4月13日
3	当院における高齢者胃癌術後補助化学療法の現状と問題点	○世古口英、久留宮康浩、水野敬輔、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南 貴之、関本晃裕、権田紘丈、緒方諒仁、佐久本一樹、等々力広菜、大澤拓哉、浜辺健太、石谷紗希	第122回日本外科学会定期学術集会	4月14~16日 (WEB発表)
4	診断に苦慮した乳房悪性リンパ腫の1例	○加藤真由子、丹羽多恵、久留宮康浩、大西 桜、浦野美和子	第48回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会	4月24日
5	BRCA遺伝子変異陽性両側乳癌の治療経験	○久留宮康浩	第30回日本乳癌学会学術総会	6月30日~ 7月2日

6	Enterocoele症例の検討	○加藤健宏、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、秋田直宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、長田祥子、大澤拓哉、浜辺健太	第24回日本女性骨盤底医学会	7月3日
7	乳房悪性リンパ腫4例の超音波画像の検討	○加藤真由子、久留宮康浩、丹羽多恵、世古口英、加藤健宏、権田紘丈	第30回日本乳癌学会学術総会	7月6日～8月31日
8	不安定狭心症を合併した急性胆嚢炎の1例	○秋葉嘉将、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、長田祥子、山口真和、下村佳寛、大澤拓哉、等々力広菜、浜辺健太、加藤真由子、吉田健一郎	第58回愛知臨床外科学会	7月18日
9	腫瘍内腫瘍により高CRP血症を来した胃癌の1例	○大和義崇、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、長田祥子、山口真和、下村佳寛、大澤拓哉、等々力広菜、浜辺健太、秋葉嘉将、加藤真由子、吉田健一郎	第58回愛知臨床外科学会	7月18日
10	南海トラフ地震などの災害を想定した愛知県災害時外傷外科連絡網の作成に携わって	○菅原 元	第14回日本Acute care surgery学会	9月30日
11	肝浸潤・胃浸潤を伴う胆嚢腺扁平上皮癌の1例	○菅原 元、南 貴之	第58回日本胆道学会学術集会	10月14日
12	胆嚢内乳頭状腫瘍の2切除例	○南 貴之、久留宮康浩、菅原元	第58回日本胆道学会学術集会	10月14日
13	生検により出血のため緊急手術を行った石灰化を伴う横行結腸GISTの1例	○久留宮康浩、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏	第77回日本大腸肛門病学会学術集会	10月15日
14	腭液性腹膜炎をきたした腭仮性嚢胞破裂の1例	○吉川尚吾、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、下村佳寛、大澤拓哉、浜辺健太、加藤真由子	第302回東海外科学会	10月16日
15	乳房温存術後、断端陽性・乳房内再発に対するsalvage手術としての乳房再建	○久留宮康浩、丹羽多恵、加藤真由子、川端明子、水野玲子、曾我宜弘、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、長田祥子、下村佳寛、浜辺健太、大澤拓哉、秋葉嘉将、吉田健一郎	第10回日本乳房オンコプラスチックサージャー学会総会	10月28日
16	大腸癌肝転移切除後、補助化学療法の有無についての臨床病理学的検討	○久留宮康浩、世古口英、菅原 元、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、長田祥子、下村佳寛、浜辺健太、大澤拓哉、等々力広菜、秋葉嘉将、加藤真由子、吉田健一郎	第84回日本臨床外科学会総会	11月24日
17	増大傾向を認めた乳腺顆粒細胞腫の1例	○加藤真由子、久留宮康浩、丹羽多恵、水野敬輔、世古口英、井上昌也、加藤健宏、南 貴之、権田紘丈、杉浦孝太、長田祥子、下村佳寛、浜辺健太	第84回日本臨床外科学会総会	11月24日



18	小腸憩室による絞扼性小腸閉塞の1例	○浜辺健太、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、秋田直宏、南貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、大澤拓哉、秋葉嘉将、加藤真由子	第59回愛知臨床外科学会	2月11日
19	胃全摘術後の挙上空腸に生じた平滑筋腫の1例	○久留宮康浩、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、南貴之	第95回日本胃癌学会総会	2月24日
20	若年女性の鼠経ヘルニアに対して子宮円錐を温存し腹腔鏡下ヘルニア根治術を施行した1例	○大澤拓哉	第17回日本ヘルニア学会東海地方会	3月4日
21	肝嚢胞穿刺時の胆管誤穿刺に伴う嚢胞内胆汁漏、嚢胞破裂に対し腹腔鏡手術を行った1例	○藤澤健太、久留宮康浩、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、南貴之、大澤拓哉	第59回日本腹部救急医学会総会	3月9日
22	アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用治療中に結腸瘻を形成した肝細胞癌の1例	○石田航大、久留宮康浩、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、南貴之	第59回日本腹部救急医学会総会	3月9日
23	膵十二指腸動脈瘤破裂の3例	○世古口英、久留宮康浩、菅原元、井上昌也、加藤健宏	第59回日本腹部救急医学会総会	3月10日
24	原発性胆汁性胆管炎による肝硬変を伴う十二指腸潰瘍穿孔に対し、大網充填を行った一例	○加藤真由子、久留宮康浩、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、南貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、等々力広菜、浜辺健太	第59回日本腹部救急医学会総会	3月10日
25	十二指腸憩室穿孔の1例	○浜辺健太、久留宮康浩、世古口英、菅原元、井上昌也、加藤健宏、秋田直弘、南貴之、権田紘丈、杉浦孝太、山口真和、下村佳寛、大澤拓哉、等々力広菜、秋葉嘉将、加藤真由子	第59回日本腹部救急医学会総会	3月10日
26	当院における急性末梢動脈閉塞症の治療経験	○秋田直宏、水野敬輔、大澤拓哉、等々力広菜	第53回日本心臓血管外科学会学術総会	3月23日
27	“Pure”な直腸癌に対するLaparoscopic Ventral Rectopexy変法	○加藤健宏	第16回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会	3月26日

呼吸器外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	胸腺癌の臨床的検討	○平松義規	第122回日本外科学会定期学術集会	4月16日
2	大腸癌肺転移に対する手術適応の検討	○平松義規、今村由人、岡阪敏樹	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	5月21日
3	肺癌術後再発患者における通院外来化学療法のQOL評価	○平松義規	第63回日本肺癌学会学術集会	12月1日
4	コロナ禍における「受診控え」は肺癌手術患者にいかなる影響を与えたか？	○岡阪敏樹、伊藤俊成、平松義規	第63回日本肺癌学会学術集会	12月1日
5	コロナ禍における「健診・検診控え」が肺癌診療に与えた影響の検討～呼吸器外科医の視点から～	○岡阪敏樹、伊藤俊成、石谷紗希	第51回日本総合健診医学会大会	1月26日

心臓外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	Two-stage hybrid repair with over-the-scope clip for atrioesophageal fistula after catheter-based ablation	○寺田貴史、荒木善盛、小林明裕、川口 鎮	Journal of Arrhythmia	誌上発表
2	MICS導入時に経験した合併症	○小林明裕、寺田貴史、荒木善盛、川口 鎮、伊藤敏明	第65回関西胸部外科学会学会学術集会	6月18日
3	Porcelain aorta症例に対するVf下MICS-MVRの2例	○寺田貴史、荒木善盛、小林明裕、川口 鎮、伊藤敏明	第65回関西胸部外科学会学会学術集会	6月18日
4	疣贅による弁接合不良のみが閉鎖不全の原因であった僧帽弁位感染性心内膜炎の1例	○寺田貴史、荒木善盛、小林明裕、川口 鎮	第50回日本救急医学会総会学術集会	10月19日～21日
5	HMIIドライライン断線症例の検討	○佐久本一樹、古橋広樹、尾関貴啓、所 正佳、秋田翔、柚原悟史、林 泰成、伊藤英樹、吉住 朋、寺澤幸枝、徳田順之、成田裕司、六鹿雅登	第75回日本胸部外科学会定期学術集会	10月5日

救急科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	愛知県内におけるPEMEC開催の実績と課題	○畑田 剛、山口 均、安藤雅樹、高松純平	第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会	5月27日
2	高病原性肺炎桿菌による前立腺腫瘍が髄膜炎へ波及した一経験例	○竹村元太、津田雅庸、平井 潤、阿藤文徳（愛知医科大学病院）	第50回日本集中治療医学会学術集会	3月3日

泌尿器科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	泌尿器科専門医のための模擬テスト34	○宇佐美雅之	科学評論社「泌尿器科」第16巻 第4号 493-494	誌上発表
2	泌尿器科専門医のための模擬テスト34 - 解答と解説 -	○宇佐美雅之	科学評論社「泌尿器科」第16巻 第5号 624-627	誌上発表
3	右腎盂癌と右腎細胞癌の同時発生重複癌の1例	○東 凌平、名里瑛美、海野奈央子、小林大地、宇佐美雅之、橋本良博、岩瀬 豊	第290回日本泌尿器科学会東海地方会	6月12日
4	当院におけるDICを合併した結石性腎盂腎炎の治療成績	○橋本良博	第69回日本化学療法学会 東日本支部総会	10月27日
5	腎癌術後11年での再発・転移に対し、治療に難渋した1例	○東 凌平、鈴木克代、名里瑛美、海野奈央子、小林大地、宇佐美雅之、橋本良博、岩瀬 豊	第292回日本泌尿器科学会東海地方会	3月19日

眼科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	糖尿病黄斑浮腫におけるトリアムシノロンアセトニド硝子体内投与前後の網膜微小循環	○加藤房枝、野崎実穂、加藤亜紀、安川 力	第76回日本臨床眼科学会	10月13日～16日 (WEB発表)

耳鼻咽喉科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	頸部神経鞘腫の検討 －術前診断困難例－	○欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、金屋歳三、服部杏子、岩崎真一	第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会	5月28日
2	喉頭全摘を施行した輪状軟骨腫の1例	○鈴木克代	第84回耳鼻咽喉科臨床学会	7月8日
3	急激な視力低下で発症した転移性副鼻腔腫瘍の一例	○服部杏子、欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、森浩紀、岩崎真一	第84回耳鼻咽喉科臨床学会	7月8日
4	下顎骨に発症し、腫瘍性病変と鑑別を要したIgG4関連疾患の1例	○丹羽正樹、欄真一郎、鈴木克代、服部杏子	第84回耳鼻咽喉科臨床学会	7月9日
5	咬筋内神経鞘腫の一例	○服部杏子、欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、森浩紀、岩崎真一	第35回日本口腔・咽頭科学会	9月8日
6	顎下腺に発生した神経鞘腫の一例	○欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、服部杏子、森浩紀	第35回日本口腔咽頭科学会	9月8日
7	総頸動脈走行異常を有した気管切開術－病態とリスクに応じた術式の選択－	○森浩紀、欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、服部杏子、岩崎真一	第73回日本気管食道科学会総会	11月3日
8	嚢胞性疾患と鑑別困難であった神経鞘腫の検討	○欄真一郎、丹羽正樹、鈴木克代、服部杏子、森浩紀、岩崎真一	第73回日本気管食道科学会総会	11月3日

整形外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	The Association of Bohler's Angle With Postoperative Pain and Gender for Displaced Intra-Articular Calcaneal Fracture, Multicenter Retrospective Study-TRON Study	Ryosuke Sugimoto, Katsuhiko Tokutake, Yasuhiko Takegami, Yasuhide Kanayama, Nobuyuki Okui, Tadahiro Sakai, Yujiro Kagami, Takuya Sugimoto, Shiro Imagama	J Foot Ankle Surg. 2022 Jul-Aug;61(4):766-770.	誌上発表
2	Plate fixation through the lateral extensile approach versus cannulated screw fixation through the sinus tarsi approach for calcaneal fracture: a multicenter, propensity score-matched TRON study	Takuya Sugimoto, Katsuhiko Tokutake, Yasuhiko Takegami, Nobuyuki Okui, Yasuhide Kanayama, Hidenori Inoue, Ryosuke Sugimoto, Yujiro Kagami, Shiro Imagama	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022 Oct;32(7):1333-1340.	誌上発表
3	Do heel-unloading orthoses improve clinical outcomes in patients after surgical treatment of calcaneal fracture? A propensity-matched, multicenter analysis of the TRON database	Yujiro Kagami, Katsuhiko Tokutake, Yasuhiko Takegami, Nobuyuki Okui, Tadahiro Sakai, Hidenori Inoue, Tokumi Kanemura, Masahiro Hanabayashi, Osamu Ito, Yasuhide Kanayama, Koji Maruyama, Hiroaki Yoshida, Toshihiro Ando, Ryosuke Sugimoto, Takuya Sugimoto, Shiro Imagama	Prosthet Orthot Int. 2022 Dec 1;46(6):569-575.	誌上発表

4	Comparable efficacy of denosumab and romosozumab in patients with rheumatoid arthritis receiving glucocorticoid administration	Tomonori Kobayakawa, Akiko Miyazaki, Yasuhide Kanayama, Yuji Hirano, Jun Takahashi, Takako Suzuki, Yukio Nakamura	Mod Rheumatol. 2023 Jan 3;33(1):96-103.	誌上発表
5	Effectiveness of tacrolimus concomitant with biological disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis	Kenya Terabe, Nobunori Takahashi, Shuji Asai, Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Yuichiro Yabe, Takeshi Oguchi, Takayoshi Fujibayashi, Hisato Ishikawa, Masahiro Hanabayashi, Yosuke Hattori, Mochihito Suzuki, Kenji Kishimoto, Yoshifumi Ohashi, Takahiro Imaizumi, Shiro Imagama, Toshihisa Kojima	Mod Rheumatol. 2023 Mar 2;33(2):292-301.	誌上発表
6	脊椎手術の安全対策 - 第1章 周術期出血対策バンドル -	○辻 太一、大田恭太郎	第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月21日
7	止血マネジメントを再考する - 場面に応じた止血：矯正手術において -	○辻 太一、大田恭太郎	第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会	4月22日
8	閉経後骨粗鬆症に対するデノスマブ治療からの脱落の危険因子の検討	○服部恭典、高橋伸典、金山康秀、今釜史郎	第66回日本リウマチ学会学術総会	4月25日
9	当科におけるイグラチモド投与症例における関節エコー所見改善効果について	○金山康秀、服部恭典	第66回日本リウマチ学会学術総会	4月26日
10	閉経後骨粗鬆症に対するデノスマブ治療からの脱落の危険因子の検討	○服部恭典、高橋伸典、金山康秀、今釜史郎	第95回日本整形外科学会学術総会	5月19日
11	椎弓プレートを使用した片開き式頸椎椎弓形成術の治療成績 - アライメントの変化と骨癒合率を中心に -	○大田恭太郎、辻 太一、二村尚久、足立 維、渡部 拓、前田健登、寺澤 慧、金山康秀	第95回日本整形外科学会学術総会	5月19日
12	当科における原発性骨粗鬆症に対するロモソズマブ投与終了後の逐次療法の治療成績	○金山康秀、辻 太一、二村尚久、大田恭太郎、足立 維、館 寛人、渡部 拓、寺澤 慧、前田健登	第95回日本整形外科学会学術総会	5月21日
13	女性関節リウマチ患者のライフステージから考える治療戦略	○金山康秀	第95回日本整形外科学会学術総会 ランチョンセミナー	5月22日
14	当科におけるサリルマブ投与症例の治療成績と関節エコー所見改善効果について	○金山康秀、服部恭典	第33回中部リウマチ学会	9月3日
15	Clinical efficacy of sequential therapy after romosozumab in patients with primary osteoporosis for 18 months	○Yasuhide Kanayama, Taichi Tsuji, Naohisa Futamura, Kyotaro Ota, Kyosuke Hattori, Yui Adachi, Hiroto Tachi, Taku Watanabe and Kento Maeda	第44回米国骨代謝学会 (ASBMR)	9月11日
16	閉経後骨粗鬆症患者におけるデノスマブ治療中断の危険因子の検討	○服部恭典、高橋伸典、金山康秀、今釜史郎	第24回日本骨粗鬆症学会	9月2～4日
17	人工骨頭置換術中に重篤な骨セメント症候群を発症し、救命しえた1例	○渡部 拓、竹上靖彦、大田恭太郎、服部恭典、前田健登、金山康秀	第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	10月28日
18	リウマチ患者における骨粗鬆症に対するロモソズマブ投与終了後の逐次療法の治療成績	○前田健登、金山康秀、服部恭典	第37回日本臨床リウマチ学会	10月29日
19	Salirumab投与症例における関節エコー所見改善効果の検討	○金山康秀、服部恭典、前田健登	第37回日本臨床リウマチ学会	10月30日



20	思春期特発性側弯症 (Lenke type5) におけるUIVの設定=L3をLIVに統一しても良好な矯正を得るための試み (第1報)	○大田恭太郎、館寛人、辻太一	第56回日本側弯症学会 学術集会	11月5日
21	変性側弯症に対する術式別の椎体回旋矯正率の比較	○館 寛人、大田恭太郎、辻 太一	第56回日本側弯症学会 学術集会	11月5日
22	成人脊柱変形、Complex spinal deformity手術を完結させるための出血対策	○辻 太一	第31回日本脊椎インス トゥルメンテーション 学会	11月26日
23	椎弓プレートを使用した片開き式頸椎椎弓形成後の術後スクリュエ脱転について	○大田恭太郎、館 寛人、辻 太一	第31回日本脊椎インス トゥルメンテーション 学会	11月26日
24	先天性無痛無汗症に対する骨折治療に難渋した一例	○前田健登、二村尚久、渡部 拓、館 寛人、足立 唯、服部恭典、大田恭太郎、辻 太一、金山康秀	名古屋大学グランドカ ンファレンス	12月15日
25	人工骨頭置換術中に重度BCIS (骨セメント移植症候群) を発症した2例	○渡部 拓、竹上靖彦、服部恭典、足立 維、前田健登、金山康秀	第53回日本人工関節学 会	2月18日
26	立方骨骨接合後創部離開に対し逆行性腓腹皮弁を行った1例	○館 寛人、大田恭太郎、前田健登、渡部 拓、足立 維、服部恭典、二村尚久、辻 太一、金山康秀	第69回東海整形外科外 傷研究会	3月25日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	○金山康秀	Lilly RA Web conference in SAITAMA	2022.4.19
2	JAK阻害剤による関節エコー所見への影響について	○金山康秀	JAK阻害薬を考える会 in 岡崎	2022.5.11
3	整形外科医の観点から考えるリウマチの診断と治療	○金山康秀	Orthopedics Rheumatology Educational Meeting	2022.6.22
4	RA治療におけるアバタセプトの位置づけと至適症例像について～自験例における関節エコーデータの検討を含めて～	○金山康秀	第5回長野・篠ノ井関 節リウマチ研究会	2022.6.24
5	当院における骨粗鬆症治療について～骨粗鬆症治療薬を上手に使いこなすポイント～	○金山康秀	旭化成ファーマ株式会 社社内講演会	2022.6.30
6	関節リウマチ／骨粗鬆症 診療update ～関節リウマチはエコーを中心に～	○金山康秀	朝日リウマチ運動器疾 患懇話会 ～病診連携の会～	2022.7.2
7	RA治療におけるアバタセプトの位置づけと至適症例像について～自験例における関節エコーデータの検討を含めて～	○金山康秀	RA Seminar～自己抗 体を考える～	2022.7.8
8	最新のエビデンスに基づくアバタセプトの位置づけについて～自験例における関節エコーデータの検討を踏まえて～	○金山康秀	リウマチエリアWEB セミナー	2022.9.14
9	変形性股関節症対策の最新情報～股関節の痛みを適切に治療し、健康寿命を延ばす～	○金山康秀	中日健康フェア2022	2022.9.17
10	私がオルミエントを好んで選択する理由	○金山康秀	Olumiant Focus Week Web Conference	2022.9.27

11	関節リウマチ治療におけるバリシチニブの可能性	○金山康秀	リウマチWEBセミナー in 東北	2022.9.30
12	サラゾスルファピリジンの当院における使用状況	○服部恭典	第9回愛知DMARDs研究会	2023.10.1
13	関節リウマチ患者さんにおける骨粗鬆症の評価、治療の重要性について	○金山康秀	関節リウマチ市民公開講座	2022.10.8
14	リウマチ患者のタイトコントロールの重要性 ～実臨床における関節エコーの実践～	○金山康秀	第13回筑紫リウマチセミナー	2022.10.26
15	RA治療におけるMTX位置づけについて ～MTX及びDMARDsの使い分けを中心に～	○金山康秀	エーザイ社内講演会	2022.11.9
16	女性関節リウマチ患者のライフステージから考える治療戦略	○金山康秀	女性関節リウマチ治療戦略 Up to Date in OSAKA	2022.11.30
17	強直性脊椎炎の病態と診断・治療について	○金山康秀	強直性脊椎炎WEBセミナー	2022.12.9
18	関節リウマチ薬物治療の最新治療 ～MTX及びcsDMARDsからb/tsDMARDsまで～	○金山康秀	ギリアド・サイエンシズ株式会社社内講演会	2022.12.16
19	重症骨粗鬆症に対する治療戦略	○金山康秀	Rheumatoid Arthritis Research Seminar	2022.12.24
20	JAK阻害薬の関節エコー所見改善効果について	○金山康秀	RA診療を考える会 in 愛知	2023.1.14
21	医師の立場から薬剤師に期待する事	○金山康秀	メグリア調剤薬局グループ薬剤師研究会	2023.1.19
22	IL-6阻害薬の関節エコー所見改善効果について	○金山康秀	第3回RA SUPREME研究会	2023.1.21
23	実臨床データを基に考えるデノスマブ治療の特徴	○服部恭典	豊田加茂エリア運動器疾患連携Web Seminar	2023.1.26
24	関節リウマチ治療におけるアバタセプトの位置づけと至適症例像とは？～自験例における関節エコーデータの検討を含めて～	○金山康秀	RA Expert Seminar in OKAYAMA	2023.2.15
25	骨粗鬆症における診断と治療について～骨粗鬆症治療薬を上手に使いこなすポイント～	○金山康秀	帝人ヘルスケア株式会社 社内講演会	2023.3.2
26	女性関節リウマチ診療におけるライフイベントを考慮した治療戦略	○金山康秀	関節リウマチExpert seminar	2023.3.10
27	窒息を未然に防ぐために	○金山康秀	医療安全管理研修会	2023.3.15
28	関節リウマチ薬物治療の最新治療と話題 ～MTX及びcsDMARDsからb/tsDMARDsまで～	○金山康秀	大正製薬株式会社 社内講演会	2023.3.24

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	○金山康秀	二次性骨折予防連携 Web Seminar	2022.5.26
2	座長	○金山康秀	関節リウマチを考える会～オンライン講演会～	2022.6.29



3	座長	○金山康秀	リウマチ WEB セミナー	2022.7.15
4	座長	○金山康秀	三河メディカル研究会	2022.7.23
5	司会	○金山康秀	AS診療を考える会	2022.8.20
6	座長	○金山康秀	第33回中部リウマチ学会	2022.9.2
7	座長	○金山康秀	RA update seminar	2022.9.16
8	座長	○金山康秀	RA Expert Forum in 愛知	2022.9.21
9	座長	○金山康秀	第9回愛知DMARDs研究会	2022.10.1
10	座長	○金山康秀	Lilly JAK Expert Web Seminar Tokai	2022.10.6
11	座長	○金山康秀	Olumiant Web Meeting	2022.10.12
12	座長	○金山康秀	Osteoporosis Symposium	2022.11.4
13	座長	○金山康秀	豊田加茂エリア Pain&Osteoporosis 医科歯科連携 Web Seminar	2022.12.8
14	司会	○金山康秀	第8回三河関節エコー研究会	2022.12.10
15	座長	○金山康秀	UCB PsA WEB Seminar	2022.12.21
16	座長	○金山康秀	三河脊椎関節炎フォーラム2023	2023.1.28
17	座長	○金山康秀	骨粗鬆症と関節リウマチを考える会	2023.2.6
18	座長	○金山康秀	TaishoRAフォーラム in 三河	2023.2.11
19	座長	○金山康秀	BONE RESEARCH FORUM in OSAKA	2023.2.24
20	座長	○金山康秀	三河RAエキスパートミーティング2023	2023.2.25
21	司会	○金山康秀	高齢化時代におけるRA診療を考える会	2023.3.4
22	座長	○金山康秀	リンヴォックASセミナー	2023.3.11
23	座長	○金山康秀	骨太 meeting 2023	2023.3.29

口腔外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	単嚢胞型エナメル上皮腫が初発と考えられた母斑基底細胞癌症候群の1例	○河合孝真、兼子隆次、岡部一登、澤木 廉	日本口腔腫瘍学会誌 Vol.34 No.4:175-182 2022	誌上発表

2	Best Supportive Careに至った口腔がんの臨床的検討	○兼子隆次、河合孝真、澤木 廉	第31回日本有病者歯科医療学会総会	4月30日～5月1日 (Web)
3	多発性骨髄腫に対する化学療法で下顎骨病的骨折が改善した1例	○澤木 廉、兼子隆次、河合孝真	第31回日本有病者歯科医療学会学術大会	4月30日～5月1日 (Web)
4	原発部位からみた上顎歯肉癌の再発・転移に関する臨床的検討	○兼子隆次、河合孝真、澤木 廉、伊藤大泰	第67回日本口腔外科学会総会	11月12日～14日
5	エナメル上皮腫と含菌性嚢胞の併発した母斑規定細胞癌症候群の1例	○河合孝真、兼子隆次、澤木 廉、伊藤大泰	第67回日本口腔外科学会総会	11月12日～14日
6	インプラント周囲炎による紹介症例の臨床的検討	○兼子隆次、澤木 廉、河合孝真	第26回日本顎顔面インプラント学会	11月26日
7	ICUせん妄に対して鎮静管理を行った2例	○河合孝真、兼子隆次、澤木 廉	第41回日本口腔腫瘍学会総会	1月26日～2月28日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	日付
1	障害児に関する勉強会「豊田厚生病院歯科口腔外科における障害児への治療スタンスについて」	兼子隆次	豊田市三機関合同	12月8日

形成外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	脊髄損傷患者の左坐骨部褥瘡に生じたG-CSFおよびPTHrP産生有棘細胞癌の一例	○曾我宜弘、川端明子、水野玲子、茂木公佑、今井弘恵	第65回日本形成外科学会総会・学術集会	4月20日
2	前頭、頭頂部の頭皮欠損に対するTriple Rhomboid Flapの有用性	○水野玲子、川端明子、曾我宜弘	第65回日本形成外科学会総会・学術集会	4月21日
3	当院における乳房再建についての乳腺外科と形成外科の連携方法	○川端明子、水野玲子、曾我宜弘、今井弘恵、茂木公佑	第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会	10月28日

産婦人科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	妊娠を契機に発見された悪性卵巣胚細胞腫瘍の2例	○大澤奈央、古井達人、中村侑実、神谷知都世、新保暁子、新城加奈子、針山由美	東海産科婦人科学会雑誌59巻	誌上发表
2	妊娠中に右臀部痛を発症し腎癌の骨転移が発見された症例	○大澤奈央、古井達人、中村侑実、神谷知都世、新保暁子、新城加奈子、針山由美	第115回愛知参加婦人科学会	6月4日
3	子宮全摘術後の膣断端脱に対する腹腔鏡下仙骨膣固定術の工夫	○神谷知都世、大澤奈央、古井達人、告野絵里、新保暁子、新城加奈子、針山由美	第4回次世代婦人科MIS研究会	3月18日



皮膚科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	当院で経験したマムシ咬傷48例の検討	榊原あゆみ、近藤綾子、竹中花子、鈴木伸吾	第302回日本皮膚科学会東海地方会	12月11日
2	無症状で経過した臀部皮下異物の1例	榊原あゆみ、近藤綾子、竹中花子、鈴木伸吾	第303回日本皮膚科学会東海地方会	3月19日
3	基底細胞母斑症候群が疑われた2例	近藤綾子、鈴木伸吾、榊原あゆみ、竹中花子	第303回日本皮膚科学会東海地方会	3月19日

脳神経外科

著書論文・学会発表

	演題	発表者及び共同研究者	学会名または雑誌名	月日
1	外頸動脈系の破綻連鎖により急速な顔面腫脹を呈し気道確保を要した神経線維腫症1型の1例	○瀨瀬雄太、内藤文裕（小牧市民病院）	第52回日本脳卒中の外科学会学術集会（STROKE2023）	3月18日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	日付
1	もやもや病	住友正樹	豊田市難病講演会・療養相談会	1月24日

診療放射線室

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	動き補正とAIを用いた再構成による心臓CT普及への新たな挑戦	○柴田英輝	第78回 日本放射線技術学会総会学術大会	4月15日
2	JA愛知厚生連における技師教育プロジェクト活動報告	○深田真司、JA愛知厚生連診療放射線技師教育担当者会議委員	第38回日本診療放射線技師学術大会	9月16日
3	島津社製血管撮影装置「Trinias unity edition」を導入して アブレーションにおける患者被ばく線量の報告と使用経験について	○村山和宏	INNERVISION(38.3) 2023	2月17日
4	Physical and visual evaluation of Ct image quality of large low-contrast objects with visual model-based iterative reconstruction technique: a phantom study	○柴田英輝、Kosuke Matsubara, Yasuki Asada, Akihiro Takemura, Isao Kozawa	Physical and Engineering Sciences in Medicine	12月12日
5	個人線量計の正確な装着および被ばく線量管理	○伊藤友彰、杉下雄大、湊 貴理、深田真司、小澤 功	第71回日本農村医学会学術総会	10月14日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	血管系の造影理論（頭部領域）	深田真司	鳥取県診療放射線技師会	12月17日
2	島津製作所 社内講演	村山和宏	装置導入後の気付き	7月1日
3	島津製作所 社内講演	村山和宏	脳外科領域 頭部 DSA・IVR基本操作	10月19日

4	KOTO 関西島津ユーザー会	村山和宏	Trinias導入して 循環器領域被ばく線量報告	11月15日
5	講演会名:15th Congress of Asian Society of Cardiovascular Imaging(ASCI) 演題名:Cardiac CT with 64-row CT with New Software Using Motion Compensation and AI	Hideki Shibata	ASCI 2022 Congress Secretariat	6月26日
6	講演会名:医療安全管理研修会 演題名:診療用放射線の安全利用について	柴田英輝	豊田かも医師会	3月15日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長	深田真司	愛知県診療放射線技師会第1回研修会	5月7日
2	座長	深田真司	西三地区会第1回研修会	5月12日
3	座長	深田真司	西三地区会第2回研修会	11月24日
4	司会	深田真司	西三地区会総会特別講演	3月23日
5	座長	柴田英輝	第14回中部放射線医療技術学術大会	11月6日

臨床検査室

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	マルチカラーへの変更によって得られた結果の解釈と今後の課題	○酒巻尚子	BD Clinical Customer Letter vol.6	誌上发表
2	血液検査部門	○藤上卓馬	令和4年度 愛知県臨床検査精度管理調査総括集	誌上发表
3	血液培養検査における簡易CPDXスクリーニング検査の有用性	○永田悠起、松本美咲、加藤雄大、杉山裕衣、松久保修、永田篤志、田中浩一、中根生弥	第71回日本医学検査学会	5月21日
4	臨床検査技師が検体採取にどのように関わっていくか	○加藤雄大	第71回日本医学検査学会	5月22日
5	新設された自己血採取室における運用確立と導入効果について	○松崎有希奈、松井貴弘、熊谷美希、鈴木 梢、木村有里、小見山貴代美、田中浩一、中根生弥	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
6	シリンジ採血におけるヘモグロビン濃度の偽値についての検討	○寺坂明香、藤上卓馬、酒巻尚子、高嶋幹代、蒲澤康晃、永田篤志、田中浩一、中根生弥	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
7	神経伝達検査における検査技術向上に向けた取り組み	○浅井梨乃、近藤 香、浅井美紅、林 健太、高本智史、田中浩一、中根生弥	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
8	病理システム更新に伴う病理検査室の運用更新について	○中島孝輔、榊原達朗、水野里枝、鈴木康太、藤井優子、黒木雅子、永田篤志、田中浩一	第21回愛知県医学検査学会	7月3日



9	【シンポジウム】学生と現役技師で考える これからの臨床検査技師と技師教育	○井元悠太	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
10	【シンポジウム】腎・泌尿器疾患の診断と治療に迫る 腎・泌尿器疾患の細胞診断の実際	○鈴木康太	第13回日本臨床一般検査学会	8月27日～28日
11	【特別企画】超音波検査業務	○宮地文子	令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会	10月8日～9日
12	遺伝子検査にて種同定を試みたTaenia属条虫の1例	○伊藤彰洋、仲本賢太郎、蒲澤康晃、酒巻尚子、藤上卓馬、寺坂明香、永田篤志、田中浩一	令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会	10月9日
13	当院の血液培養検査における第3世代セファロスポリン系薬耐性菌迅速報告体制	○永田悠起、木村有里、松本美咲、加藤雄大、杉山裕衣、松久保修、田中浩一、川端厚	第71回日本農村医学会学術総会	10月13～14日
14	当院における新型コロナウイルス感染症検査体対策への取り組み	○蒲澤康晃、梅村美穂、寺坂明香、藤上卓馬、酒巻尚子、高嶋幹代、永田悠起、永田篤志、田中浩一	第71回日本農村医学会学術総会	10月13～14日
15	若手技師スキルアップへの道～COVID-19流行下におけるJA愛知厚生連8病院の緊急臨床検査技師取得支援事業～	○加藤雄大、松本美咲、藤上卓馬、小原未華、深津裕雅、二村真歩、山本麻由、伊藤真由美	令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会	10月8日
16	MDS（骨髄異形成症候群）の診断～WHO分類第4版を正しく理解しよう「MDSの理解を深めるための症例3」	○蒲澤康晃	令和4年度日臨技中部圏支部医学検査学会	10月8～9日
17	BNT162bワクチン(Pfizer)初回接種後に発症したGuillain Barre症候群の一例	○林 健太、下竹美由紀、高本智史、近藤 香、棉本友香	第52回日本臨床生理学会 学術大会	11月26日
18	当院における侵襲性GBS感染症の臨床的背景の検討	○加藤雄大、松本美咲、杉山裕衣、松久保修、永田悠起、木村有里、田中浩一	第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2月4日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	第1回輸血検査研究会「血液型について」	松井貴弘	愛知県臨床検査技師会	5月14日
2	緊急臨床検査士WEB講習会「輸血検査」	松崎有希奈	厚生連 臨床検査技師会 教育担当学会議	5月28日
3	緊急臨床検査士WEB講習会「血液検査」	寺坂明香	厚生連 臨床検査技師会 教育担当学会議	5月28日
4	令和4年度愛臨技 新人サポート研修会「尿検査の基礎」	伊藤彰洋	愛知県臨床検査技師会	6月6日
5	緊急臨床検査士 模擬試験「輸血検査の解説」	松崎有希奈	厚生連 臨床検査技師会 教育担当学会議	6月11日
6	緊急臨床検査士 模擬試験「血液検査の解説」	寺坂明香	厚生連 臨床検査技師会 教育担当学会議	6月11日
7	血液検査研究班基礎講座「末梢血液像の見方」	蒲澤康晃	愛知県臨床検査技師会	8月7日
8	日本臨床一般学会 スキルアップ講習会「ケーススタディ」	伊藤彰洋	日本臨床一般学会	8月27日
9	第75回東海エコーカンファレンス「腹部エコー初級編」	藤田啓介	東海エコーカンファレンス	10月16日
10	一般研究班 基礎講座「髄液細胞の算定方法」	伊藤彰洋	愛知県臨床検査技師会	11月13日

11	愛臨技 生理検査研究班 研修会 基礎講座「心臓超音波検査の基礎 実技講師」	藤田啓介	愛知県臨床検査技師会	12月3日
12	第8回三河関節エコー研修会「関節エコー撮像法ガイドラインによる技師間差についての検討」	下竹美由紀	アステラス製薬株式会社	12月10日
13	愛知県臨床検査技師会 血液検査研究班 研究会「令和4年度愛臨技精度管理調査報告」	藤上卓馬	愛知県臨床検査技師会	1月21日～2月11日
14	愛臨技 スキルアップ研修会「高齢者領域の検査解釈」	藤田啓介	愛知県臨床検査技師会	1月29日
15	愛臨技 管理研修会「イクボス養成について（フリーディスカッション）」	田中浩一	愛知県臨床検査技師会	2月1日
16	愛知県臨床検査技師会 微生物検査研究班 研究会「髄膜炎菌 同定と感受性」	加藤雄大	愛知県臨床検査技師会	2月10日
17	愛知県臨床検査 精度管理調査報告会「令和4年度愛臨技精度管理調査報告」	藤上卓馬	愛知県臨床検査技師会	3月12日

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	司会	加藤雄大	緊急臨床検査士 WEB講習会	5月28日
2	司会	加藤雄大	緊急臨床検査士 模擬試験	6月11日
3	座長	藤上卓馬	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
4	座長	藤田啓介	第21回愛知県医学検査学会	7月3日
5	座長	藤井優子	第71回日本農村医学会学術集会	10月13日～14日

リハビリテーション室

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	日付
1	COVID-19重症肺炎患者に早期リハビリ介入を行った1症例	○小川智也	第71回日本農村医学学術総会	10月13日
2	人工膝関節置換術後の歩容改善に視覚的フィードバックが有効であった一症例	○池田実咲	第38回東海北陸理学療法学術大会	10月29日
3	急性期脳卒中患者にknee braceとオルトトップを併用した訓練により歩行獲得した症例	○鈴木祥平, 畑 康夫, 平尾重樹	第38回東海北陸理学療法学術大会	10月29日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	・第10回中日健康フェア「変形性股関節症対策の最新情報」	鈴木祥平	中日新聞	9月17日



臨床工学室

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	3D Mapping 正確性向上のために	○辻川圭亮、金子鎮二、藤田雅也	日本不整脈心電学会学術大会	6月8日
2	当院におけるAbbott社OCTソフトウェアUltreon1.0の活用	○遠藤泉樹、中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、上村夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷 亮太、太田委住、辻川圭亮、佐野公俊、澤田知広、菅 森歩、日焼功貴、木内 優	第46回 CVIT東海北陸地方会	5月28日
3	外来透析患者に対する低栄養評価・管理の取り組み	○木内 優、酒出篤弥、佐野公俊、沖島正幸、兵藤好行、森 茂雄、加藤早絢、倉田久嗣	第67回日本透析医学会学会学術集会総会	7月1日
4	OCTにて病変部性状が詳細に判明した一例	○辻川圭亮、窪田龍二、篠田政典	第47回日本心血管インターベーション治療学会東海北陸地方会	10月22日
5	診療報酬改定からの当院の高気圧酸素療法	○西山和芳、兵藤好行	第56回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会	10月30日
6	S-ICDに特異的な不適切作動により、TV-ICDへ切り替えた一例	○辻川圭亮	日本不整脈心電学会第15回植込みデバイス関連冬季大会	2月1日
7	HD-grideでのMappingによりRotational Activation Patternを特定可能であった一例	○辻川圭亮	第3回日本不整脈心電学会東海・北陸支部地方会	3月25日
8	当院オリジナルのマニュアルを用いたOCT(Ultreon)の活用	○遠藤泉樹	第4回第七世代conference	12月15日
9	急性動脈閉塞に対して血行再建後、腎代謝症候群を発症したCOVID-19陽性患者の1例	○酒出篤弥、佐野公俊、遠藤泉樹、齊藤委住、西山知芳、澤田知広、辻川圭亮、沖島正幸、兵藤好行、倉田久嗣	第33回日本急性血液浄化学会	10月8日
10	当院における低栄養評価・管理への取り組み	○酒出篤弥	第33回東海透析技術交流会学術集会	11月27日
11	当院における重症COVID-19患者に対するCEの関わり	○澤田知広、兵藤好行、沖島正幸、小川正博、酒出篤弥、辻川圭亮、近藤浩史、上村夕貴、西山和芳、谷 亮太、斎藤委住、遠藤泉樹、佐野公俊、木内優菅、森 歩、日焼功貴、手嶋優貴	第32回日本臨床工学会	5月15日
12	当院における内視鏡センター業務のタスクシフト/シェア	○手嶋優貴、西山和芳、木内 優	2022年度一般社団法人愛知県臨床工学技士会第17回学術大会	6月5日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	コメディカルが集中治療領域でエコーを活用してみる	沖島正幸	日本集中治療医学会東海地方会	7月24日
2	ICD基礎 コンセンサスにおける設定	辻川圭亮	愛知県臨床工学技士会不整脈セミナー (ICD基礎編)	10月31日～11月6日
3	法律改正に伴う業務拡大と各施設の取り組み (不整脈関連業務について)	辻川圭亮	愛知県臨床工学技士会	3月13日～22日

4	臨床工学士とは（生体機能装置学概論）	上村夕貴	北陸大学	12月1日
---	--------------------	------	------	-------

会長・司会・座長

	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	月日
1	座長 一般演題	兵藤好行	日本高気圧環境・潜水医学会 東海北陸地方会	7月2日
2	ディスカッサー	辻川圭亮	Biotronik Webinar (CLSのAF予防効果)	10月6日

栄養管理室

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	人生の最期まで食事を楽しめるレシピ集	森 茂雄	一般社団法人日本在宅栄養管理学会	誌上发表
2	誰も教えてくれなかった看取りの栄養ケア	森 茂雄	ニュートリションケア 2022年11月号～2023年3月号	誌上发表
3	私の栄養管理術～実践編～	森 茂雄	New Diet Therapy Vol.38 No.4. 2023	誌上发表

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	早期栄養介入加算算定開始の取り組み	森 茂雄、鈴木祥子	日本栄養改善学会 東海支部学術集会2022	2022.6.5
2	外来栄養食事指導の情報共有によって在宅生活改善に繋がった一例	森 茂雄	第9回日本在宅栄養管理学会	2022.7.18
3	看取りにおける管理栄養士の死亡予測の把握方法	森 茂雄	第9回日本在宅栄養管理学会	2022.7.18
4	外来透析患者に対する低栄養評価・管理の取り組み	木内 優、酒出篤弥、佐野公俊、沖島正幸、兵藤好行、森 茂雄、加藤早絢、倉田久嗣	日本透析医学会、パシフィコ横浜	2022.7.3
5	糖尿病教育入院における指示エネルギー量の現状把握	太田 遥、江口真奈美、脇阪涼子、森 茂雄、鈴木祥子、澤井喜邦	第21回豊田加茂糖尿病研究会	2022.9.3
6	糖尿病教育入院における栄養食事指導の課題～栄養ケアプロセスを用いた観点から～	江口真奈美、太田 遥、脇阪涼子、森 茂雄、鈴木祥子、澤井喜邦	第24回三河内分分泌糖尿病研究会	2022.9.24
7	外来透析患者における栄養スクリーニングの効果	加藤早絢、森 茂雄、鈴木祥子	第71回日本農村医学会	2022.10.13
8	早期栄養介入管理加算実施報告。～早期栄養関連加算取得のtips～	日比祥代、江口真奈美、森 茂雄、鈴木祥子	愛知県急性期病院座談会	2022.10.18
9	適切な食物アレルギー対応のための情報確認ツールの検討	津坂弥生、市川日向子、中島朱希、水野なつみ、江口真奈美、脇阪涼子、森 茂雄、鈴木祥子	愛知県栄養士会実践研究報告会	2023.1.28
10	高度急性期病院の平均在院日数～NST活動と課題～	池田広奈、日比祥代、水野なつみ、久保早絢、寺本 早、太田 遥、脇阪涼子、江口真奈美、森 茂雄	第26回日本病態栄養学会	2023.1.13
11	食物アレルギー情報確認書導入の効果の検証	脇阪涼子、市川日向子、中島朱希、津坂弥生、池田広奈、日比祥代、水野なつみ、江口真奈美、森 茂雄、鈴木祥子	第42回食事療法学会	2023.3.4

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	月日
1	栄養総合演習Ⅰ 臨地実習を受け入れる立場から皆さんに伝えたいこと	森 茂雄	東海学園大学	4月28日
2	オープンキャンパス 卒業生インタビュー	岩本拓郎	愛知学泉大学短期大学部	8月27日
3	高齢者の栄養ケア	森 茂雄	ネスレ日本株式会社 ネスレヘルスサイエンスカンパニー	7月30日
4	ひとり職場の栄養士のためのうまくいく栄養ケアのコツとポイント	森 茂雄	有限会社ステップアップ	8月28日～ 9月11日
5	具体例で理解する栄養士がおこなうべき病棟業務の実際	森 茂雄	有限会社ステップアップ	10月2日～ 1月29日
6	早期栄養介入管理加算について	森 茂雄	大塚製薬工場株式会社 社内研修会	10月27日
7	栄養士の役割と連携	森 茂雄	日本福祉大学中央福祉 専門学校 介護福祉科	12月6日
8	管理栄養士の視点で読み解く摂食嚥下障害への対応	森 茂雄	株式会社 フードケア	1月23日
9	新人教育担当者プログラム	森 茂雄	愛知県厚生連栄養士会 相互啓発研修会	2月4日
10	がんの栄養管理	鈴木祥子	薬剤部勉強会	2月9日

薬剤部

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	ラムシルマブ、ドセタキセル併用療法を受ける非小細胞肺癌患者におけるベグフィルグラスチムの費用対効果	○近藤 有、館 知也、榊原崇芳、加藤 潤、加藤亜季、水野貴仁、三宅芳男、寺町ひとみ	第15回 日本緩和医療薬学年会	5月14～ 15日
2	Cost-effectiveness analysis of olanzapine in four-drug antiemetic therapy in Japanese patients treated with highly emetogenic cisplatin-containing chemotherapy	○近藤 有、館 智也、榊原崇芳、近藤 潤、水野貴仁、三宅芳男、寺町 瞳	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	6月1日
3	迅速PCR法導入が黄色ブドウ球菌菌血症患者に与えるアウトカムの検討	○酒井幹康、鈴木大介、川端 厚、渡口賢隆、駒井博子、永田悠起、三宅芳男	日本化学療法学会雑誌	6月2日
4	Cost-effectiveness analysis of pegfilgrastim in patients with non-small cell lung cancer receiving ramucirumab plus docetaxel in Japan	○近藤 有、館 智也、榊原崇芳、近藤 潤、加藤亜季、水野貴仁、三宅芳男、寺町 瞳	Supportive Care in Cancer	6月14日
5	ナルデメジン導入後の下痢発現とオピオイド投与量の問題	○西村栄輝、近藤 有、三宅芳男	第30回クリニカル ファーマシーシンポジ ウム	7月23日

看護部

著書論文・学会発表

	演題	協同研究者	学会名・雑誌名	月日
1	1章：嚥下障害を見逃さない 2章：運動神経と感覚神経の経路を振り返る	三田洋希（★池田亮：名古屋第2赤十字病院）	3年目からの脳神経外科看護	誌上发表
2	血液製剤における外観検査の～細菌汚染を発見した経験から～	小見山貴代美、佐藤友香、武山 忍、鏡味良豊、木村有里、松井貴弘、山口佳代、泉あかね	第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会	5月28日
3	自己血採取室稼働による貯血環境の変化	小見山貴代美	第1回日本自己血輸血・周術期輸血学会フォーラム	7月2日
4	「ふつうのごはん」は普通じゃない～入院時食形態選択基準について～	松井 都	第71回農村医学会学術総会	10月14日

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	日付
1	「クリティカルケア論」	ICU病棟看護係 中田 隆	日本赤十字豊田看護大学	4月15日
2	「退院調整看護師養成研修」	在宅支援コーディネーター係長 古賀智美	公益社団法人愛知県看護協会	7月8日
3	「退院支援における医療機関との連携に関するセミナー」	在宅支援コーディネーター係長 古賀智美	名古屋市名東区訪問看護ステーション連絡会	8月23日
4	「訪問看護職員養成講習会」	在宅支援コーディネーター係長 古賀智美	公益社団法人愛知県看護協会	9月7日
5	「訪問看護管理者研修（愛知県版）」	訪問看護ステーション長 齋藤靖子	公益社団法人愛知県看護協会	10月15日
6	「訪問看護管理者研修（愛知県版）」	訪問看護ステーション長 齋藤靖子	公益社団法人愛知県看護協会	11月5日

地域医療連携部

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	日付
1	新任者養成研修会 医療費・生活費相談「医療保険について」	医療福祉相談係長 八木隆太	愛知県医療ソーシャルワーカー協会	10月8日
2	あいち医療通訳派遣システム養成講座「公的医療保険と医療機関の仕組み」	医療福祉相談課長 杉村龍也	愛知県	7月31日
3	豊田訪問看護師育成センター がん看護・難病看護分野「急性期病院MSWからみるがん患者・難病患者への支援」	医療福祉相談課長 杉村龍也	豊田訪問看護師育成センター	11月16日

健診

講演会等講師

	講演会名及び演題名	演者	主催	日付
1	関節エコー撮像法ガイドラインによる技師間差についての検討 ～EULAR-OMERACT分類によるスコアリング導入に向けて～	下竹美由紀	三河関節エコー研究会 アステラス製薬（株）	12月10日



2. 院内研修活動

1. 全体講演会・全体発表会

No.	題名	講師	主催部署・主催委員会	開催日
1	第1回Rapid Response System (RRS) 院内研修について	浦安市川医療センター 内藤貴基 看護部 吉田栄里	救命救急センター病棟委員会	2022 9.12～9.30
2	第1回骨粗鬆症に対する知識の共有とFLSの意義について	リハビリテーション室第2課生活機能リハ係長 岩附史明	リハビリテーション室会議	2022 9.20～10.20
3	第1回令和4年度中途採用新人職員研修	-	教育委員会	2022.10.3
4	第24回感染対策委員会全体講演会「感染対策の概論①総論、抗菌薬を大事にしよう！AMRに立ち向かうために」	-	感染対策委員会	2022 10.3～10.28
5	第1回骨粗鬆症に対する知識の共有とFLSの意義について	リハビリテーション室第2課生活機能リハ係長 岩附史明	二次性骨折予防カンファレンスルーム	2022 11.1～11.30
6	第8回医療倫理全体講演会「病院で働く職員に向けた臨床倫理「臨床倫理総論」」	-	治験倫理審査委員会	2022 12.16～12.26
7	第14回医療安全フォーラム「各部署活動内容の閲覧」	-	医療安全対策委員会	2023 1.10～2.10
8	第19回患者サービス向上委員会全体講演会「医療スタッフとしての接客マナーです！」	株式会社MMS 接客インストラクター 菊地みよ子	患者サービス向上委員会	2023 1.23～2.22
9	せん妄時の薬剤について	薬剤部 松田詩乃	認知症サポート委員会	2023 2.1～2.28
10	第14回豊田感染症フォーラム「(1)感染対策の概論②感染経路と感染経路予防策(2)抗菌薬を大事にしよう！AMRに立ち向かうために」	SafetyPlus e-ラーニング研修	感染対策委員会	2023 2.13～3.9
11	第21回保険診療委員会講演会「みんなで学ぼうオンライン資格確認」	医事課 亀山 司	保険診療委員会	2023 2.20～3.3
12	豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC「症例1 救急外来で咯血して死亡した60代男性」「症例2 自宅の駐車場で突然倒れた70代男性」	脳神経内科 糸見百合子 組織管理部長 山下依子 内科 大垣内琢也	内科（地域医療連携課事務局）	2023.3.8
13	第27回豊田がんフォーラム「人間尊重の緩和ケア-その定着を目指して-／神経障害性疼痛と緩和支援医療～シームレスな地域連携を考える～」	北海道大学 名誉教授 石垣靖子 氏 緩和ケア内科代表部長 村松雅人	緩和ケア委員会	2023.3.24
14	第22回保険診療委員会講演会「豊田厚生病院での適時調査」	医事課 柴田雅弘	保険診療委員会	2023 3.6～3.17

2. 研修会・勉強会

No.	題 名	講 師	主催部署・主催委員会	開催日
1	第1回令和4年度新人職員研修	—	教育委員会	2022 4.4~4.5
2	第62回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター 外来委員会	2022.4.23
3	第93回BLS/AED講習会	看護部 宇野由似菜、中山 栞	救命救急センター 外来委員会	2022.6.9
4	第91回令和4年6月薬剤師勉強会	緩和ケア内科代表部長 村松雅人	薬剤部	2022.6.9
5	第165回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター 外来委員会	2022.6.15
6	第1回看護技術研修会「訪問看護について～地域における訪問看護師の役割～」	訪問看護ステーション看護課長 齋藤靖子	地域医療連携課	2022.6.29
7	第2回看護技術研修会「訪問看護について～地域における訪問看護師の役割～」	訪問看護ステーション看護課長 齋藤靖子	地域医療連携課	2022.7.7
8	第62回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター長 小林修一	救命救急センター 外来委員会	2022.7.23
9	第33・34回医療安全全体研修	医療安全e-ラーニング研修	医療安全対策委員会	2022.7.25~8.7 2022.8.8~9.11
10	第92回令和4年6月薬剤師勉強会	医師臨床研修科代表部長兼循環器内 科外来部長 窪田龍二	薬剤部	2022.8.8
11	第3回看護技術研修会「在宅におけるPICC管理について～原理から日常生活の注意点まで～」	クリティカルケア認定看護師 吉田栄里	地域医療連携課	2022.8.10
12	第4回看護技術研修会「在宅におけるPICC管理について～原理から日常生活の注意点まで～」	クリティカルケア認定看護師 吉田栄里	地域医療連携課	2022.9.15
13	第1回虐待対応委員会全体研修会 「虐待への対応について」	—	虐待対応委員会	2022.10.3~ 10.14
14	第5回看護技術研修会「認知症の理解と関わり方について」	認知症認定看護師 石川雅恵	地域医療連携課	2022.10.7
15	第166回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター 外来委員会	2022.10.19
16	第1回情報セキュリティに関する研修「IPA（情報処理推進機構）の映像で知る情報セキュリティ」	—	医療情報係	2022.10.24~ 2023.1.31
17	第1回令和4年度医療放射線安全利用に係わる院内研修会	放射線診断科代表部長 松田 譲	放射線診断科 診療放射線室	2022 10.31~12.16
18	第6回看護技術研修会「認知症の理解と関わり方について」	認知症認定看護師 石川雅恵	地域医療連携課	2022.11.9

No.	題 名	講 師	主催部署・主催委員会	開催日
19	第8回豊田厚生病院がん看護基礎研修会	薬剤部医薬情報室棟業務課長 間瀬 悟 看護課長 古橋美直子、中王子美保 看護係長 吉田栄里、佐藤修秀 古賀智美、稲熊幸子 看護師 藤本 歩、安居 円	がん診療連携推進委員会	2022 11.19・11.20
20	第7回看護技術研修会「自宅・施設で安心して看取るために～すぐに実践に活かせる看取りケア～」	緩和ケア認定看護師 安居 円	地域医療連携課	2022.12.6
21	第93回令和4年12月薬剤師勉強会「透析について」	腎臓内科外来部長 伊藤岳司	薬剤部	2022.12.8
22	第8回看護技術研修会「自宅・施設で安心して看取るために～すぐに実践に活かせる看取りケア～」	緩和ケア認定看護師 安居 円	地域医療連携課	2023.1.11
23	第167回救急症例検討会	救命救急センター長 水野敬輔	救命救急センター外来委員会	2023.1.18
24	第63回豊田厚生病院ICLS講習会	救命救急センター副センター長 中島成隆	救命救急センター外来委員会	2023.1.21
25	第94回令和5年2月薬剤師勉強会「がんの栄養サポート」	栄養管理室長 鈴木祥子	薬剤部	2023.2.9
26	第8回乳腺勉強会（豊田厚生病院第44回地域連携勉強会）	副院長兼外科代表部長兼乳腺外科部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、診療放射線室・臨床検査室・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2023.2.22
27	第96回BLS/AED講習会	看護部 松本亜紀、吉野久美子	救命救急センター外来委員会	2023.3.9

IV 委員会活動

1. 委員会一覧

令和3年3月末現在

名 称	設置 年月日	目的	開催回数
栄養食事委員会(法)(保)	S63.4.1	豊田厚生病院の行う患者の食事療養と及び、賄食に関する必要な事項を検討協議する	4回
治験倫理審査委員会(法)	H9.4.1	委員会は病院長の諮問に応じ、審査の対象とされる治験及び臨床研究等が倫理的及び科学的に妥当であるかを審査することを目的とする。医療の倫理性と患者の人権保護に関する基本的事項を審議及び検討することを目的とする	6回
輸血療法委員会	H10.6.1	「輸血療法の適正化に関するガイドライン」に示された望ましい輸血の管理体制に基づいた適切な輸血療法を推進する（厚生省健康政策局通知健政発第502号、平成元年9月19日制定「輸血療法の適正化に関するガイドライン」）	6回
臓器移植倫理委員会	H14.4.1	医の倫理に基づき検討し、適正に実施する（平成9年法律第104号臓器移植に関する法律（平成9年10月16日施行））	6回
診療録管理委員会(保)	H12.4.20	豊田厚生病院の診療録(電子カルテ含む)および印刷物に関する事項について協議し、診療録の内容の向上と適切な管理を行う	12回
研修管理委員会(法)	H11.5.1	豊田厚生病院および関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理する	3回
臨床研修委員会(法)	H27.4.1	研修医がプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、『患者に適切な医療を提供』できるようになる為に、臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	12回
歯科医師研修管理委員会(法)	H24.4.1	歯科研修医が『歯科医師として患者を全人的な視点に配慮した上で、基本的・総合的な臨床能力を修得し、患者や家族の信頼に応じられる姿勢を身に付ける』ことを主旨として、歯科医師臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	3回
栄養サポート委員会	H15.5.1	入院患者の栄養の評価と栄養改善に関する提言を行い、栄養教育を支援する	11回
褥瘡予防対策委員会	H15.5.1	入院患者の褥瘡の発生の予防をし、既造の褥瘡の治療を集約的に行う	6回
摂食・嚥下推進委員会	H16.4.1	豊田厚生病院における摂食・嚥下障害を有する患者の機能評価および機能回復の推進に関する事項について協議する	12回
クリニカルパス委員会	H11.8.6	医療資源の効率的な活用と医療の質の向上を図り、クリニカルパスの作成とその運用についての協議を行い、病院の発展に寄与する	12回
化学療法委員会	H15.10.17	豊田厚生病院の化学療法の安全かつ適正な運用を図り、診療内容の向上に寄与する	12回

診療関連

名 称		設置 年月日	目的	開催回数
診療関連	緩和ケア委員会	H16.4.1	患者のQOLに配慮して様々な苦痛や症状の緩和を図ることを検討し、緩和医療の適応基準や緩和プログラムの具体的な支援について協議する	12回
	がんゲノム医療委員会	R1.10.1	がんゲノム医療に関する検査について、運用の構築や提供体制の整備を図るとともに、検査の実施や進捗状況を管理する	20回
	がん診療連携推進委員会	H19.4.1	患者や家族の相談にあたる他、がんに関する専門的、学術的または総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上、その他、がん医療を提供する体制の整備を図る	6回
	電子カルテ運用委員会	H20.2.1	豊田厚生病院における医療情報システムを円滑に運用する	6回
	認知症サポート委員会	H28.10.1	認知症の容態に応じた適時・適切な医療を提供するため、職員へ認知症患者のサポートに関する提言を行い、認知症対応能力の向上を目的とする	6回
教育・広報	教育委員会	H15.4.1	職員の知識および患者サービス向上を目的とする	6回
	ボランティア委員会	H6.4.1	職員とボランティアの協議により、地域の人たちのための病院づくりの活動をする	6回
安全管理関連	防災対策委員会(法)	H1.4.1	地震・火災・その他の災害が発生した場合に人的、物的被害を最小限に防止するため防災管理対策を徹底することを目的とする。また、災害拠点病院として常に行動できるよう調整する。	8回
	医療ガス安全管理委員会(法)	H2.4.1	医療ガス(医療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する	1回
	廃棄物管理委員会(法)	H10.8.1	病院としての特殊性に鑑み、廃棄物処理法及び廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルに従って、主として感染性廃棄物を中心に、加えて一般廃棄物および産業廃棄物について、厚生連廃棄物処理規程に基づき必要な事項を定め、適正な処理を確保し、もって生活環境の保全及び公衆衛生の向上、推進を図る	1回
	感染対策委員会(保)	H3.4.1	豊田厚生病院における院内感染防止に関する事項について協議し、感染対策を立案、実施する	12回
	医療安全対策委員会(保)	H12.4.1	医療事故・再発防止・対策などを検討及び具体化して、患者に安全で質の高い医療を提供する	12回
	医療事故防止対策委員会	H14.4.1	重大な医療事故への具体的対応を行い、併せて再発防止策を検討し、患者に安心と安全な診療を提供する	1回
	虐待対応委員会	H12.11.1	この委員会は、子ども虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者暴力(DV)の予防及び早期発見と被虐待児、被虐待者の救済を目的とする	6回
	透析機器安全管理委員会(保)	H22.4.1	血液浄化療法を安全に運用するため、関連機器の管理ならびに使用する透析液水質管理をする	3回
	コンプライアンス委員会	H25.4.1	この委員会は、コンプライアンスに関する意識の向上とコンプライアンス態勢の確立を図ることを目的とする	5回
	業務改善	患者サービス向上委員会	H13.2.6	医療はサービス業であるとの認識を持って患者により良いサービスを提供する
業務分担推進委員会		H24.4.1	病院勤務医、看護職員・負担の軽減及び処遇の改善を検討することを目的とする	3回



	名 称	設置 年月日	目的	開催回数
経営関連	薬 事 委 員 会	S55.4.22	医薬品その他薬品の管理、適正使用、医療内容の向上および病院経営の発展に寄与する	6回
	医 療 材 料 委 員 会	H16.4.1	医療材料・検査試薬の管理及び適正合理化を図り、医療内容の向上、病院経営の発展に寄与する	6回
	購 買 委 員 会	H8.12.12	事業年度における固定資産枠内取得品目の選定を適正かつ円滑に行う	1回
	保 険 診 療 委 員 会	H12.4.1	診療報酬の効率的な算定、返戻・査定減に関する事項、DPCの運用、適切なコーディングに関する事項および病床管理について協議を行い、病院診療の運営に寄与する	6回
各部門運営関連	放 射 線 安 全 委 員 会 (法)	S60.10.1	法律に基づき、放射線発生装置の取扱いによる放射線障害の発生を防止すると共に、公共の安全を確保する	1回
	中央放射線部運営委員会	H13.6.1	中央放射線部の適正な活用と質の向上を目的とし、その運営について協議し、病院の発展に寄与する	6回
	臨床検査運営委員会(保)	H12.4.1	臨床検査の適正な活用と臨床検査の質の向上を目的とする	6回
	救命救急センター外来委員会	H15.4.8	救命救急センター外来に係る諸問題を検討し、円滑な救急医療ができる体制を整える	12回
	救命救急センター病棟委員会	H15.4.1	豊田厚生病院におけるICU・HCUの利用状況を把握し、問題点などを検討及び協議する	6回
	中央手術室運営委員会	H14.4.1	手術室の運営に関わる諸問題を検討し、円滑な手術室の運営ができる体制を整える	6回
	外 来 運 営 委 員 会	H20.9.26	外来の運営に関わる諸事項を検討し、円滑な外来診療ができる体制を整える	6回
	入退院支援センター運営委員会	H24.8.1	入退院支援センターの円滑な運営に資する	12回
	供 給 委 員 会	H27.10.1	豊田厚生病院における薬品、医療材料及び物品の適正な供給と管理を目的とする	6回
職員関連	安 全 衛 生 委 員 会 (法)	H1.4.1	豊田厚生病院における職員の安全と健康を確保し、業務の向上と円滑な遂行を図る	12回
	保 育 委 員 会 (法)	H5.4.1	愛知県健康性農業協同組合連合会 保育所管理要領第4条第3項の規程に基づき、院内保育所、病児保育室、小児病棟、その他附帯する業務の円滑な運営を行う	6回
	総 務 委 員 会 (法)	H10.4.1	愛知県厚生農業協同組合連合会の規程改訂及び病院業務運営の改善向上に関する意見を集約し病院長に具申する	2回
	厚 生 委 員 会	H10.8.1	職員の親睦ならびに資質の向上と、健全明朗な環境を作り上げ、豊田厚生病院の繁栄に寄与する	12回
	人事考課制度推進委員会	H12.4.1	事業所における人事考課制度の実施・推進を目的とし、人事考課制度の円滑な運用を図る	2回
	看護職確保対策委員会	H25.4.1	看護職の確保に係ることについて検討することを目的とする	12回

(法)：法律に基づく設置

(保)：診療報酬に基づく設置

豊田厚生病院 令和4年度年報

2023年10月 発行

発行・編集 愛知県厚生農業協同組合連合会
豊田厚生病院

〒470-0396

愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL (0565)43-5000

印刷部数 260部

印刷 ニチモウ印刷株式会社



JA 愛知厚生連

豊田厚生病院

TOYOTA KOSEI HOSPITAL